

参考資料

- ▶ 1 横浜市保健医療協議会運営要綱
- ▶ 2 よこはま保健医療プラン策定検討部会設置要綱
- ▶ 3 横浜市民の医療に関する意識調査



横浜市保健医療協議会運営要綱

制 定 平成24年3月22日健企第399号（局長決裁）

最近改正 平成27年3月26日健企第352号（局長決裁）

（趣旨）

第1条 この要綱は、横浜市附属機関設置条例（平成23年12月横浜市条例第49号）第4条の規定に基づき、横浜市保健医療協議会（以下「協議会」という。）の組織、運営その他必要な事項について定めるものとする。

（担当事務）

第2条 横浜市附属機関設置条例第2条第2項に規定する協議会の担任する事務の細目については、次に掲げるものとする。

(1) 横浜市の保健、医療及び生活衛生施策の計画及び評価に関すること。

（委員）

第3条 委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

(1) 学識経験者

(2) 保健医療福祉関係団体の代表者等

(3) 前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

2 委員の任期は、2年以内とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

4 委員の代理は、認めないものとする。

（臨時委員）

第4条 委員会に、保健、医療及び生活衛生施策に関する事項を調査審議させるため必要があるときは、臨時委員若干人を置くことができる。

2 臨時委員は、次に掲げる者のうちから市長が任命する。

(1) 学識経験者

(2) 保健医療福祉関係団体の代表者等

(3) 前各号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

3 臨時委員は、第1項の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されたものとする。

（会長）

第5条 協議会に会長および副会長をそれぞれ1人置く。

2 会長は、委員の互選によりこれを定め、副会長は、会長が指名する。

3 会長は、協議会を代表し、会務を掌理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、必要に応じ会長が招集する。

2 会長は、協議会の会議の議長とする。

3 協議会は、委員(議事に関係のある臨時委員を含む。次項において同じ。)の過半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

4 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、会長の決するところによる。

(部会及び専門委員会)

第7条 協議会に、専門の事項を協議させる必要があるときは、部会及び専門委員会(以下「部会等」という。)を置くことができる。

2 部会等は、協議会の委員、臨時委員、及び関係団体の代表等のうちから、会長が指名する者をもって組織する。

3 部会等は、当該専門事項に関する協議が終了したときは解散するものとする。

4 部会等は、部会長を1人置き、会長が指名する。

5 部会等は、会長の指示に応じ部会長が招集する。

6 協議会で了承が得られた場合は、部会等の議決をもって協議会の議決とすることができる。

7 第6条の規定は、部会等の会議について準用する。この場合において、同条中の「会長」とあるのは「部会長」と、「委員」とあるのは「部会等の委員」、「臨時委員」とあるのは「部会等の臨時委員」と読み替えるものとする。

(会議の公開)

第8条 横浜市の保有する情報の公開に関する条例(平成12年2月横浜市条例第1号)第31条の規定により、協議会の会議(部会等の会議を含む。)については、一般に公開するものとする。ただし、委員の承諾があれば、会議の一部又は全部を非公開とすることができる。非公開とする場合は、傍聴人を会場から退去させるものとする。

(意見の聴取等)

第9条 会長又は部会長は、協議会又は部会等の会議の運営上必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

(所管)

第10条 協議会は、医療局及び健康福祉局の共管とする。ただし、協議会に関する「附属機関の開催状況報告」は、医療局が行う。

(庶務)

第11条 協議会の庶務は、健康福祉局企画部企画課において処理する。平成28年4月1日から、医療局医療政策部医療政策課において処理する。

(委任)

第12条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成8年7月15日制定の「横浜市保健医療協議会設置要綱」は平成24年3月31日をもって廃止する。

(経過措置)

- 3 この要綱の施行後最初の協議会の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する

よこはま保健医療プラン策定検討部会設置要綱

制 定 平成24年5月1日

最近改正 平成28年8月15日

(趣旨)

第1条 この要綱は、保健医療分野を中心とした施策を総合的に体系づけた中期的な指針となる「よこはま保健医療プラン」の策定にあたり、専門の事項を協議するため、横浜市保健医療協議会運営要綱第7条第1項に基づく部会として、よこはま保健医療プラン策定検討部会（以下「部会」という。）を置き、部会の運営その他必要な事項について定めるものとする。

(内容)

第2条 部会は、次の事項について協議を行うものとする。

- (1) 「よこはま保健医療プラン」の策定
- (2) その他必要な事項

(構成)

第3条 部会は、横浜市保健医療協議会（以下「協議会」という。）の委員、臨時委員及び関係団体の代表等のうちから、協議会会長が指名する者をもって組織する。

(部会長)

第4条 部会は、部会長を1人置き、協議会会長が指名する。

(会議)

第5条 部会の会議は、協議会会長の指示に応じ部会長が招集する。

(会議の公開)

第6条 横浜市の保有する情報の公開に関する条例（平成12年2月横浜市条例第1号）第31条の規定により、部会の会議については、一般に公開するものとする。ただし、委員の承諾があれば、会議の一部又は全部を非公開とすることができる。非公開とする場合は、傍聴人を会場から退去させるものとする。

(意見の聴取等)

第7条 部会長は、会議の運営上必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

(解散)

第8条 部会は、「よこはま保健医療プラン」の策定終了をもって、解散するものとする。

(庶務)

第9条 部会の庶務は、医療局医療政策部医療政策課において処理する。

(委任)

第10条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が部会の会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成24年5月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成28年8月15日から施行する。

横浜市民の医療に関する意識調査

平成29年3月

横浜市医療局

横浜市民の医療に関する意識調査

調査概要

1 調査の目的

市民が、自分や家族が医療機関を受診する際に、どのように情報を得て、何を基準に医療機関を選択しているのか、医療に関してどのようなことを知りたいのか、どのような医療の充実を望んでいるのかなどを把握し、横浜市の医療施策に役立てるために行ったものである。

2 調査の概要

調査対象 20歳以上の横浜市民3,000人（外国籍を含む）
 調査期間 平成28年12月15日から平成29年1月15日
 調査方法 郵送配布・郵送回収
 回収数 1,374票（回収率 45.8%）
 有効回答数 1,351票（有効回答率 45.0%）（外国籍1票含む）

3 集計・分析結果を読む際の注意点

- ① 図（グラフ）の中で使用されているアルファベットの意味は次の通り。
 n：その設問に対する回答者数
- ② 回答の比率（全て百分率（%）で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、全ての比率を合計すると100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。

※クロス集計表の見方

濃いグレーの塗りつぶし：選択肢の中で第1位の項目については濃いグレーで塗りつぶしている。
 薄いグレーの塗りつぶし：属性別にみて、市全体の数値と比べてかなり高い（概ね10ポイント以上）数値の項目については薄いグレーで塗りつぶして特記している。

※本文中の2007年調査・2012年調査とは、それぞれお平成19年4月・平成24年8月に行った医療に関する市民意識調査を示す。

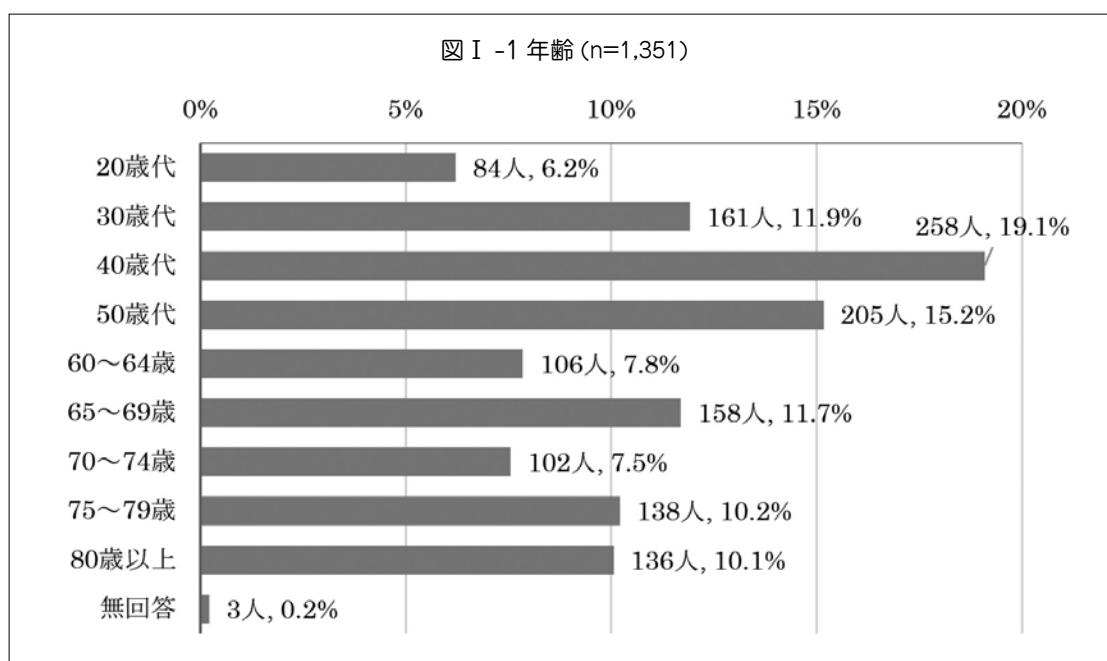
※統計の数値を考察するにあたり、次の表現を用いている。

（数値例）	（表現）	（数値例）	（表現）
80.1～80.9%	⇒ 約8割	86.1～87.9%	⇒ 8割台半ばを超え
81.0～82.9%	⇒ 8割強	88.0～88.9%	⇒ 9割近く
83.0～84.9%	⇒ 8割台半ば近く	89.0～89.9%	⇒ 9割弱
85.0～85.9%	⇒ 8割台半ば		

I. 回答者の属性（基礎項目）

問1 年齢

- 最も多いのは40代の19.1%、最も少ないのは20代の6.2%である。



<年齢別>

- 横浜市の人口（住民基本台帳に記載された人口（平成28年9月末現在、20歳未満を除く））における年齢別の構成と比較すると、20代、30代を中心に若い世代での回答率が低く、高齢層では回答率が高い傾向にあり、基本台帳に記載された人口構成比に比べて回答率構成比が最も高いのは75～79歳、最も低いのは20歳代となっている。

表 I -1 年齢別構成（横浜市人口との比較）

	アンケート回答数 (注1)	住民基本台帳に 記載された人口 H28年9月末(注2)	アンケート回答数 構成比	住民基本台帳に 記載された人口構成比
20歳代	84人	395,024人	6.2%	12.8%
30歳代	161人	488,773人	11.9%	15.8%
40歳代	258人	639,447人	19.1%	20.7%
50歳代	205人	477,162人	15.2%	15.5%
60～64歳	106人	206,181人	7.9%	6.7%
65～69歳	158人	263,438人	11.7%	8.5%
70～74歳	102人	199,851人	7.6%	6.5%
75～79歳	138人	172,916人	10.2%	5.6%
80歳以上	136人	244,255人	10.1%	7.9%
全体	1,348人	3,087,047人	100.0%	100.0%

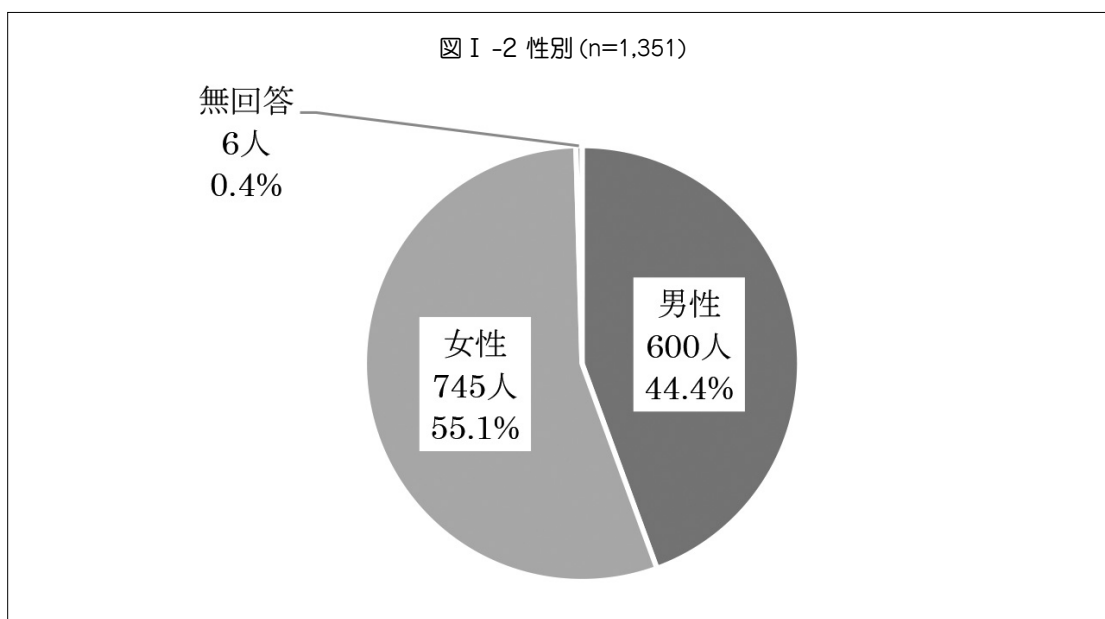
注1) 無回答(3件)を除く

注2) 20歳未満を除く

出展) 横浜市ポータルサイト「登録者数」より作成(住民基本台帳データ)

問2 年齢

- 男性が44.4%、女性が55.1%で、女性の方が10.7ポイント高くなっている。



<年齢別>

- 横浜市の人口（住民基本台帳に記載された人口（平成28年9月末現在、20歳未満を除く））における性別の構成と比較すると、住民基本台帳に記載された人口の構成比では男性が49.4%、女性が50.6%であるのに対し、当調査回答数の構成比は男性44.4%、女性55.1%となっており、女性が回答している割合が高くなっている。

表 I -2 男女別構成（横浜市人口との比較）

	アンケート回答数 (注1)	住民基本台帳に 記載された人口 H28年9月末(注2)	アンケート回答数 構成比	住民基本台帳に 記載された人口構成比
20歳代	84人	395,024人	6.2%	12.8%
30歳代	161人	488,773人	11.9%	15.8%
40歳代	258人	639,447人	19.1%	20.7%
50歳代	205人	477,162人	15.2%	15.5%
60～64歳	106人	206,181人	7.9%	6.7%
65～69歳	158人	263,438人	11.7%	8.5%
70～74歳	102人	199,851人	7.6%	6.5%
75～79歳	138人	172,916人	10.2%	5.6%
80歳以上	136人	244,255人	10.1%	7.9%
全体	1,348人	3,087,047人	100.0%	100.0%

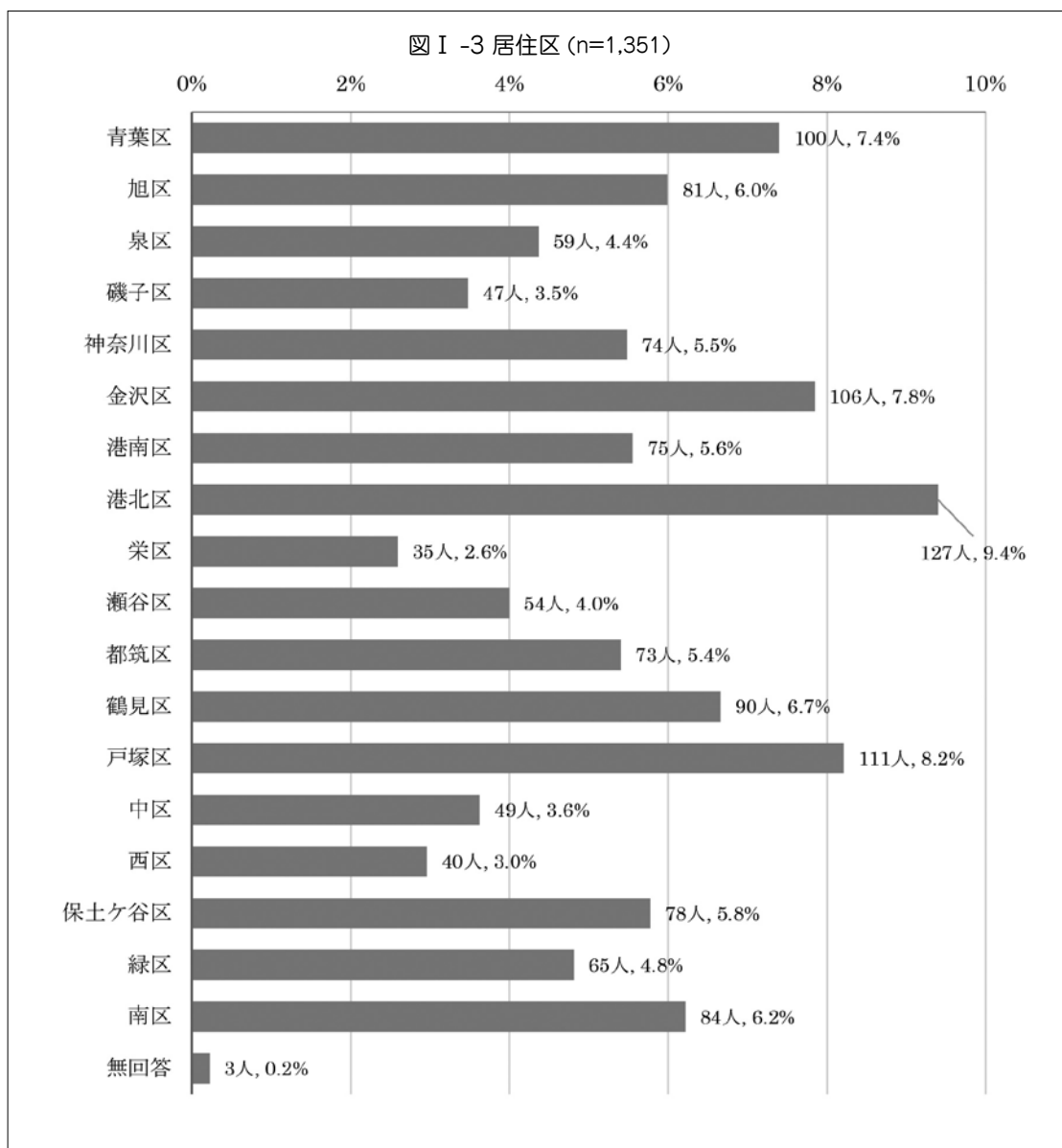
注1) 無回答(3件)を除く

注2) 20歳未満を除く

出展) 横浜市ポータルサイト『登録者数』より作成(住民基本台帳データ)

問3 居住区

- 最も多いのは「港北区」(9.4%)で、これに「戸塚区」(8.2%)、「金沢区」(7.8%)、「鶴見区」(6.7%)、「南区」(6.2%)が続く。最も少ないのは「栄区」(2.6%)である。



<区別>

- 横浜市の区別人口（住民基本台帳に記載された人口（平成28年9月末現在、20歳未満を除く））における地域別の構成と比較すると、推計人口構成比に比べて回答数構成比が最も低いのは栄区、最も高いのは港北区であるが、住民基本台帳に記載された人口構成比との差は金沢区が2.5ポイント高く、港南区が1.7ポイント低かったが、その他は±1ポイント以内であった。

表 I -3 区別構成（横浜市人口との比較）

	アンケート回答数 (注1)	住民基本台帳に 記載された人口 H28年9月末(注2)	アンケート回答数 構成比	住民基本台帳に 記載された人口構成比
青葉区	100人	248,335人	7.4%	7.9%
旭区	81人	206,918人	6.0%	6.6%
泉区	59人	127,473人	4.4%	4.1%
磯子区	47人	140,969人	3.5%	4.5%
神奈川区	74人	198,238人	5.5%	6.3%
金沢区	106人	167,976人	7.9%	5.4%
港南区	75人	227,970人	5.6%	7.3%
港北区	127人	282,996人	9.4%	9.0%
栄区	35人	101,650人	2.6%	3.2%
瀬谷区	54人	102,489人	4.0%	3.3%
都筑区	73人	163,483人	5.4%	5.2%
鶴見区	90人	238,996人	6.7%	7.6%
戸塚区	111人	225,613人	8.2%	7.2%
中区	49人	129,004人	3.6%	4.1%
西区	40人	83,885人	3.0%	2.7%
保土ヶ谷区	78人	172,278人	5.8%	5.5%
緑区	65人	146,303人	4.8%	4.7%
南区	84人	170,252人	6.2%	5.4%
全体	1,348人	3,134,828人	100.0%	100.0%

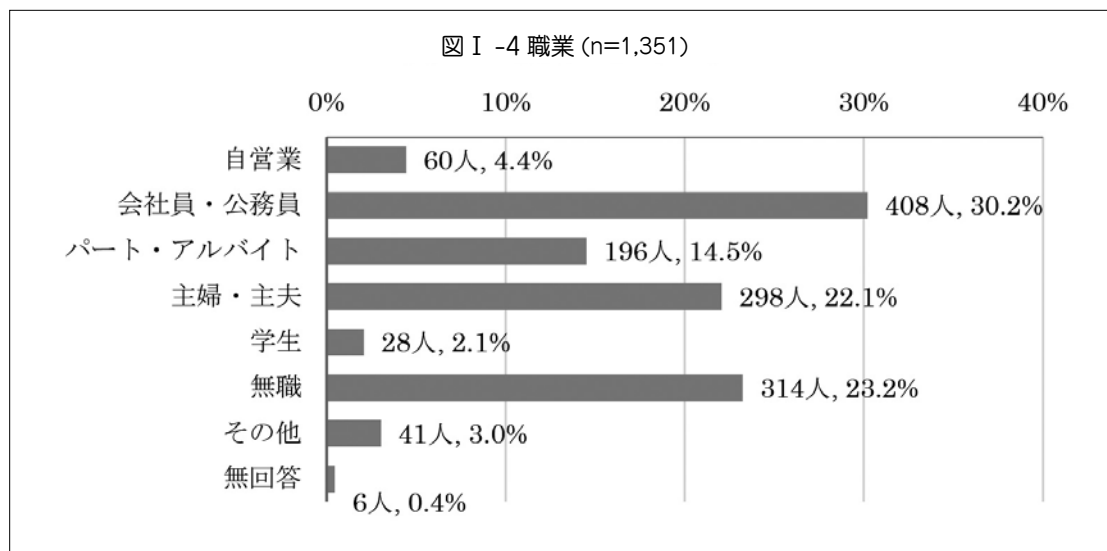
注1) 無回答(3件)を除く

注2) 20歳未満を除く

出展) 横浜市ポータルサイト『登録者数』より作成(住民基本台帳データ)

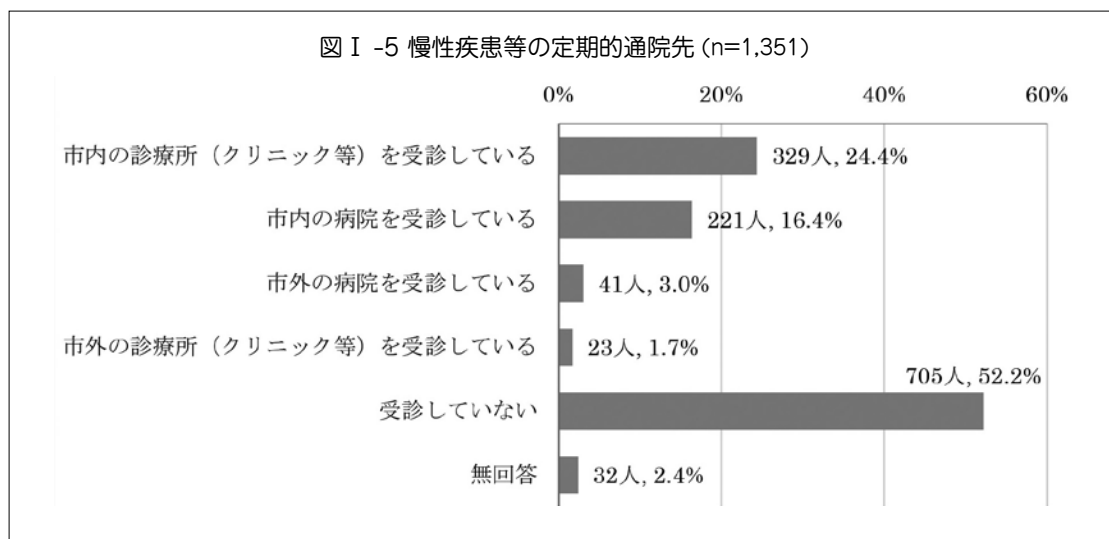
問4 職業

- 「会社員・公務員」が30.2%、次いで「無職」(23.2%)、「主婦・主夫」が22.1%でほぼ並ぶ。以下「パート・アルバイト」(14.5%)、「自営業」(4.4%)、「その他」(3.0%)、「学生」(2.1%)の順である。

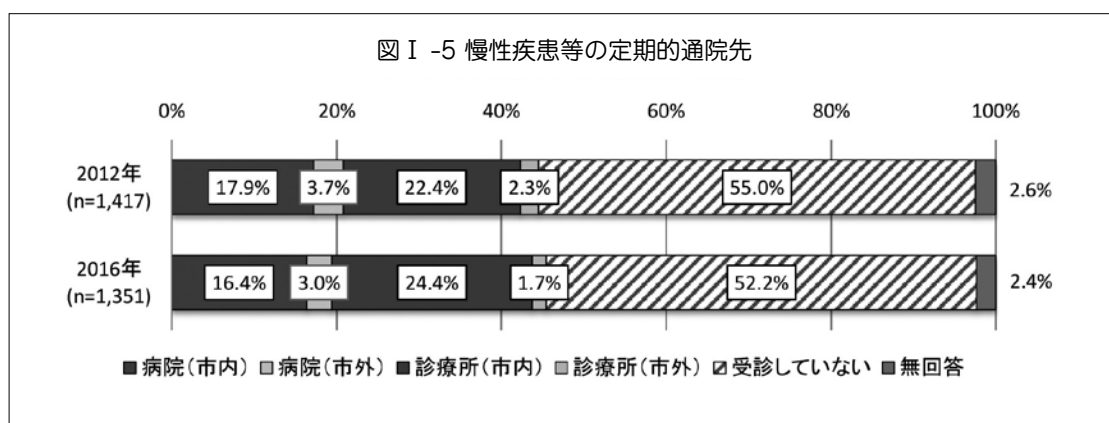


問5 慢性的な病気の治療や薬の処方を受けるため、病院又は診療所の定期的な受診

- 現在の受診状況を聞いたところ、「受診していない」が最も多く52.2%、次いで「市内の診療所（クリニック等）を受診している」が24.4%、「市内の病院を受診している」が16.4%となっている。以下「市外の病院を受診している」（3.0%）、「市外の診療所（クリニック等）を受診している」（1.7%）と続く。



- 現在の受診状況を2012年調査と比較をしてみると、「診療所（市内）」が2.0ポイント上がっている。



用語解説

○ 診療所（クリニック等）

入院用のベッドを持たない又は20床未満のベッドを有し、主に日常の健康管理や比較的軽症の医療、必要時の専門医療機関への紹介等を行うための医療機関のこと

○ 病院

20床以上の入院用のベッドを有し、主に入院治療や手術を行うための医療機関のこと

II. 調査結果

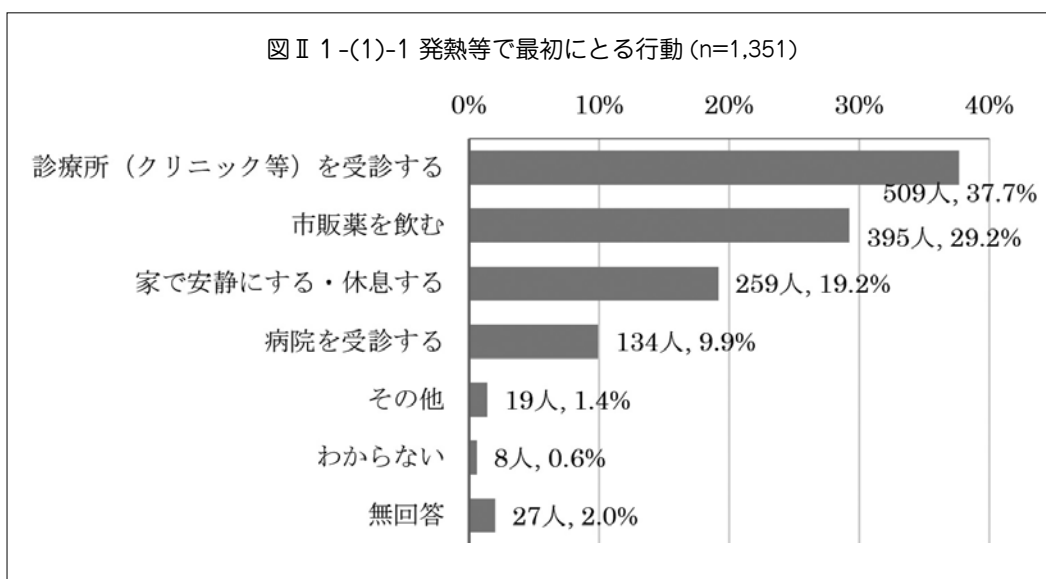
1. 発熱やのどの痛みなどの比較的軽い症状の時の考え方や行動について

(1) 発熱等で最初にとる行動

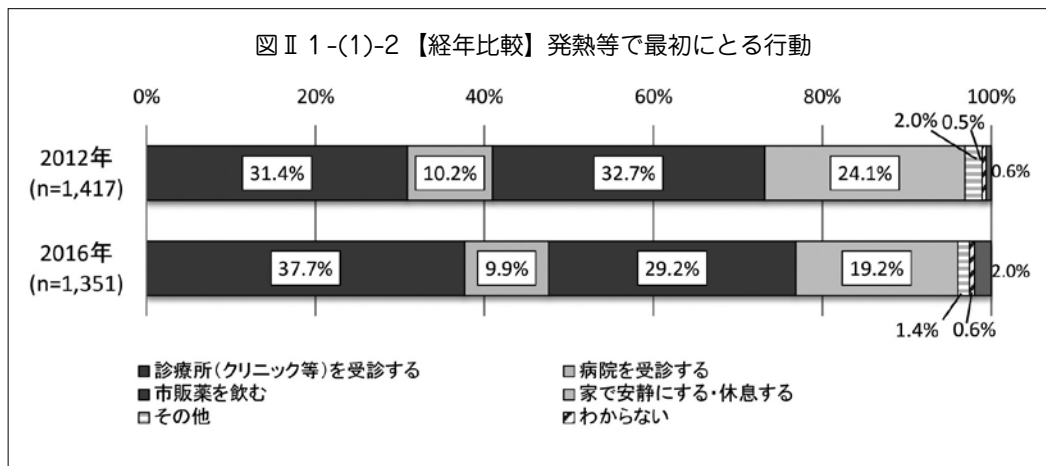
「診療所（クリニック等）を受診する」の割合が3割台半ば超え

問6 あなたが、発熱（38度前後）やのどの痛みなどで心身の具合が悪いとき、最初に、あなたはどのような行動をとることが多いですか。

- 比較的に軽い症状の時に最初にとる行動を聞いたところ、「診療所（クリニック等）を受診する」が37.7%と最も多く、次いで「市販薬を飲む」（29.2%）、「家で安静にする・休息する」（19.2%）、「病院を受診する」（9.9%）の順となっている。



- 発熱等で最初にとる行動を2012年調査と比較をしてみると、「診療所（クリニック等）を受診する」の割合が2012年調査に比べて6.3ポイント上がり、「家で安静にする・休息する」が4.9ポイント、「市販の薬を飲む」が3.5ポイント、「病院を受診する」が0.3ポイント下がっている。

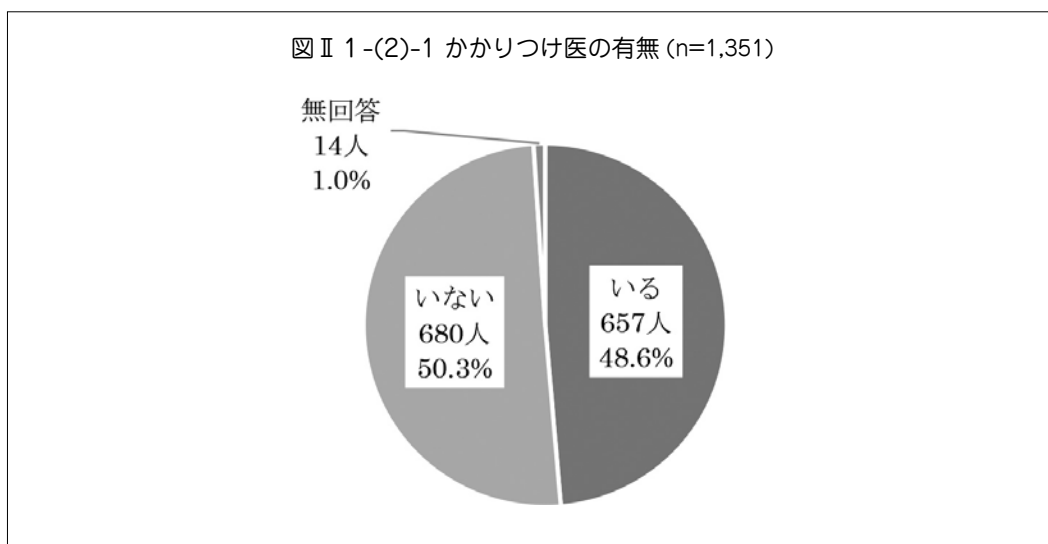


(2) かかりつけ医の有無

かかりつけ医が「いる」割合が5割近く、「いない」割合が約5割

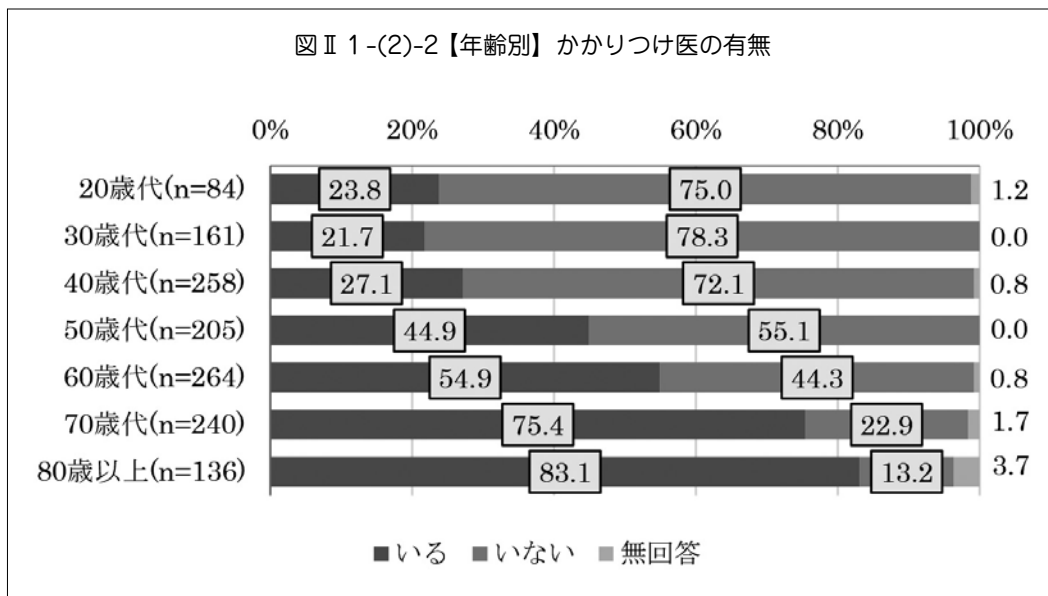
問7 あなたには、あなたの心身の状態をわかっていて、治療だけでなく日常の健康管理や相談ができる医師（かかりつけ医）がいますか。

- かかりつけ医の有無を聞いたところ、「いる」が48.6%で5割近く、「いない」が50.3%で約5割となっている。



<年齢別>

- かかりつけ医の有無を年代別に比較してみると、かかりつけ医がいると回答した人は、20歳代(23.8%)、30歳代(21.7%)では割合が低く、高齢になるにつれ70歳代(75.4%)、80歳以上(83.1%)と割合が高くなっている。

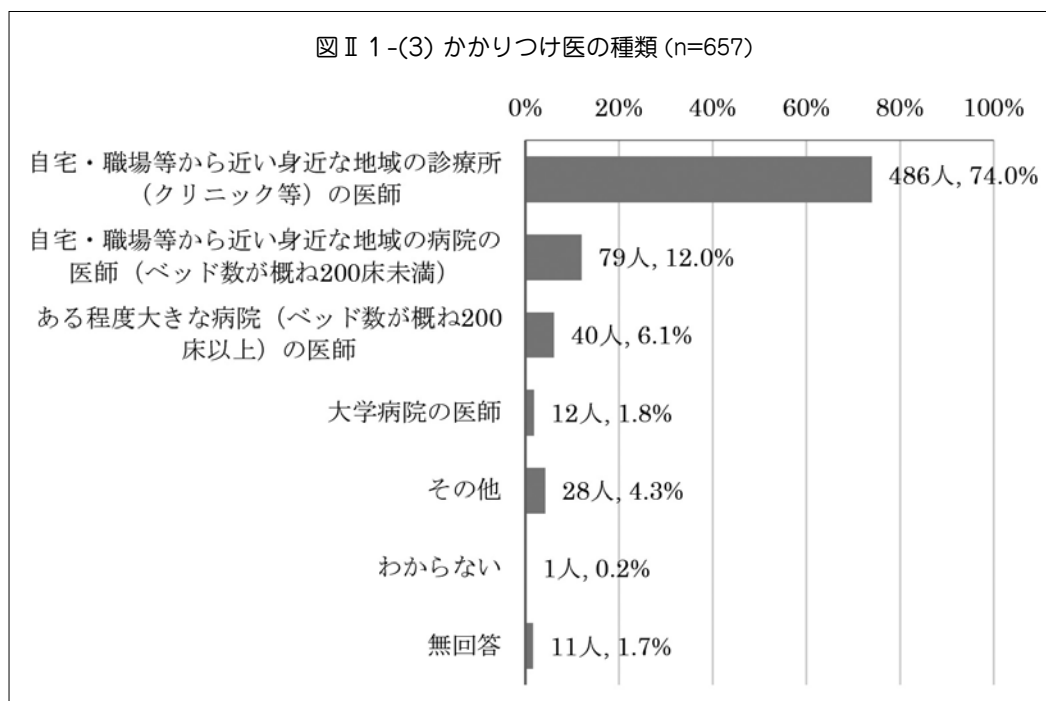


(3) かかりつけ医の種類

「自宅・職場等から近い身近な地域の診療所（クリニック等）の医師」の割合が7割台半ば近く

問8 問7で「1. いる」に○をつけた方。
あなたのかかりつけ医は次のどれですか。

- 問7でかかりつけ医が「いる」と答えた方に、その種類を聞いたところ、「自宅・職場等から近い身近な地域の診療所（クリニック等）の医師」（74.0%）が7割台半ば近くで最も高い割合を示し、「自宅・職場等から近い身近な地域の病院の医師（ベッド数が概ね200床未満）」（12.0%）、「ある程度大きな病院（ベッド数が概ね200床以上）の医師」（6.1%）、「大学病院の医師」（1.8%）の順となっている。

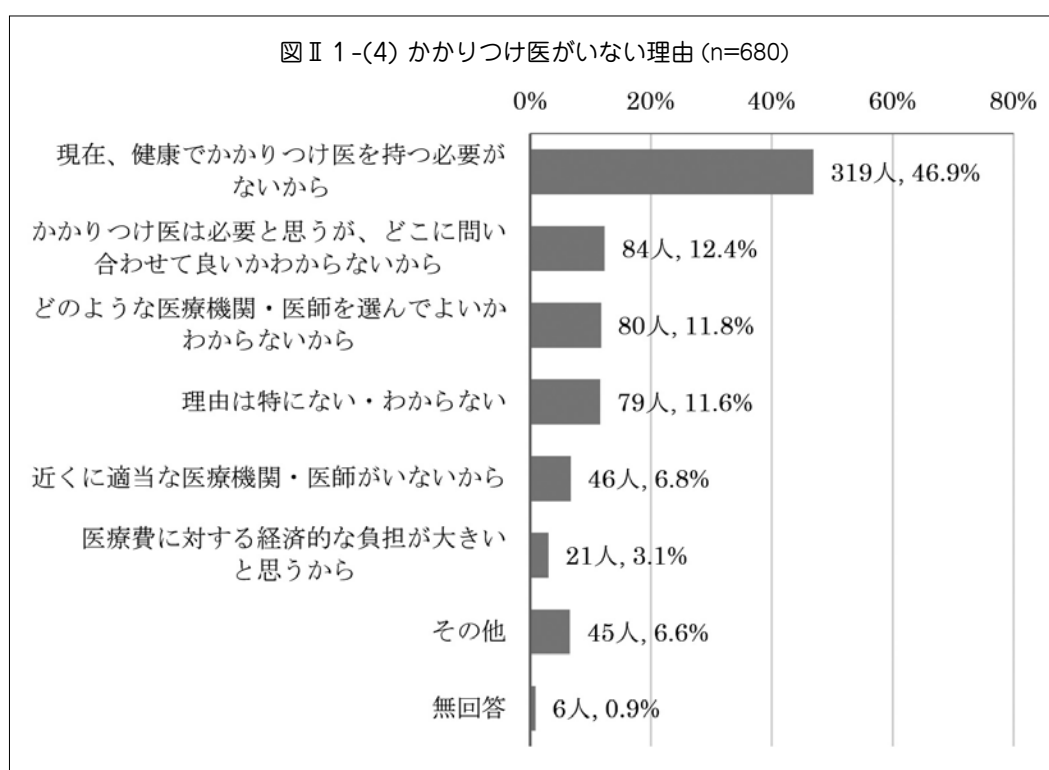


(4) かかりつけ医がない理由

「現在、健康でかかりつけ医を持つ必要がないから」の割合が4割台半ば超え

問9 問7で「2. いない」に○をつけた方。 かかりつけ医がない理由は何ですか。

- 問7でかかりつけ医が「いない」と答えた方に、かかりつけ医がない理由を聞いたところ、「現在、健康でかかりつけ医を持つ必要がないから」(46.9%)が4割台半ばを超えて最も割合が高く、次いで「かかりつけ医は必要と思うが、どこに問い合わせが良いかわからないから」(12.4%)、「どのような医療機関・医師を選んでよいかかわからないから」(11.8%)、「理由は特にない・わからない」(11.6%)がそれぞれ1割強と続き、以下、「近くに適切な医療機関・医師がないから」(6.8%)、「医療費に対する経済的な負担が大きいと思うから」(3.1%)の順となっている。



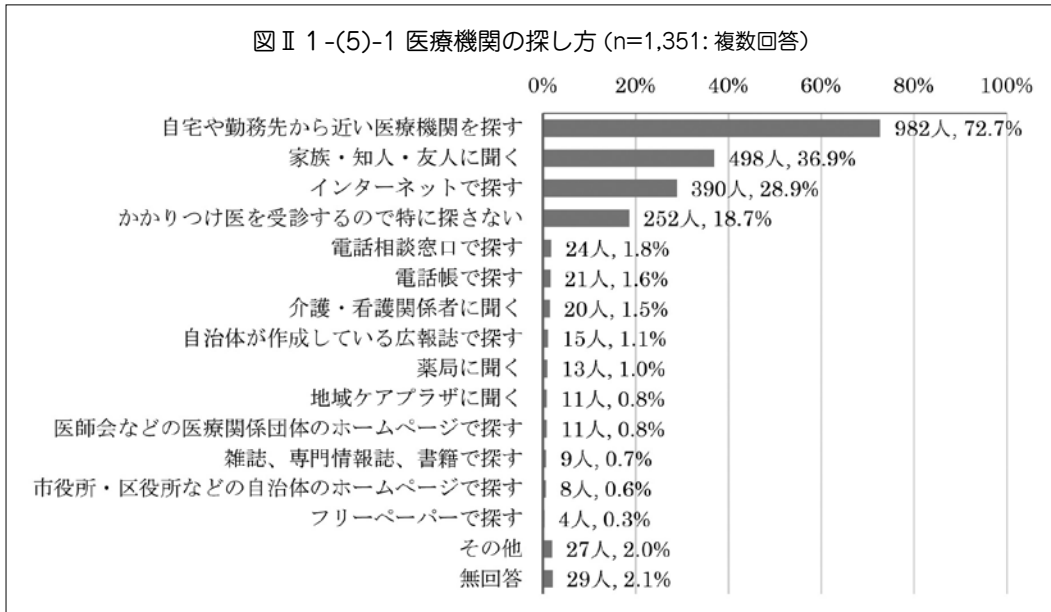
(5) 医療機関の探し方

「自宅や勤務先から近い医療機関を探す」の割合が7割強

問10 問7で「2. いない」に○をつけた方。

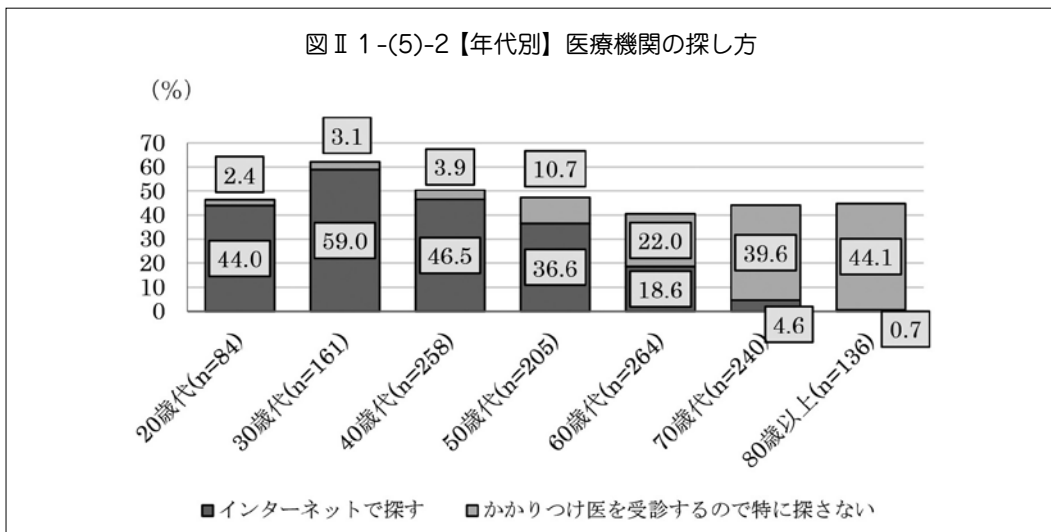
かかりつけ医がない理由は何ですか。(複数回答(2つまで)可)

- 医療機関の探し方を聞いたところ、「自宅や勤務先から近い医療機関を探す」(72.7%)が7割強で最も割合が高く、次いで「家族・知人・友人に聞く」(36.9%)、「インターネットで探す」(28.9%)、「かかりつけ医を受診するので特に探さない」(18.7%)と続き、その他の方法・手段については、どれも1割前後と少なかった。



<年齢別>

- かかりつけ医の有無を年齢別に比較をしてみると、若い年齢層では「インターネットで探す」割合が高く、高齢になるにつれて「インターネットで探す」割合が減少し、「かかりつけ医を受診するので特に探さない」割合が高くなっている。

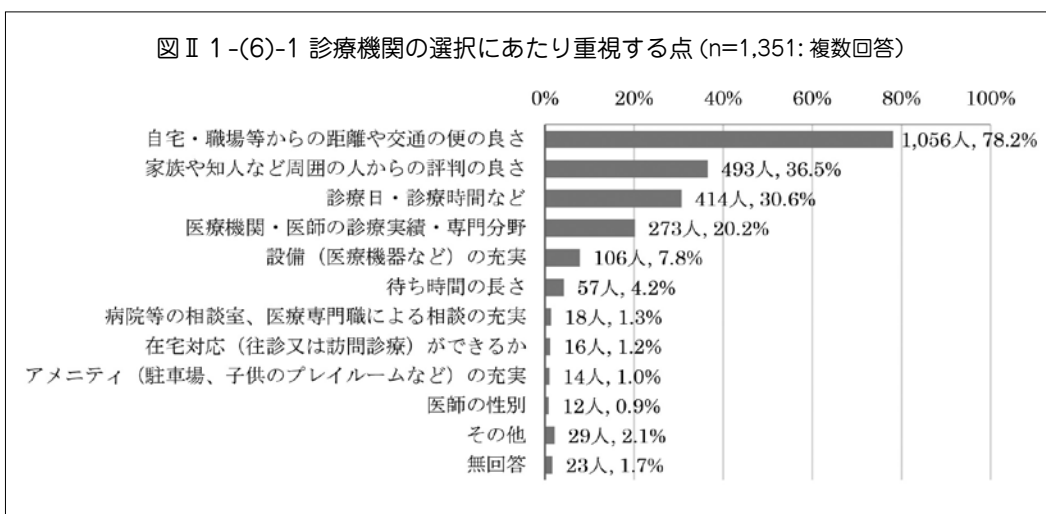


(6) 診療機関の選択にあたり重視する点

「自宅・職場等からの距離や交通の便の良さ」の割合が約8割

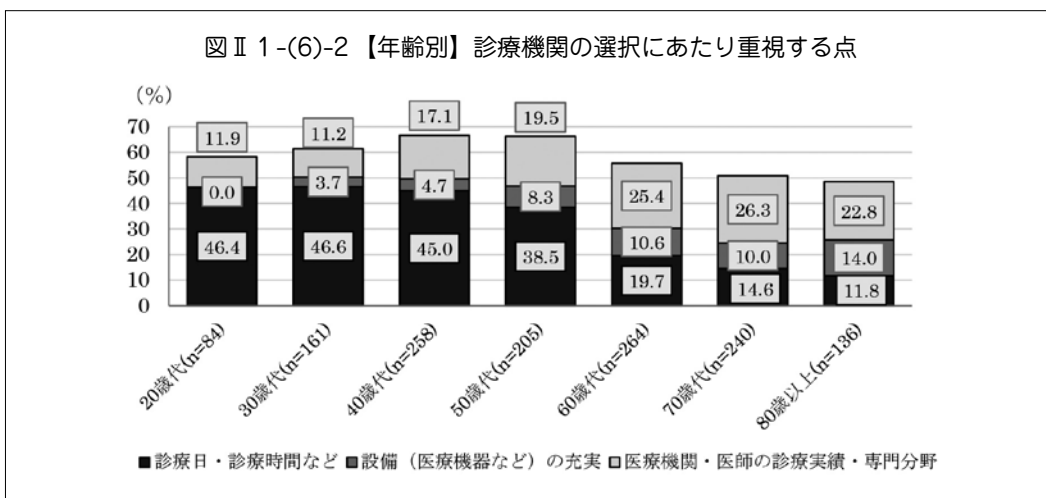
問11 あなたは、受診する医療機関を選択するとき、診療科の他にどのような点を重視しますか。(複数回答(2つまで)可)

- 医療機関の選択にあたり重視する点を聞いたところ、「自宅・職場等からの距離や交通の便の良さ」(78.2%)が8割近くと最も割合が高く、次いで「家族や知人など周囲の人からの評判の良さ」(36.5%)、「診療日・診療時間など」(30.6%)、「医療機関・医師の診療実績・専門分野」(20.2%)、「設備(医療機器など)の充実」(7.8%)の順となっている。



<年齢別>

- 診療機関の選択にあたり医療科の他に重視する点を年代別に比較をしてみると、どの年代でも「自宅・職場等からの距離や交通の便の良さ」が最も高く、「家族や知人など周囲の人からの評判の良さ」の割合が比較的高いのはかわらないが、20～40歳代の比較的若い年代層では、「診療日・診療時間など」を、60歳代以上では「設備(医療機器など)の充実」や「医療機関・医師の診療実績・専門分野」を重視する割合が高くなっている。



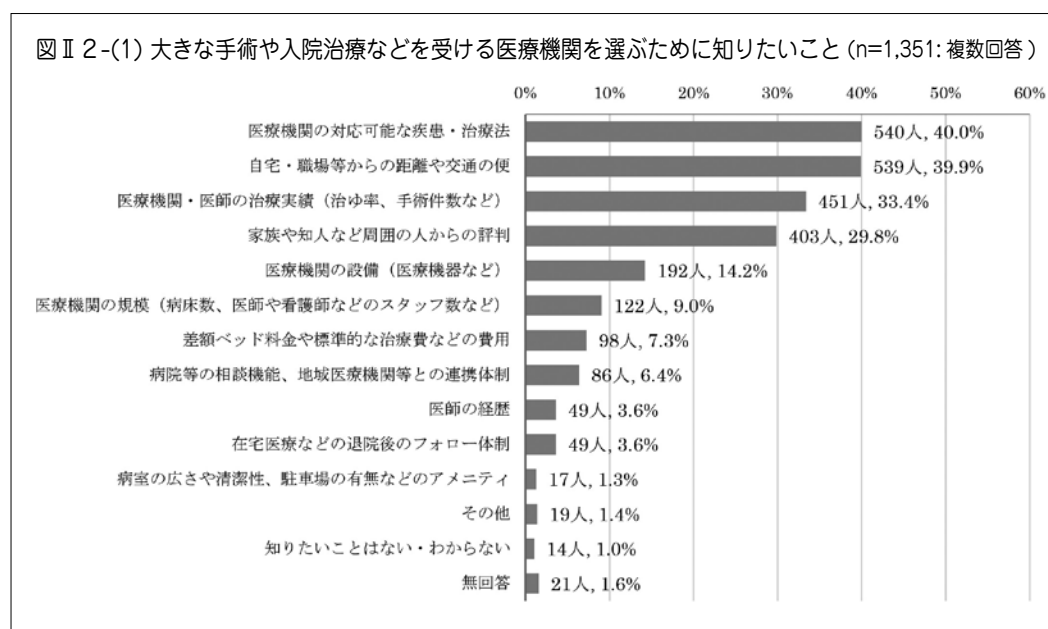
2. 大きな手術や長期の治療が必要な時の行動や考え方について

(1) 大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶために知りたいこと

「医療機関の対応可能な疾患・治療法」と「自宅・職場等からの距離や交通の便」の割合がほぼ4割ずつ

問12 あなたやご家族が大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶために、どのようなことを知りたいと考えますか。(複数回答(2つまで)可)

- 大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶために知りたいことを聞いたところ、「医療機関の対応可能な疾患・治療法」(40.0%)と「自宅・職場等からの距離や交通の便」(39.9%)とほぼ4割の人が挙げている。次いで、「医療機関・医師の治療実績(治ゆ率、手術件数など)」(33.4%)、「家族や知人など周囲の人からの評判」(29.8%)、「医療機関の設備(医療機器など)」(14.2%)の順となっている。



<性別>

- 大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶために知りたいことを性別に比較してみると、男性は「自宅・職場等からの距離や交通の便」(40.7%)を、女性は、「医療機関の対応可能な疾患・治療法」(42.6%)を多く挙げていた。

<年齢別>

- また、年齢別に比較してみると、20～30歳代の若い年代では「家族や知人など周囲の人からの評判」を、40～60歳代では「医療機関の対応可能な疾患・治療法」を、70歳代以上では「自宅・職場等からの距離や交通の便」がそれぞれ最も高い割合となっている。

表Ⅱ-2-(1)【性年齢別】大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶために知りたいこと

		問 12 大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶために知りたいこと														
		自宅・職場等からの距離や交通の便	家族や知人など周囲の人からの評判	医療機関の規模（病床数、医師や看護師などのスタッフ数など）	医療機関の設備（医療機器など）	医療機関・医師の治療実績（治癒率、手術件数など）	医療機関の対応可能な疾患・治療法	差額、ベッド料金や標準的な治療費などの費用	病室の広さや清潔性、駐車場の有無などのアメニティ	医師の経歴	病院等の相談機能、地域医療機関等との連携体制	在宅医療などの退院後のフォロー体制	その他	知りたいことはない・わからない	無回答	
全体		1,351	39.9	29.8	9.0	14.2	33.4	40.0	7.3	1.3	3.6	6.4	3.6	1.4	1.0	1.6
性別 問2	男性	600	40.7	29.2	13.0	13.8	33.0	37.2	7.0	1.5	3.2	5.5	2.7	1.5	1.8	1.3
	女性	745	39.1	30.3	5.9	14.6	33.7	42.6	7.4	1.1	4.0	7.1	4.3	1.3	0.4	1.6
年齢 (年代別) 問1	20歳代	84	36.9	39.3	10.7	14.3	36.9	34.5	7.1	2.4	4.8	2.4	2.4	0.0	2.4	0.0
	30歳代	161	37.3	40.4	5.0	16.1	39.1	35.4	10.6	0.0	5.6	4.3	1.9	0.6	0.0	0.6
	40歳代	258	36.4	34.9	7.4	12.0	34.5	45.7	7.4	2.7	3.9	5.0	1.9	0.8	0.8	1.2
	50歳代	205	42.4	30.7	6.3	12.7	39.0	48.3	6.3	1.0	2.0	4.9	2.4	1.5	0.0	0.5
	60歳代	264	40.5	24.6	9.8	14.0	35.2	43.9	4.5	1.1	2.3	6.8	3.8	1.5	0.8	1.9
	70歳代	240	42.1	23.8	11.7	14.2	27.9	34.6	7.5	0.4	4.2	10.4	5.4	3.3	1.3	1.7
	80歳以上	136	41.2	20.6	13.2	19.1	20.6	27.9	9.6	1.5	4.4	8.1	8.1	0.7	3.7	5.1

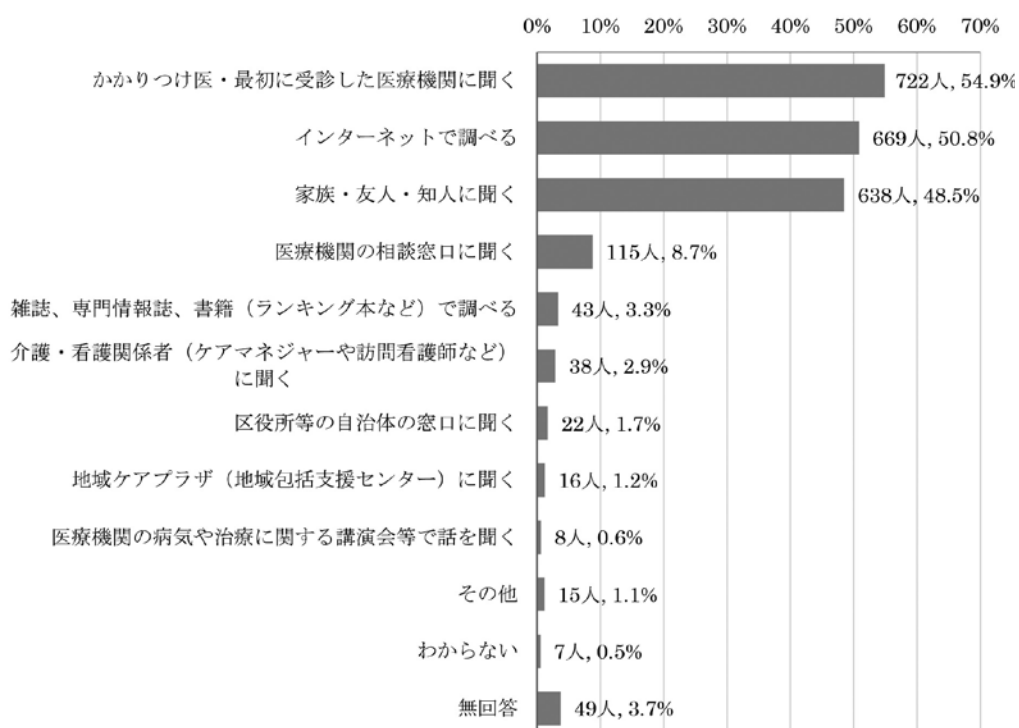
(2) 大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶための情報の入手方法

「かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く」(54.9%)が5割台半ば近く

問13 問12で○をつけた情報について、あなたはどのような方法・手段で情報を集めますか。(複数回答(2つまで)可)

- 大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶための情報の入手方法を聞いたところ、「かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く」(54.9%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで「インターネットで調べる」(50.8%)、「家族・友人・知人に聞く」(48.5%)の順となっている。

表Ⅱ 2-(2) 大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶための情報の入手方法 (n=1,316: 複数回答)



<年齢別>

- 大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶための情報の入手方法を年齢別に比較してみると、20～40歳代の若い年代では「インターネットで調べる」を、60歳代以上では「かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く」がそれぞれ最も高い割合となっている。

<慢性疾患等の定期的通院先別>

- また慢性疾患等の定期的通院先別に比較してみると、「受診していない」人は「インターネットで調べる」を、いずれかの医療機関に受診している人は「かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く」がそれぞれ最も高い割合となっている。

表Ⅱ 2-(2)【性年齢別】大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶための情報の入手方法

		合計	問 13 (大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶ) 情報を集める方法・手段											
			家族・友人・知人に聞く	かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く	医療機関の相談窓口聞く	介護・看護関係者(ケアマネジャーや訪問看護師など)に聞く	地域ケアプラザ(地域包括支援センター)に聞く	区役所等の自治体の窓口聞く	雑誌・専門情報誌・書籍(ランキング本など)で調べる	インターネットで調べる	医療機関の病気や治療に関する講演会等で話を聞く	その他	わからない	無回答
全体		1,316	48.5	54.9	8.7	2.9	1.2	1.7	3.3	50.8	0.6	1.1	0.5	3.7
年齢 問1 (年代別)	20歳代	82	53.7	34.1	6.1	0.0	0.0	1.2	3.7	73.2	0.0	1.2	0.0	2.4
	30歳代	160	59.4	33.8	3.1	3.1	0.6	0.6	7.5	80.0	0.0	0.0	0.0	1.3
	40歳代	253	53.8	41.1	6.7	0.8	0.0	1.6	3.6	77.1	0.4	0.8	0.0	0.8
	50歳代	204	45.1	54.9	9.8	1.5	1.0	1.0	2.5	61.8	0.0	0.0	0.5	2.9
	60歳代	257	45.1	63.0	9.7	1.6	0.0	1.6	3.9	41.2	0.4	1.6	0.8	5.1
	70歳代	233	45.9	73.0	12.4	3.0	3.4	3.0	1.3	17.2	1.7	1.7	1.7	5.6
	80歳以上	124	37.9	73.4	11.3	13.7	4.0	2.4	0.8	9.7	1.6	3.2	0.0	8.1
慢性疾患等の定期的な通院先別 問5 慢性的な病気の治療や薬の処方を受けるため、病院又は診療所の定期的な受診状況	市内の病院を受診している	212	39.6	63.7	12.3	3.8	2.4	1.4	2.8	31.6	0.9	1.9	0.9	4.7
	市外の病院を受診している	41	41.5	58.5	9.8	2.4	2.4	4.9	7.3	48.8	0.0	0.0	0.0	2.4
	市内の診療所を受診している	316	43.4	73.1	10.1	4.1	2.2	1.9	1.9	34.5	0.6	1.3	0.6	4.7
	市外の診療所を受診している	23	47.8	60.9	13.0	4.3	0.0	0.0	0.0	47.8	0.0	4.3	0.0	4.3
	受診していない	693	53.7	43.1	6.8	2.0	0.4	1.6	4.0	65.9	0.4	0.9	0.3	2.6

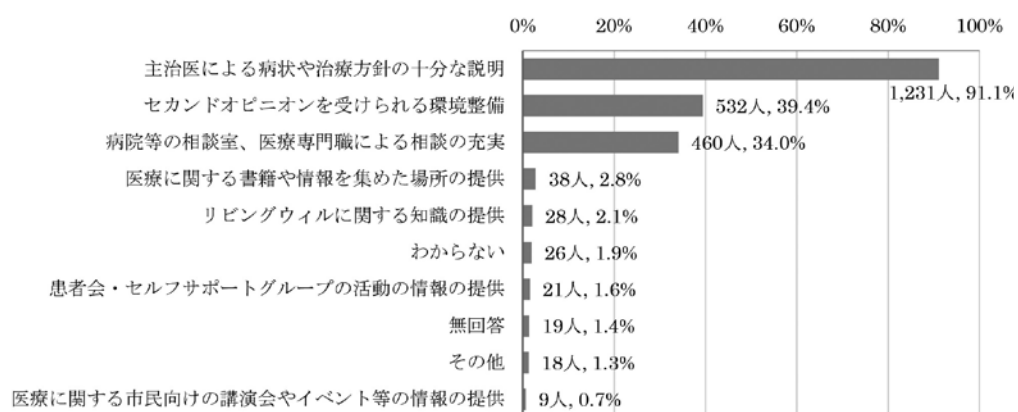
(3) 病気や治療を知り、受ける医療を自己決定するために必要なこと

「主治医による病状や治療方針の十分な説明」の割合が9割強

問14 あなたは、ご自分の病気や治療について知り、受ける医療をご自身で選択・決定するためには、何が必要と考えますか。(複数回答(2つまで)可)

- 病気や治療を知り、受ける医療を自己決定するために必要なことを聞いたところ、「主治医による病状や治療方針の十分な説明」が91.1%で最も高く、次いで「セカンドオピニオンを受けられる環境整備」(39.4%)、「病院等の相談室、医療専門職による相談の充実」(34.0%)の順となっている。

図Ⅱ 2-(3) 病気や治療を知り、受ける医療を自己決定するために必要なこと (n=1,351: 複数回答)

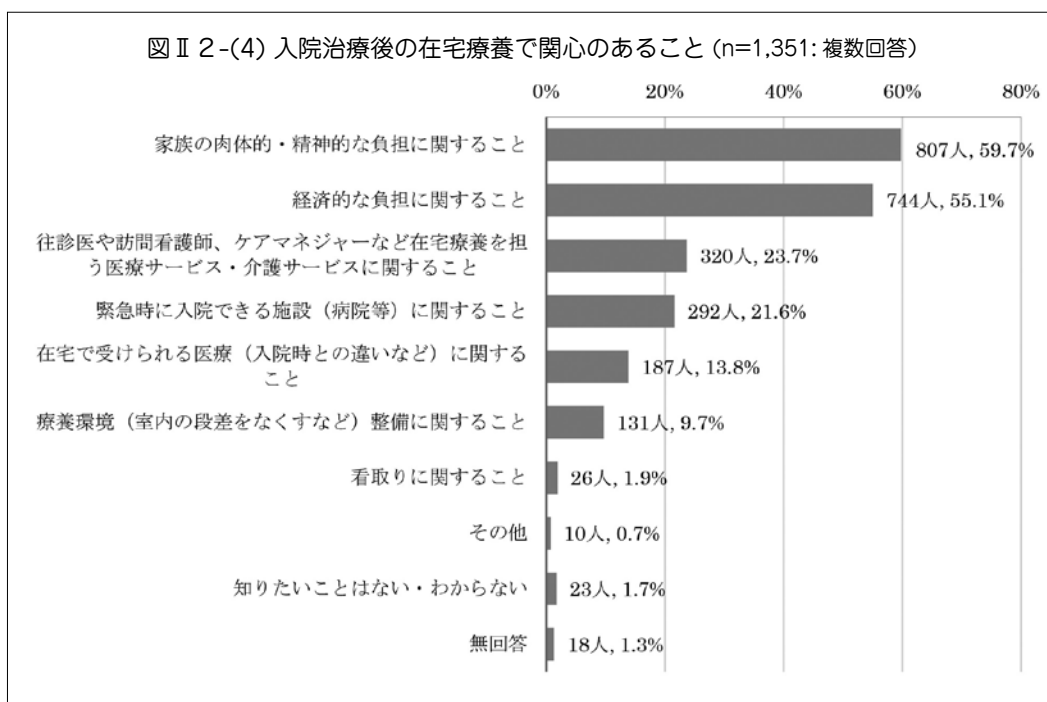


(4)入院治療後の在宅療養で関心のあること

「家族の肉体的・精神的な負担に関すること」の割合が6割弱

問15 あなたが入院治療の後、引き続き自宅で療養生活を送ることになった場合、関心のあることはどのようなことですか。(複数回答(2つまで)可)

- 入院治療後の在宅療養で関心のあることを聞いたところ、「家族の肉体的・精神的な負担に関すること」が59.7%で最も高く、次いで「経済的な負担に関すること」(55.1%)、「往診医や訪問看護師、ケアマネジャーなど在宅療養を担う医療サービス・介護サービスに関すること」(23.7%)、「緊急時に入院できる施設(病院等)に関すること」(21.6%)、「在宅で受けられる医療(入院時との違いなど)に関すること」(13.8%)の順となっている。



<年齢別>

- 入院治療後の在宅療養で関心のあることを年齢別に比較してみると、20～40歳代の若い年代では「経済的な負担に関すること」を、50歳代以上では「家族の肉体的・精神的な負担に関すること」がそれぞれ最も高い割合となっている。

<職業別>

- また職業別に比較してみると、「会社員・公務員」「パート・アルバイト」「学生」は「家族の肉体的・精神的な負担に関すること」を、「自営業」「主婦・主夫」「無職」は「経済的な負担に関すること」がそれぞれ最も高い割合となっている。

表Ⅱ 2-(4)【年齢・職業別】入院治療後の在宅療養で関心のあること

		合計	問 15 入院治療の後、引き続き自宅で療養生活を送ることになった場合、関心のあること									
			療養環境（室内の段差をなくすなど）整備に関すること	家族の肉体的・精神的な負担に関すること	経済的な負担に関すること	緊急時に入院できる施設（病院等）に関すること	往診医や訪問看護師、ケアマネジャーなど在宅療養を担う医療サービス・介護サービスに関すること	在宅で受けられる医療（入院時との違いなど）に関すること	看取りに関すること	その他	知りたいことはない・わからない	無回答
全体		1,351	9.7	59.7	55.1	21.6	23.7	13.8	1.9	0.7	1.7	1.3
年齢 問 1 (年代別)	20歳代	84	14.3	54.8	76.2	11.9	7.1	14.3	0.0	0.0	3.6	1.2
	30歳代	161	8.1	72.0	80.7	9.9	11.8	10.6	0.0	0.0	1.2	0.0
	40歳代	258	7.0	64.0	67.4	16.3	17.1	13.6	1.2	0.4	1.9	0.8
	50歳代	205	8.3	63.9	55.6	18.5	27.8	14.6	2.4	0.5	1.0	1.0
	60歳代	264	9.8	56.4	41.7	25.0	32.2	17.8	3.0	0.8	1.5	1.1
	70歳代	240	9.6	57.5	41.3	30.0	31.7	9.6	2.1	1.7	1.3	2.1
	80歳以上	136	16.2	44.1	37.5	34.6	24.3	16.2	3.7	1.5	2.9	3.7
職業 問 4	自営業	60	6.7	65.0	51.7	21.7	18.3	11.7	3.3	0.0	0.0	5.0
	会社員・公務員	408	8.3	66.2	68.4	13.7	17.6	14.2	1.0	0.2	1.7	0.5
	パート・アルバイト	196	5.6	59.7	64.3	20.4	21.9	15.8	2.6	0.5	0.5	1.0
	主婦・主夫	298	10.1	59.7	45.0	25.8	31.9	11.7	1.3	0.7	2.0	1.3
	学生	28	14.3	57.1	82.1	14.3	10.7	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	無職	314	12.7	52.9	40.4	28.3	27.4	15.6	2.5	1.3	2.2	2.2
	その他	41	19.5	43.9	53.7	24.4	24.4	12.2	2.4	4.9	4.9	0.0

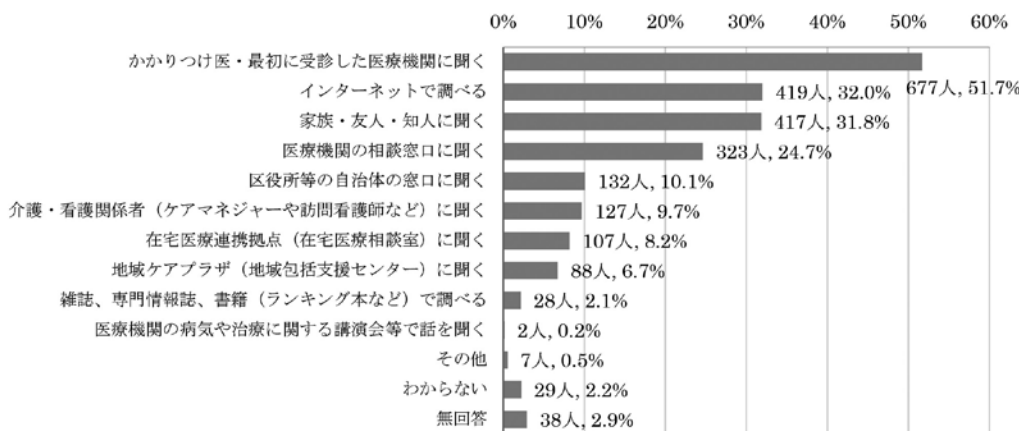
(5)入院治療後の在宅療養についての情報の入手方法

「かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く」の割合が5割強

問16 問15で○をつけた情報について、あなたはどのような方法・手段で情報を集めますか。(複数回答(2つまで)可)

- 入院治療後の在宅療養についての情報の入手方法を聞いたところ、「かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く」が51.7%で最も高く、次いで「インターネットで調べる」(32.0%)、「家族・友人・知人に聞く」(31.8%)、「医療機関の相談窓口に行く」(24.7%)、「区役所等の自治体の窓口に行く」(10.1%)の順となっている。

図Ⅱ 2-(5)-1 入院治療後の在宅療養についての情報の入手方法 (n==1,351: 複数回答)



用語解説

○ 在宅医療連携拠点(在宅医療相談室)

疾病を抱えても市民の方が住み慣れた家等で療養生活し、継続的な在宅医療・介護を受けられるよう、横浜市医師会と協働し、18区に整備しています。在宅医療に関するご相談をケアマネジャーや市民の方から受けたり、在宅医療を担う医師への支援を行っています。

<年齢別>

- 入院治療後の在宅療養についての情報の入手方法を年齢別に比較してみると、20～40歳の若い年代では「インターネットで調べる」を、50歳代以上では「かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く」がそれぞれ最も高い割合となっている。

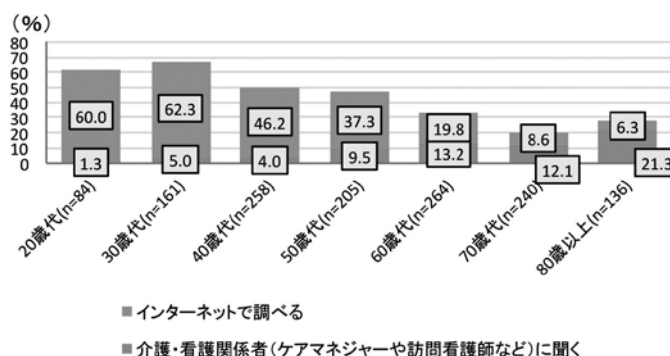
<職業別>

- また職業別に比較してみると、「自営業」「パート・アルバイト」「主婦・主夫」「無職」は「かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く」を、「会社員・公務員」「学生」は「インターネットで調べる」がそれぞれ最も高い割合となっている。

表Ⅱ 2-(5) 【年齢・職業別】入院治療後の在宅療養についての情報の入手方法

		合計	問 16 (入院治療の後、引き続き自宅で療養生活を送ることになった場合) 情報を集める方法・手段												
			家族・友人・知人に聞く	かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く	医療機関の相談窓口聞く	介護・看護関係者(ケアマネジャーや訪問看護師など)に聞く	地域ケアプラザ(地域包括支援センター)に聞く	在宅医療連携拠点(在宅医療相談室)に聞く	区役所等の自治体の窓口聞く	雑誌、専門情報誌、書籍(ランキング本など)で調べる	インターネットで調べる	講演会等で話を聞く	医療機関の病気や治療に関する	その他	わからない
	全体	1,310	31.8	51.7	24.7	9.7	6.7	8.2	10.1	2.1	32.0	0.2	0.5	2.2	2.9
問1 年齢 (年代別)	20歳代(n=84)	80	32.5	40.0	23.8	1.3	1.3	3.8	11.3	2.5	60.0	0.0	0.0	3.8	0.0
	30歳代(n=161)	159	39.0	37.7	18.2	5.0	3.8	2.5	6.9	5.0	62.3	0.0	0.6	2.5	1.9
	40歳代(n=258)	251	33.5	45.8	25.5	4.0	4.4	6.8	10.0	2.4	46.2	0.4	0.4	2.8	0.4
	50歳代(n=205)	201	27.9	47.3	27.4	9.5	8.0	8.5	10.4	3.0	37.3	0.0	0.5	2.5	3.5
	60歳代(n=264)	257	30.7	55.3	27.6	13.2	8.2	10.9	11.3	1.6	19.8	0.4	0.4	1.9	2.7
	70歳代(n=240)	232	30.2	61.6	25.0	12.1	9.5	12.5	11.6	0.9	8.6	0.0	0.4	2.2	5.6
	80歳以上(n=136)	127	30.7	70.9	20.5	21.3	8.7	7.1	7.9	0.0	6.3	0.0	1.6	0.0	4.7
問4 職業	自営業	57	24.6	49.1	29.8	7.0	14.0	10.5	12.3	3.5	19.3	0.0	0.0	0.0	5.3
	会社員・公務員	399	36.1	43.6	23.3	6.0	3.8	5.8	6.8	3.8	54.1	0.0	0.5	1.8	1.3
	パート・アルバイト	193	30.1	47.7	26.9	8.3	7.3	9.3	11.4	1.6	31.1	0.0	0.5	3.6	4.1
	主婦・主夫	288	33.0	50.3	26.4	8.7	8.7	12.5	9.7	1.7	23.6	0.3	0.3	3.1	3.1
	学生	28	25.0	42.9	21.4	3.6	3.6	3.6	10.7	0.0	60.7	0.0	0.0	3.6	0.0
	無職	300	29.0	66.3	22.3	17.7	8.0	7.3	13.0	0.7	11.7	0.3	0.7	1.7	3.3
	その他	39	28.2	61.5	28.2	7.7	2.6	2.6	15.4	2.6	28.2	0.0	2.6	0.0	2.6

図Ⅱ 2-(5)-2 入院治療後の在宅療養についての情報の入手方法



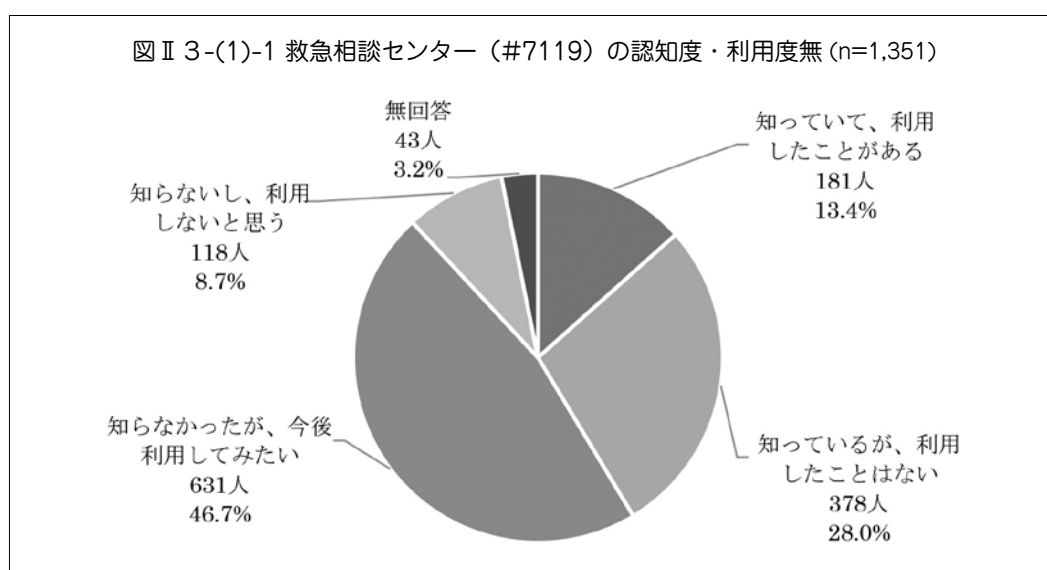
3. 救急時の対応について

(1) 救急相談センター（#7119）の認知度・利用度

「知らなかったが、今後利用してみたい」の割合が4割台半ば超

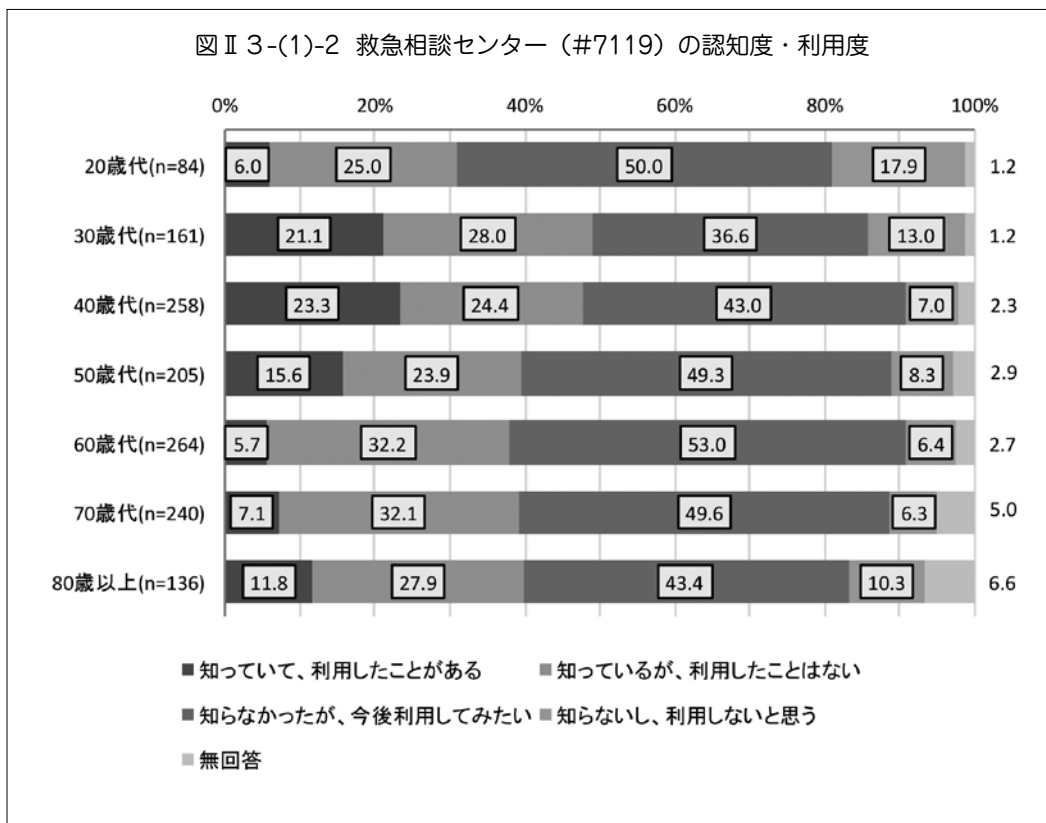
問17 横浜市では、急な病気やけがのときに電話相談ができる、救急相談センター（#7119）を設置していますが、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- 急な病気やけがのときに電話相談ができる、救急相談センター（#7119）の認知度・利用度を聞いたところ、「知らなかったが、今後利用してみたい」の割合が46.7%と最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」（28.0%）、「知っていて、利用したことがある」（13.4%）の順となっている。「知らないし、利用しないと思う」は8.7%であった。



<年齢別>

- 救急相談センター（#7119）の認知度・利用度を年齢別に比べてみると、いずれの年代でも「知らなかったが、今後利用してみたい」が最も高い割合になっているが、30～50歳代と80歳以上で「知っていて、利用したことがある」の割合が、60～70歳代で「知っているが、利用したことはない」が他の年代より高くなっている。

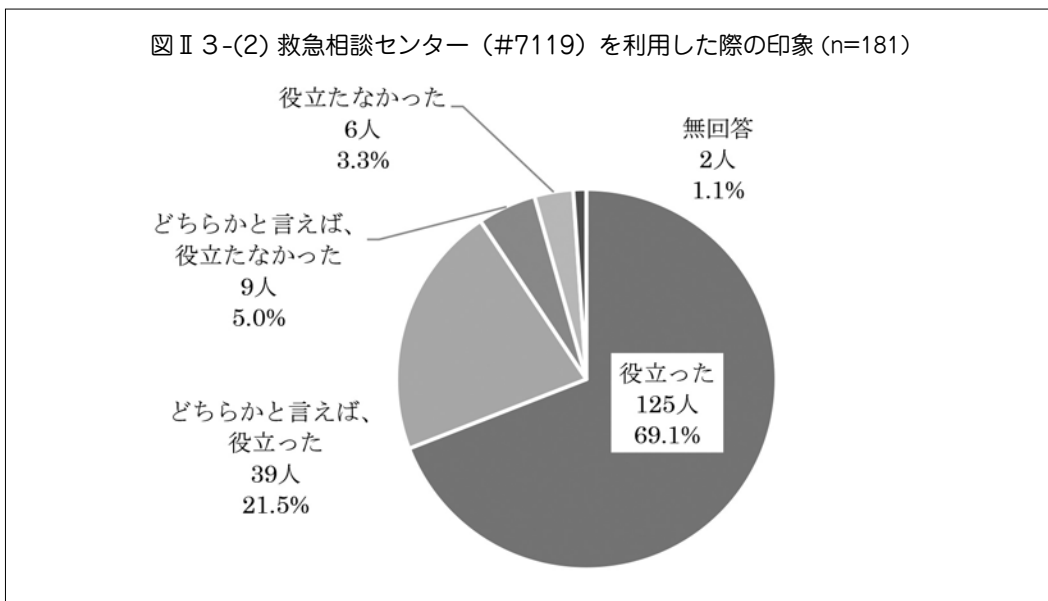


(2) 救急相談センター（#7119）を利用した際の印象

「役立った」と「どちらかと言えば、役に立った」を合わせると約9割

問18 問17で「1. 知っていて、利用したことがある」に○をつけた方。
 利用された際の印象はいかがでしたか。

- 救急相談センター（#7119）を知っていて利用したことがある人に利用した際の印象を聞いたところ、「役立った」が69.1%と最も多く、次いで「どちらかと言えば、役立った」（21.5%）となっている。
- 「役にたった」と「どちらかと言えば、役にたった」の割合を合わせると90.6%と約9割の人が役に立ったという印象を持っている。



(3) 救急相談センター（#7119）を利用した際の助言の内容について

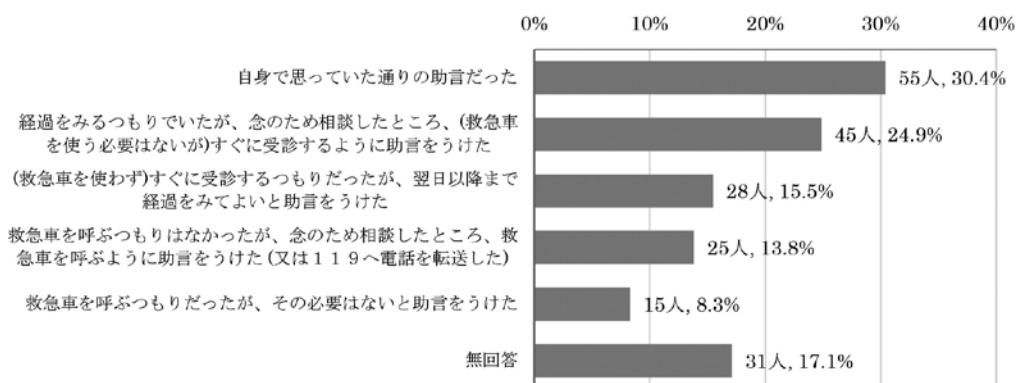
「自身で思っていた通りの助言だった」の割合が約3割

問19 問17で「1. 知っていて、利用したことがある」に○をつけた方。

利用された際のご自身の想定と助言の内容について、あてはまるもの。
(複数回答可)

- 救急相談センター（#7119）を知っていて利用したことがある人に利用した際の助言の内容について聞いたところ、「自身で思っていた通りの助言だった」の割合が30.4%と最も高く、次いで「経過をみるつもりでいたが、念のため相談したところ、（救急車を使う必要はないが）すぐに受診するように助言をうけた」（24.9%）、「（救急車を使わず）すぐに受診するつもりだったが、翌日以降まで経過をみてよいと助言をうけた」（15.5%）、「救急車を呼ぶつもりはなかったが、念のため相談したところ、救急車を呼ぶように助言をうけた（又は119へ電話を転送した）」（13.8%）、「救急車を呼ぶつもりだったが、その必要はないと助言をうけた」（8.3%）の順となっている。

図Ⅱ 3-(3) 救急相談センター（#7119）を利用した際の助言の内容について (n=181: 複数回答)



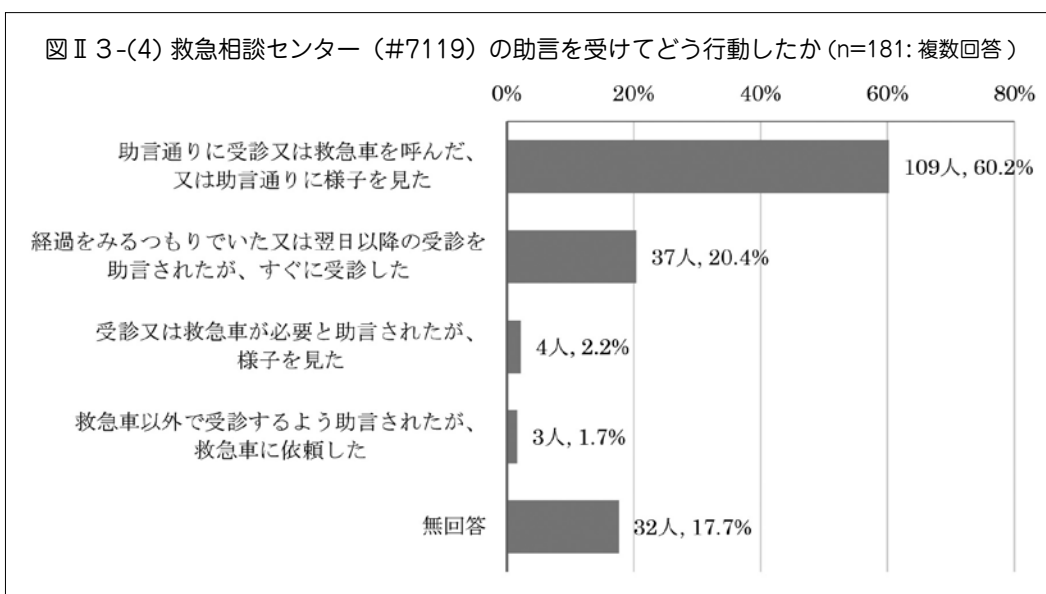
(4) 救急相談センター（#7119）の助言を受けてどう行動したか

「助言通りに受診又は救急車を呼んだ、又は助言通りに様子を見た」の割合が約6割

問20 問17で「1. 知っていて、利用したことがある」に○をつけた方。

利用された際の助言をうけて どう行動されましたか。（複数回答可）

- 救急相談センター（#7119）を知っていて利用したことがある人に利用した際の助言をうけてどう行動したか聞いたところ、「助言通りに受診又は救急車を呼んだ、又は助言通りに様子を見た」の割合が60.2%で最も高く、次いで「経過をみるつもりでいた又は翌日以降の受診を助言されたが、すぐに受診した」（20.4%）が約2割となっている。「受診又は救急車が必要と助言されたが、様子を見た」（2.2%）と「救急車以外で受診するよう助言されたが、救急車に依頼した」（1.7%）と割合は低くなっている。

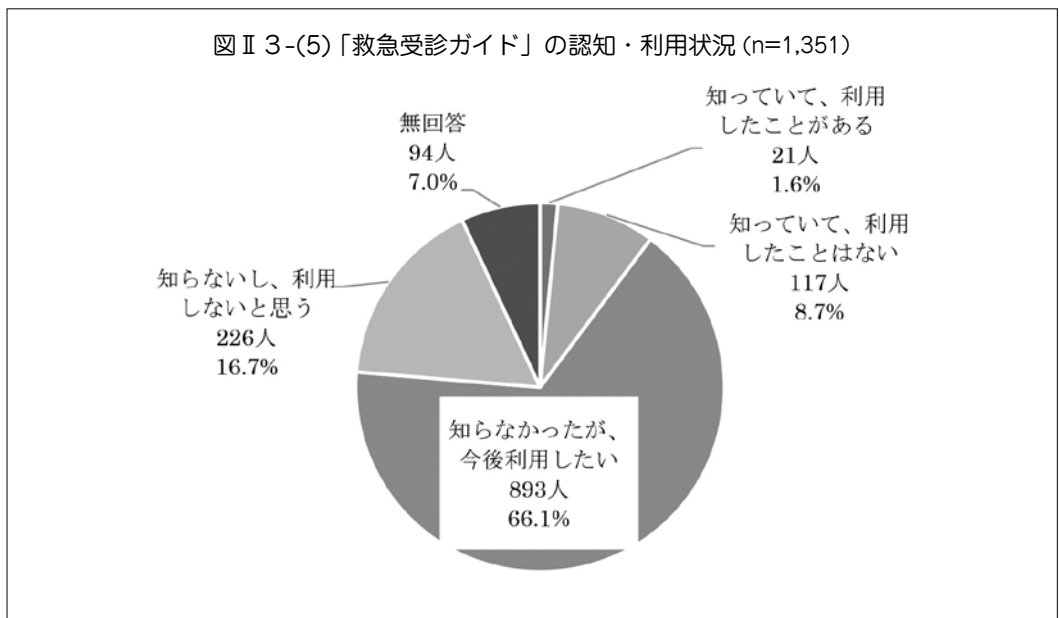


(5)「救急受診ガイド」の認知・利用状況

「知らなかったが、今後利用したい」の割合がほぼ6割台半ばを超え

問21 横浜市では、急な病気やけがのときに、パソコンやスマートフォンで緊急性や受診の必要性を確認できる「救急受診ガイド」を運用していますが、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- 「救急受診ガイド」の認知・利用状況を聞いたところ、「知らなかったが、今後利用したい」が66.1%と最も高く、次いで「知らないし、利用しないと思う」が16.7%と、知らない人の割合が8割強となっている。一方、「知っている、利用したことはない」は8.7%、「知っている、利用したことがある」は1.6%と知っている人の割合は約1割にとどまっている。
- 利用したことがある人の割合は、1.6%と少ないが、今後利用したいという人の割合は66.1%と6割台半ばを超えの人が利用したいと思っている。



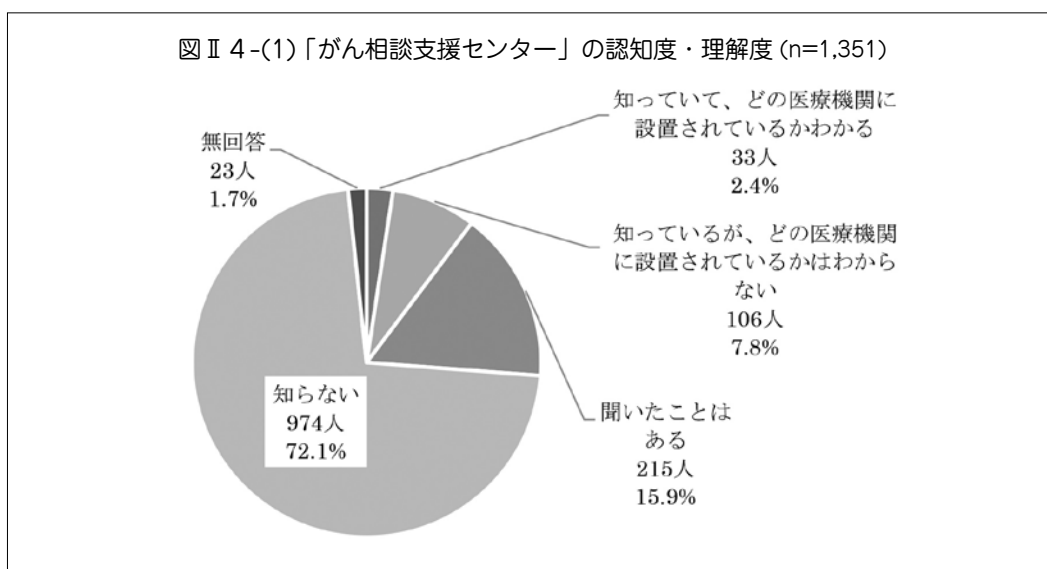
4. がん対策について

(1)「がん相談支援センター」の認知度・理解度

「知らない」の割合が7割強。

問22 がんの専門的な医療を提供する医療機関として、国や神奈川県が一定の基準により指定する「都道府県がん診療連携拠点病院」、「地域がん診療連携拠点病院」、「神奈川県がん診療連携指定病院」がありますが、そこではその病院にかかっていない人も相談をすることができる「がん相談支援センター」が設置されていることを知っていますか。

- 「がん相談支援センター」の認知度・理解度を聞いたところ、「知らない」が72.1%最も高く、「聞いたことはある」は15.9%となっている。「知っているが、どの医療機関に設置されているかはわからない」は7.8%、「知っていて、どの医療機関に設置されているかわかる」は2.4%、認知・理解されている割合は低くなっている

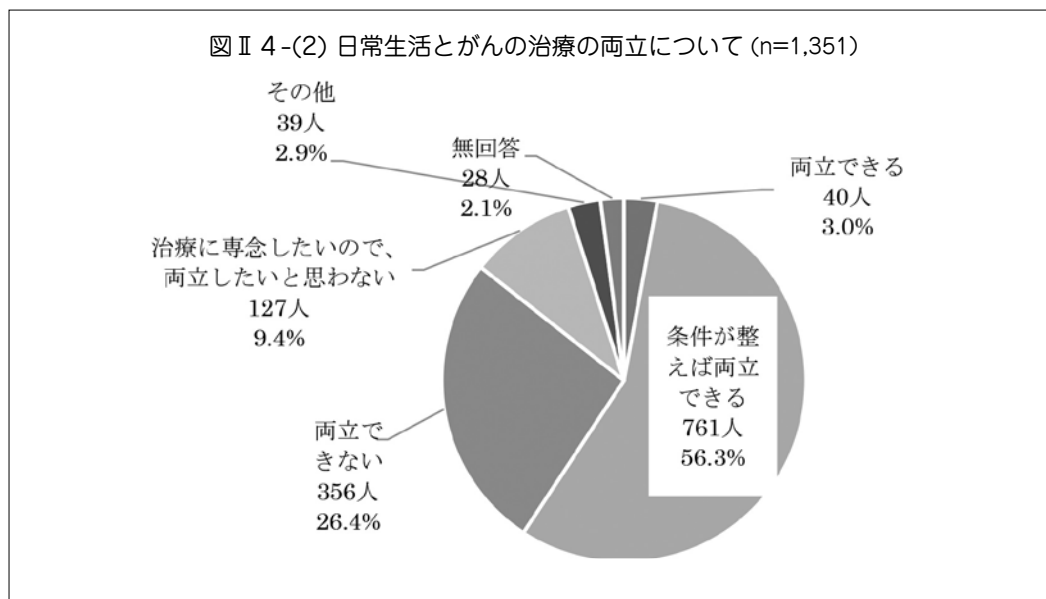


(2) 日常生活とがんの治療の両立について

「条件を整えば両立できる」の割合が5割台半ば超え

問23 あなたやあなたの身近な方ががんにかかった場合、仕事や家事などの日常生活とがんの治療の両立はできると思いますか。

- 日常生活とがんの治療の両立について聞いたところ、「条件を整えば両立できる」が56.3%と最も高く、次いで「両立できない」が26.4%、「治療に専念したいので、両立したいと思わない」(9.4%)となっている。「両立できる」は3.0%であった。



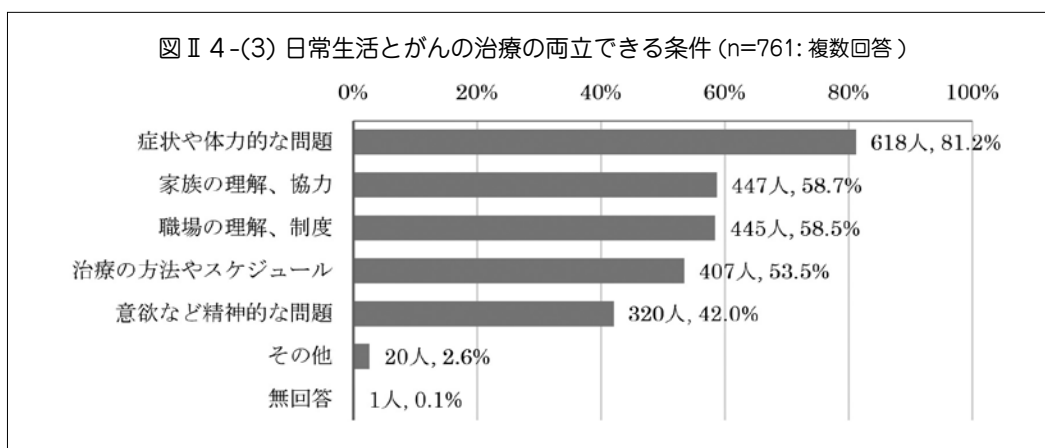
(3) 日常生活とがんの治療の両立できる条件

「症状や体力的な問題」の割合が8割強

問24 問23で「2. 条件が整えば両立できる」に○をつけた方。

それはどのような条件ですか。(複数回答可)

- 日常生活とがんの治療は条件が整えば両立できると答えた人に両立できるための条件について聞いたところ、「症状や体力的な問題」が81.2%と最も高く、次いで「家族の理解、協力」(58.7%)、「職場の理解、制度」(58.5%)、「治療の方法やスケジュール」(53.5%)、「意欲など精神的な問題」(42.0%)の順となっている。

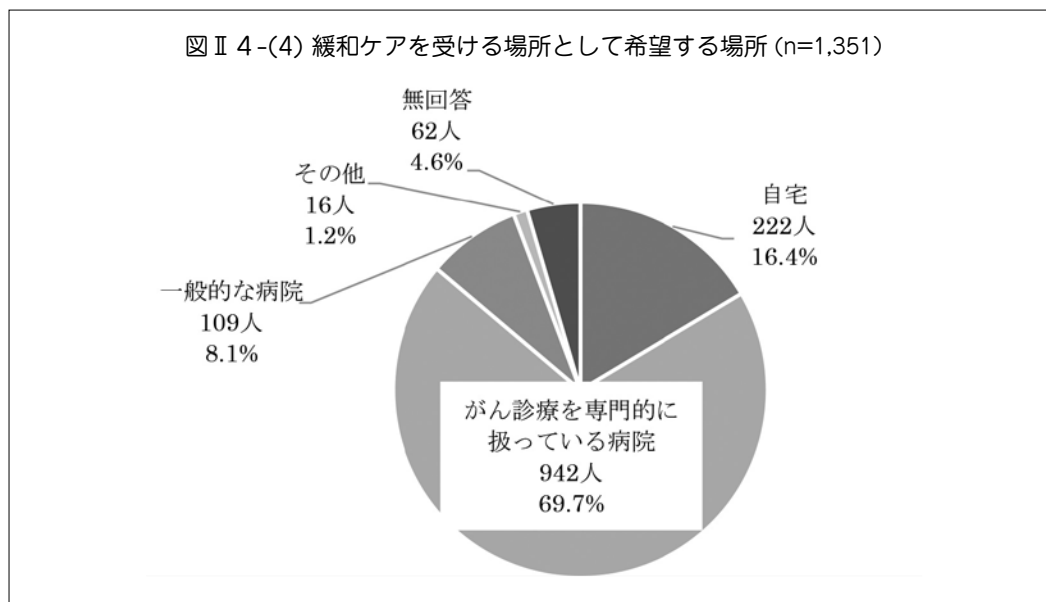


(4) 緩和ケアを受ける場所として希望する場所

「がん診療を専門的に扱っている病院」の割合が7割弱

問25 あなたやあなたの身近な方が、がんの痛みがある場合に緩和ケアを受ける場所として、希望する場所はどこですか

- 日常生活とがんの治療の両立について聞いたところ、「がん診療を専門的に扱っている病院」が69.7%と最も高く、次いで「自宅」(16.4%)、「一般的な病院」(8.1%)の順となっている。



用語解説

○ 緩和ケア

緩和ケアとは、がんの患者さんの体や心のつらさを和らげ、生活やその人らしさを大切にする考え方です。緩和ケアは、がんが進行してからだけではなく、がんと診断された時から必要に応じて行われるものです。また、がんの治療中かどうかや入院外来、在宅医療などの場を問わず、いずれの状況でも受けることができます。

5. 健康や感染症の予防について

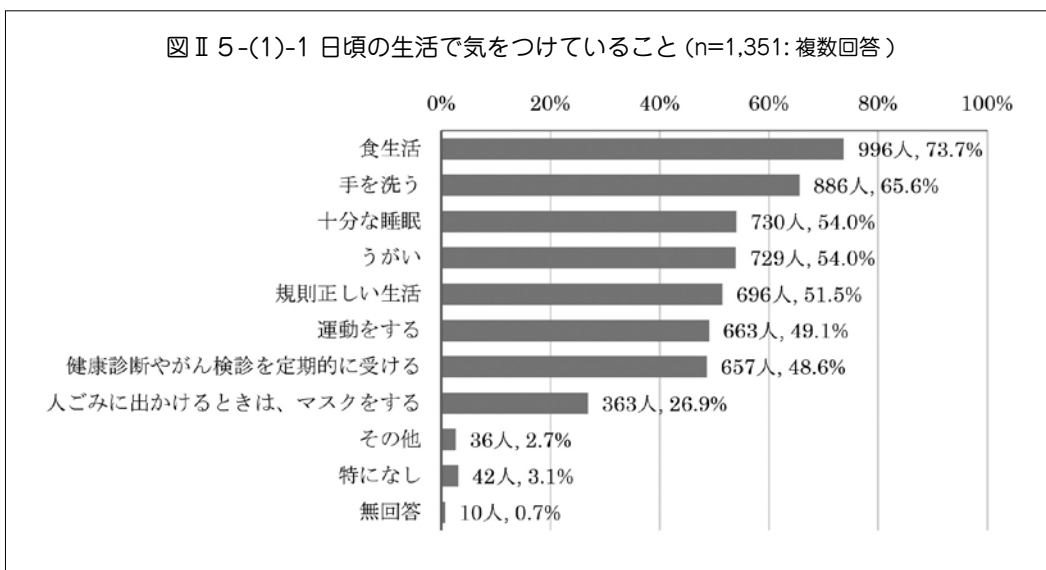
(1) 日頃の生活で気をつけていること

「食生活」の割合が7割台半ば近く

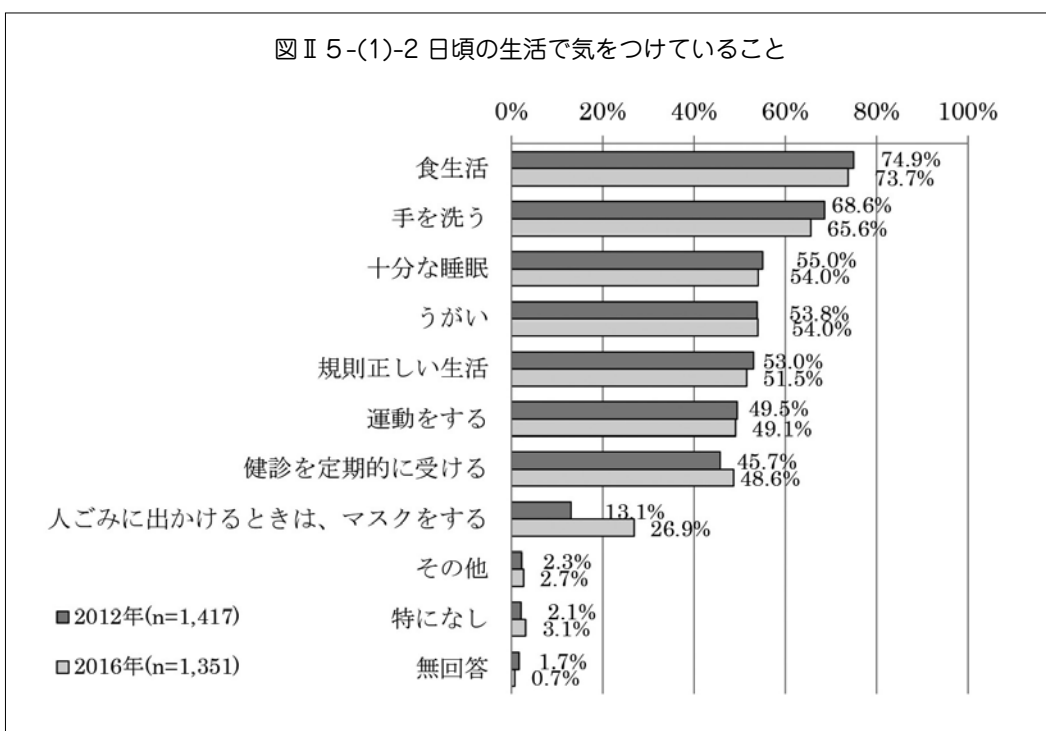
問26 健康でいられるように日頃の生活で気をつけていることがありますか。

(複数回答可)

- 日頃の生活で気をつけていることを聞いたところ、「食生活」が73.7%と最も高く、次いで「手を洗う」(65.6%)、「十分な睡眠」と「うがい」(54.0%)、「規則正しい生活」(51.5%)、「運動をする」(49.1%)、「健康診断やがん検診を定期的に受ける」(48.6%)、「人ごみに出かけるときは、マスクをする」(26.9%)の順となっている。



- 2012年調査と比較すると、健康でいられるように、日頃気を付けていることとして「人ごみに出かけるときは、マスクをする」の割合が13.8ポイント上がっている。

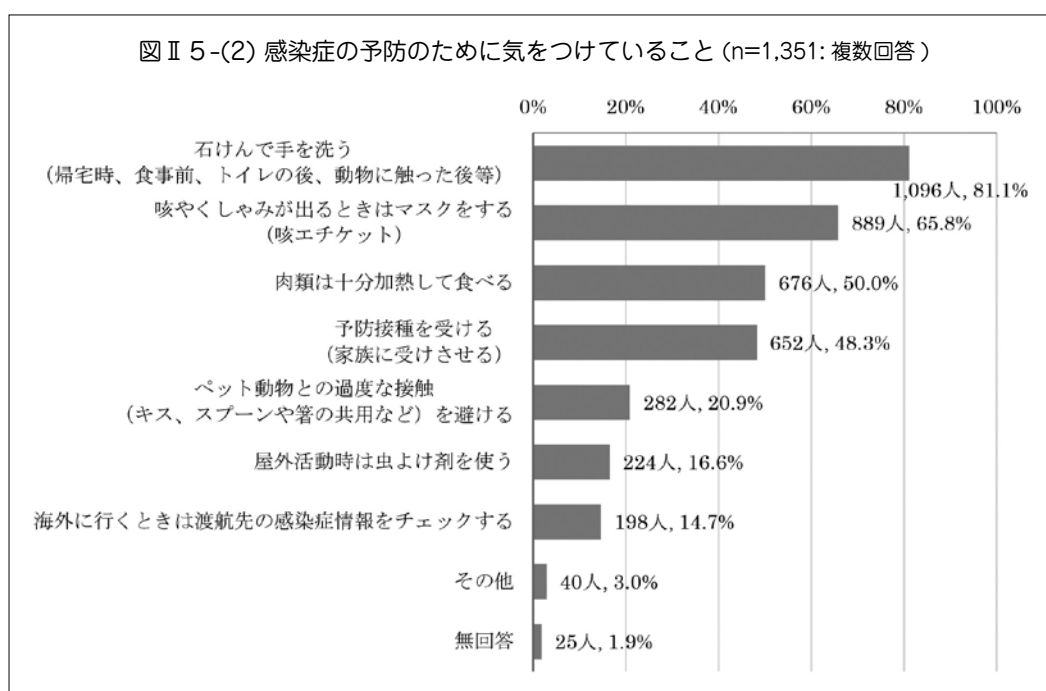


(2) 感染症の予防のために気をつけていること

「石けんで手を洗う(帰宅時、食事前、トイレの後、動物に触った後等)」の割合が8割強

問27 感染症の予防のために日頃の生活で気をつけていることがありますか。 (複数回答可)

- 感染症の予防のために日頃の生活で気をつけていることを聞いたところ、「石けんで手を洗う(帰宅時、食事前、トイレの後、動物に触った後等)」が81.1%と最も高く、次いで「咳やくしゃみが出るときはマスクをする(咳エチケット)」(65.8%)、「肉類は十分加熱して食べる」(50.0%)、「予防接種を受ける(家族に受けさせる)」(48.3%)、「ペット動物との過度な接触(キス、スプーンや箸の共用など)を避ける」(20.9%)、「屋外活動時は虫よけ剤を使う」(16.6%)、「海外に行くときは渡航先の感染症情報をチェックする」(14.7%)の順となっている。

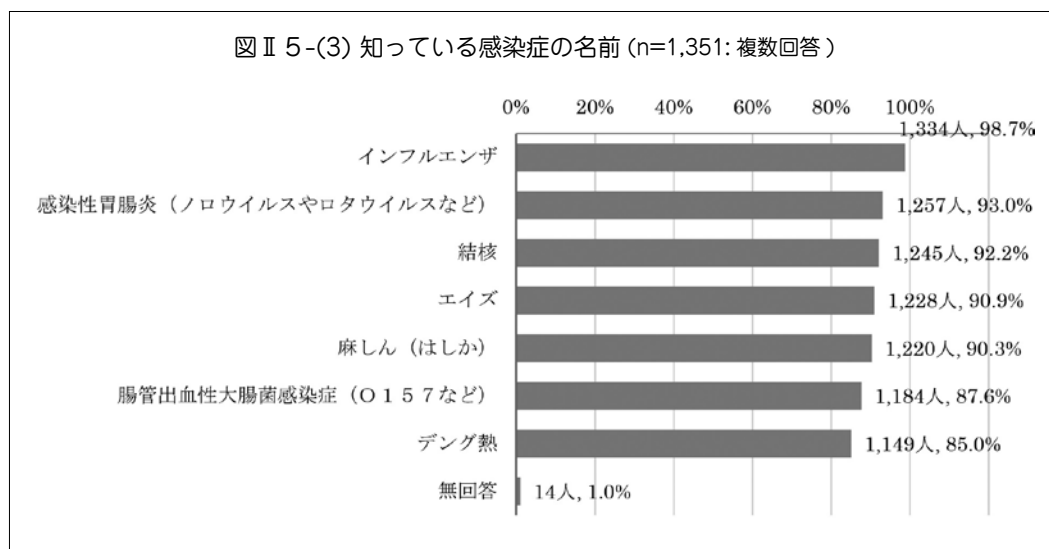


(3) 知っている感染症の名前

「インフルエンザ」の割合が10割近く

問28 感染症の名前について、知っているもの。(複数回答可)

- 感染症の名前について、知っているものを聞いたところ、「インフルエンザ」が98.7%と最も高く、次いで「感染性胃腸炎(ノロウイルスやロタウイルスなど)」(93.0%)、「結核」(92.2%)、「エイズ」(90.9%)、「麻しん(はしか)」(90.3%)、「腸管出血性大腸菌感染症(O157など)」(87.6%)、「デング熱」(85.0%)の順となっている。



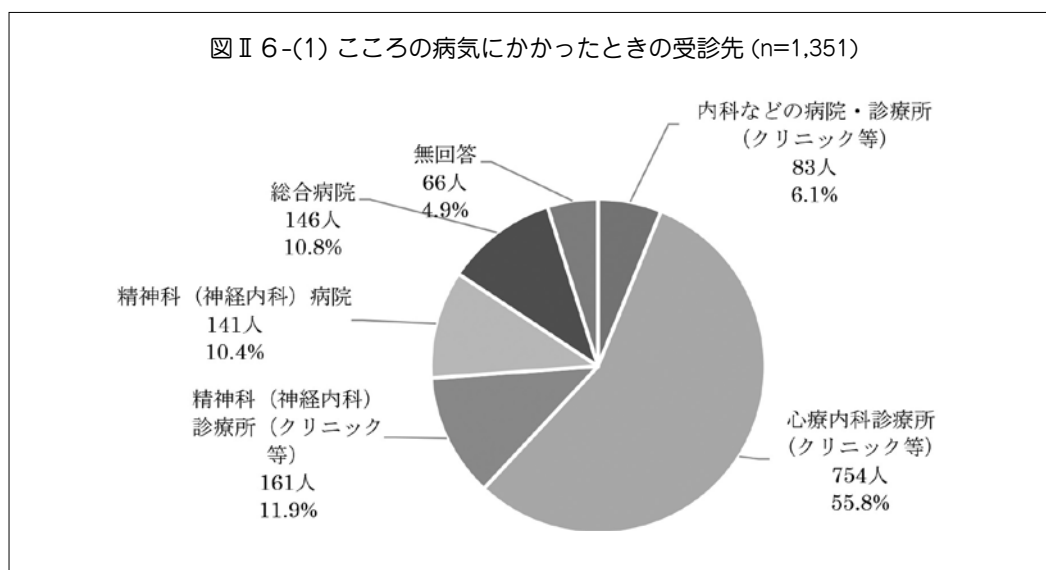
6. こころの病気について

(1) こころの病気にかかったときの受診先

「心療内科診療所（クリニック等）」の割合が5割台半ば

問29 あなたやご家族が、こころの病気にかかったとき、どの医療機関を受診しますか。

- こころの病気にかかったときの受診先を聞いたところ、「心療内科診療所（クリニック等）」が55.8%と最も高く、次いで「精神科（神経内科）診療所（クリニック等）」（11.9%）、「総合病院」（10.8%）、「精神科（神経内科）病院」（10.4%）、「内科などの病院・診療所（クリニック等）」（6.1%）の順となっている。

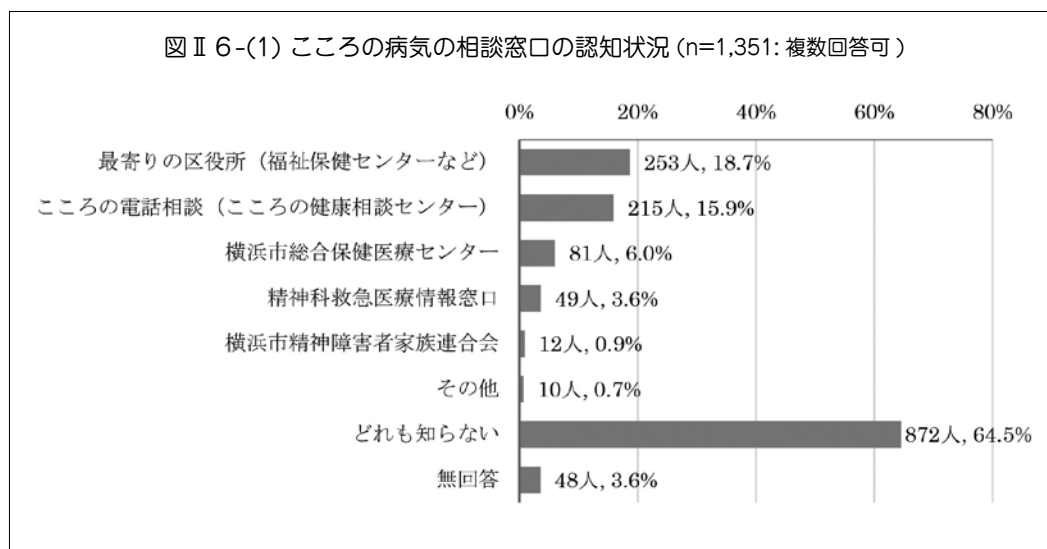


(2) こころの病気の相談窓口の認知状況

「どれも知らない」の割合が6割台半ば近く

問30 あなたは、こころの病気の相談窓口について知っていますか。(複数回答可)

- こころの病気の相談窓口の認知状況を聞いたところ、「どれも知らない」が64.5%と最も高く、次いで「最寄りの区役所（福祉保健センターなど）」（18.7%）、「こころの電話相談（こころの健康相談センター）」（15.9%）、「横浜市総合保健医療センター」（6.0%）、「精神科救急医療情報窓口」（3.6%）、「横浜市精神障害者家族連合会」（0.9%）の順となっている。



7. 歯と歯科診療について

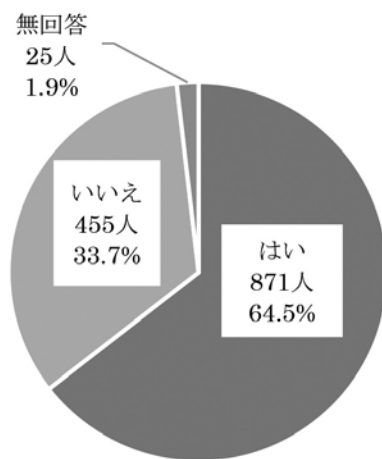
(1) 歯や口の状態についてきになるところの有無

「はい」が6割台半ば近く

問31 あなたは、歯や口の状態について何か気になるところがありますか。

- 歯や口の状態についてきになるところの有無を聞いたところ、「はい」が64.5%と6割台半ば近くの人が気になるところがあり、「いいえ」が33.7%となっている。

図Ⅱ 7-(1) 歯や口の状態について気になるところの有無 (n=1,351)



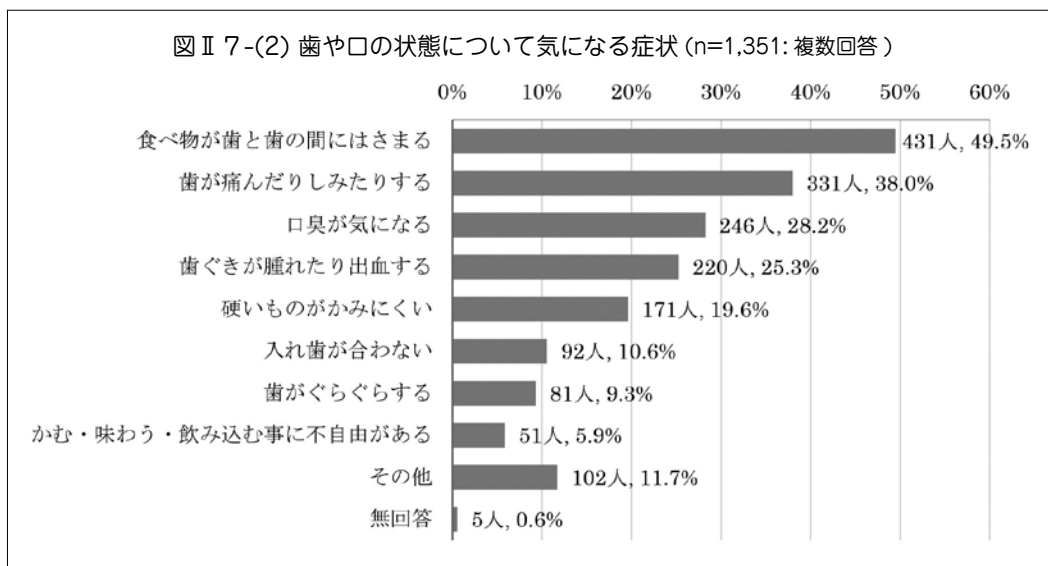
(2) 歯や口の状態について気になる症状

「食べ物が歯と歯の間にはさまる」の割合がほぼ5割弱

問32 問31で「1. はい」に○をつけた方。

それはどのような症状ですか。(複数回答可)

- 歯や口の状態についてきになるところの有無を聞いたところ、「食べ物が歯と歯の間にはさまる」が49.5%と最も高く、次いで「歯が痛んだりしみたりする」(38.0%)、「口臭が気になる」(28.2%)、「歯ぐきが腫れたり出血する」(25.3%)、「硬いものがかみにくい」(19.6%)、「入れ歯が合わない」(10.6%)、「歯がぐらぐらする」(9.3%)、「かむ・味わう・飲み込む事に不自由がある」(5.9%)の順となっている。

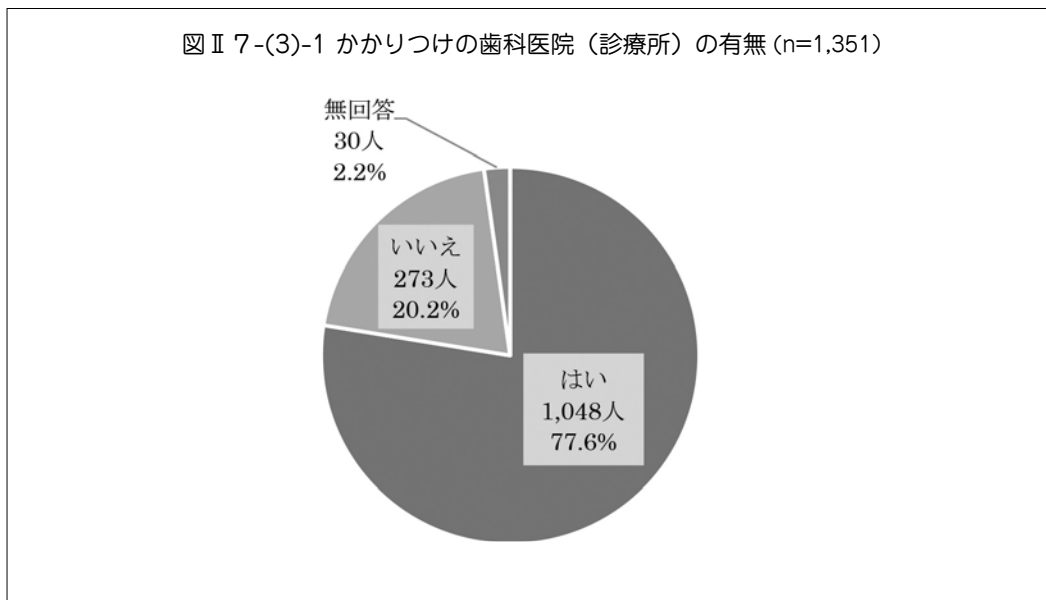


(3) かかりつけの歯科医院（診療所）の有無

「はい」の割合が7割台半ば超え

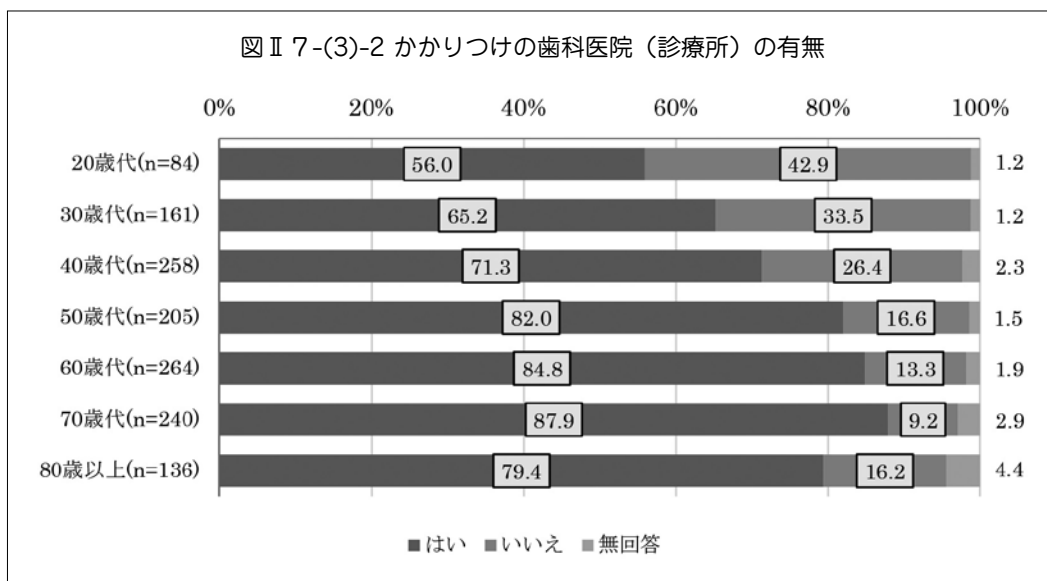
問33 あなたは、かかりつけの歯科医院（診療所）を決めていますか。

- かかりつけの歯科医院（診療所）の有無を聞いたところ、「はい」が77.6%と7割台半ば超えの人がかかりつけの歯科医院があり、「いいえ」が20.2%となっている。



<年齢別>

- かかりつけの歯科医院（診療所）の有無を年齢別に比べてみると、いずれの年代でもかかりつけ歯科医院がある割合が高くなっているが、若い年代ほどない割合が高くなっている。



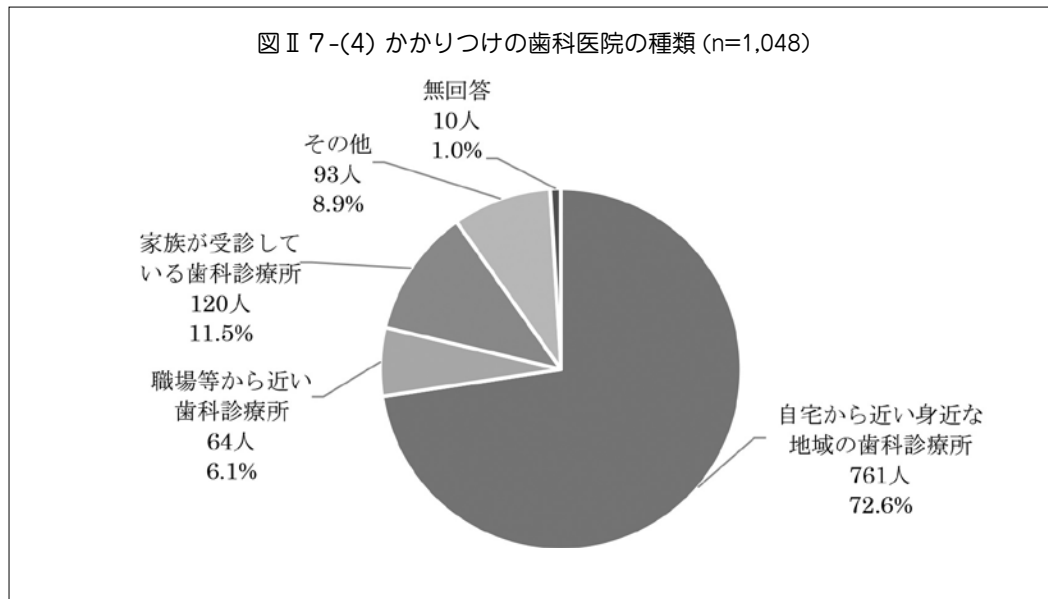
(4) かかりつけの歯科医院の種類

「自宅から近い身近な地域の歯科診療所」の割合が7割強

問34 問33で「1. はい」に○をつけた方。

あなたのかかりつけ歯科医院は次のどれですか。

- かかりつけの歯科医院がある人に、かかりつけの歯科医院の種類を聞いたところ、「自宅から近い身近な地域の歯科診療所」が72.6%と最も高く、次いで「家族が受診している歯科診療所」(11.5%)、「職場等から近い歯科診療所」(6.1%)の順となっている。



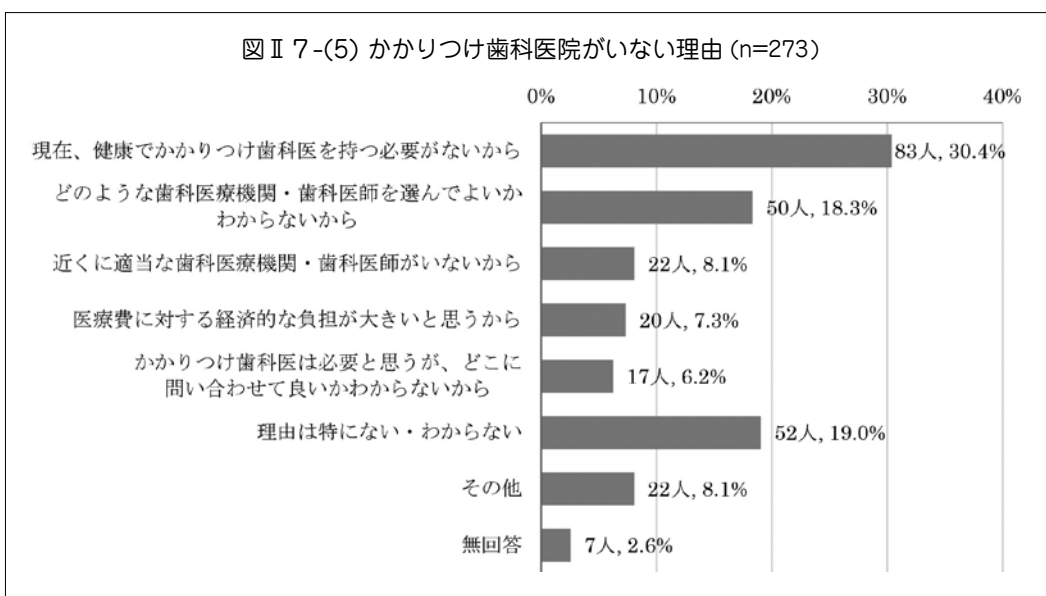
(5) かかりつけ歯科医院がない理由

「現在、健康でかかりつけ歯科医を持つ必要がないから」の割合が約3割

問35 問33で「2. いいえ」に○をつけた方に伺います。

かかりつけ歯科医院がない理由は何ですか。

- かかりつけの歯科医院がない人に、かかりつけ歯科医院がない理由を聞いたところ、「現在、健康でかかりつけ歯科医を持つ必要がないから」が30.4%と最も高く、次いで「理由は特にない・わからない」(19.0%)、「どのような歯科医療機関・歯科医師を選んでよいかわからないから」(18.3%)、「近くに適切な歯科医療機関・歯科医師がないから」と「その他」(8.1%)、「医療費に対する経済的な負担が大きいと思うから」(7.3%)、「かかりつけ歯科医は必要と思うが、どこに問い合わせが良いかわからないから」(6.2%)の順となっている。

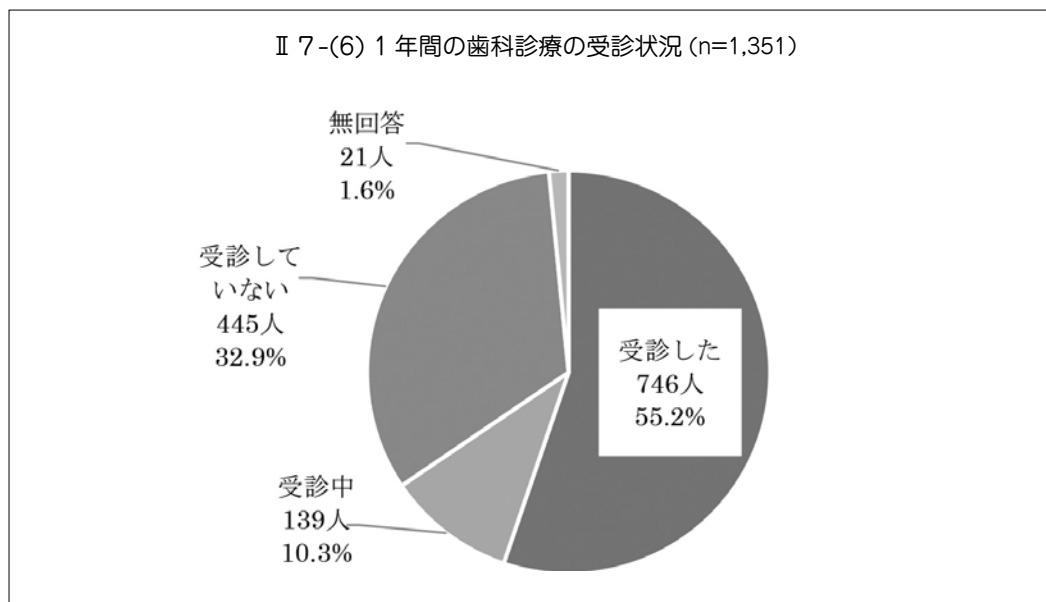


(6) 1年間の歯科診療の受診状況

「受診した」の割合がほぼ4割ずつ

問36 あなたは、この1年間に歯科医院（診療所）や病院の歯科を受診したことがありますか。

- この1年間に歯科医院（診療所）や病院の歯科の受診状況を聞いたところ、「受診した」が55.2%と5割台半ばの人が受診しており、「受診していない」は32.9%、「受診中」は10.3%となっている。



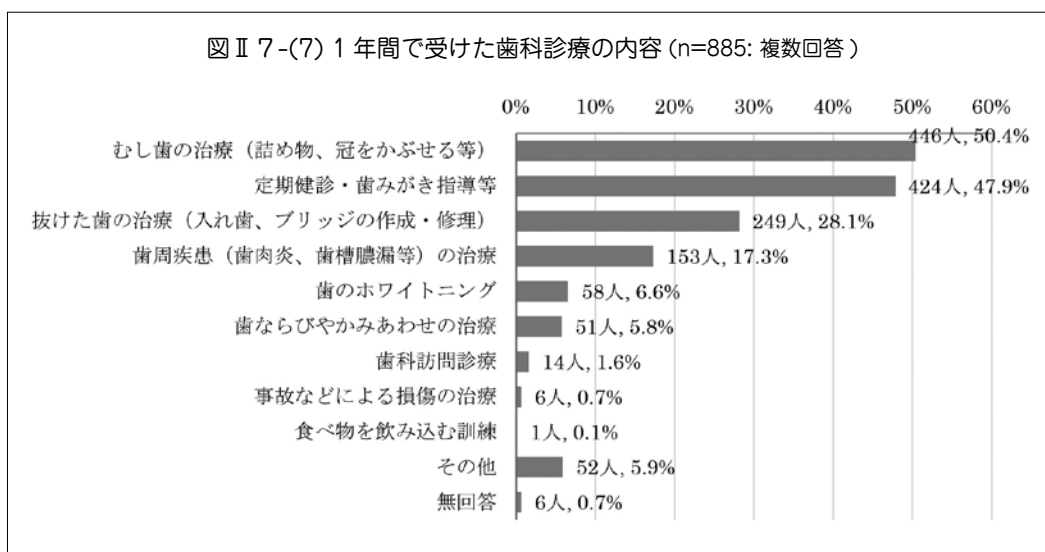
(7) 1年間で受けた歯科診療の内容

「むし歯の治療（詰め物、冠をかぶせる等）」の割合がほぼ約5割

問37 問36で「1. 受診した」、「2. 受診中」に○をつけた方。

受診した内容は何ですか。（複数回答可）

- この1年間に歯科医院を受診した、若しくは受診中の人に、この1年間に歯科医院（診療所）や病院の歯科を受診した内容を聞いたところ、「むし歯の治療（詰め物、冠をかぶせる等）」が50.4%と最も高く、次いで「定期健診・歯みがき指導等」（47.9%）、「抜けた歯の治療（入れ歯、ブリッジの作成・修理）」（28.1%）、「歯周疾患（歯肉炎、歯槽膿漏等）の治療」（17.3%）、「歯のホワイトニング」（6.6%）、「歯ならびやかみあわせの治療」（5.8%）の順となっている。



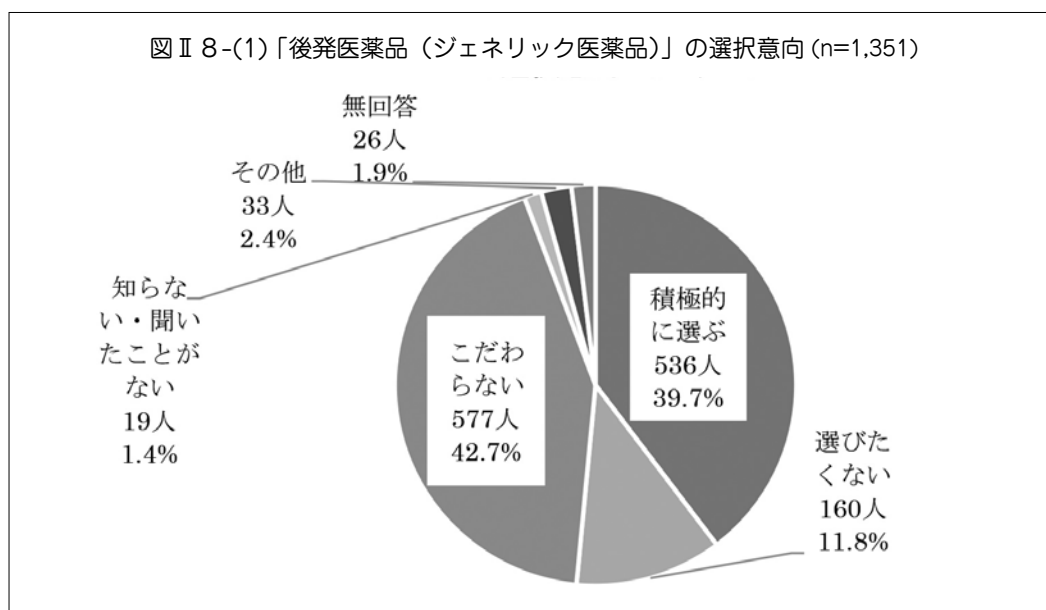
8. 薬と薬局について

(1)「後発医薬品（ジェネリック医薬品）」の選択意向

「こだわらない」の割合がほぼ4割強

問38 あなたは、「後発医薬品（ジェネリック医薬品）」を積極的に選びますか。

- 「後発医薬品（ジェネリック医薬品）」の選択意向を聞いたところ、「こだわらない」が42.7%と最も高く、次いで「積極的に選ぶ」（39.7%）、「選びたくない」（11.8%）となっている。
- 「知らない・聞いたことがない」の割合は1.4%と知らない人は少なかった。

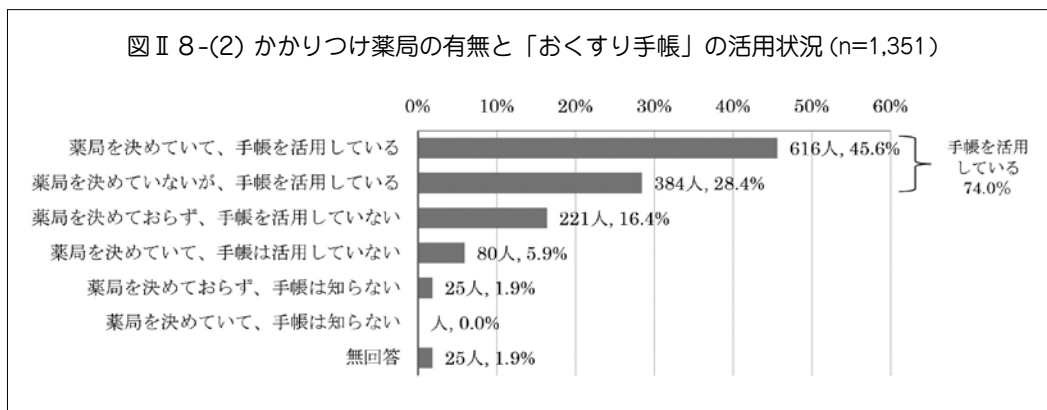


(2) かかりつけ薬局の有無と「おくすり手帳」の活用状況

「手帳を活用している」の割合が74.0%と7割台半ば近くがお薬手帳を活用

問39 あなたは、かかりつけ薬局を決めておくすり手帳を活用していますか。

- かかりつけ薬局の有無と「おくすり手帳」の活用状況を聞いたところ、「薬局を決めていて、手帳を活用している」が45.6%と最も高く、次いで「薬局を決めていないが、手帳を活用している」(28.4%)となっており、4人に3人がお薬手帳を活用している状況になる。
- 「薬局を決めていて、手帳は知らない」と答えた人はいなかった。



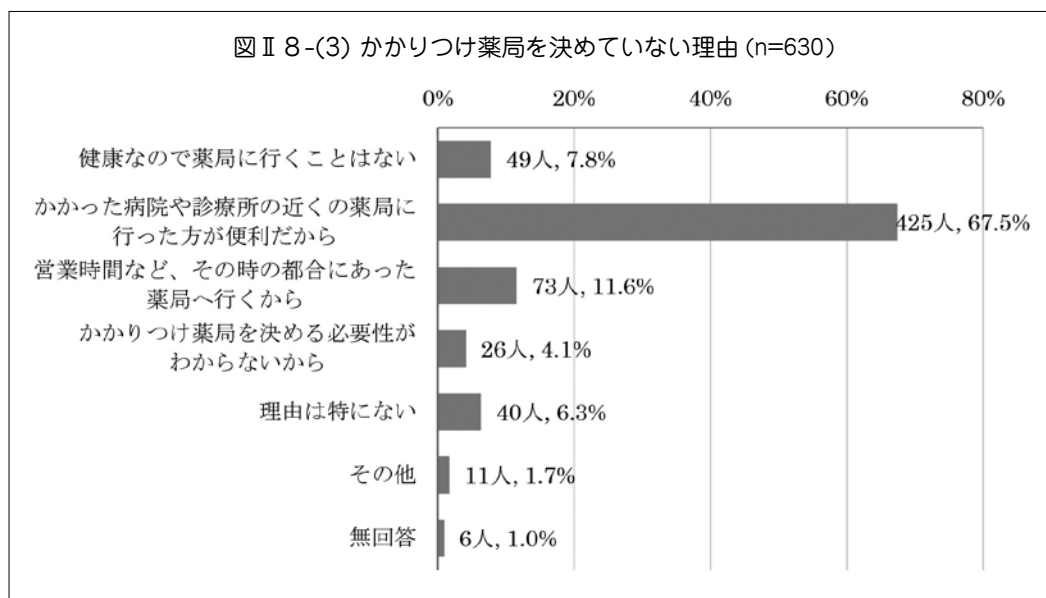
(3) かかりつけ薬局を決めていない理由

「かかった病院や診療所の近くの薬局に行った方が便利だから」の割合が6割台半ば超え

問40 問39で「4. 薬局を決めていないが～」「5. 薬局を決めておらず、～」「6. 薬局を決めておらず、～」に○をつけた方。

かかりつけ薬局を決めていない理由は何ですか。

- 「薬局を決めていないが、手帳を活用している」「薬局を決めておらず、手帳を活用していない」「薬局を決めておらず、手帳は知らない」と答えた人にかかりつけ薬局を決めていない理由を聞いたところ、「かかった病院や診療所の近くの薬局に行った方が便利だから」が67.5%と最も高く、次いで「営業時間など、その時の都合にあった薬局へ行くから」(11.6%)、「健康なので薬局に行くことはない」(7.8%)の順となっている。
- 「理由は特にない」は6.3%、「かかりつけ薬局を決める必要性がわからないから」は4.1%となっている。



9. 医療制度等について

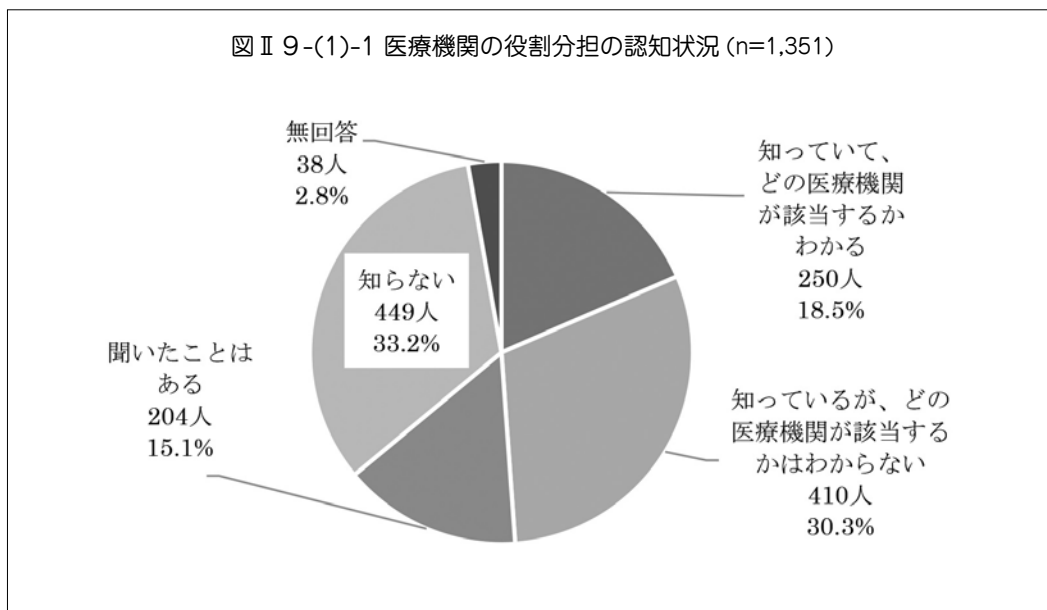
(1) 医療機関の役割分担の認知状況

『知っている』（「知っている、どの医療機関が該当するか分かる」及び「知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない」）が約5割

問41 医療機関には、

- 軽いけがや風邪等の入院や手術を伴わない軽症に対応する医療機関（一次）
 - 胃潰瘍など入院や手術を伴う重症に対応する医療機関（二次）
 - 交通事故による多発外傷など生命の危機に係わる症状に対応する医療機関（三次）
- とそれぞれ役割があり、役割に応じた医療機関を受診することが望ましいことを知っていますか。

- 医療機関の役割分担（一次・二次・三次医療機関の役割分担）の認知状況を聞いたところ、「知っている、どの医療機関が該当するか分かる」が18.5%、「知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない」が30.3%と、『知っている』という回答が48.8%となり、約5割の方が認知していた。「聞いたことはある」は15.1%、「知らない」は33.2%となっている。



<年齢別>

- 医療機関の役割分担（一次・二次・三次医療機関の役割分担）の認知状況を年齢別に比較してみると、20～40歳代の若い年代と80歳以上では「知らない」の割合が最も高く、50～70歳代では「知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない」の割合が最も高くなっている。

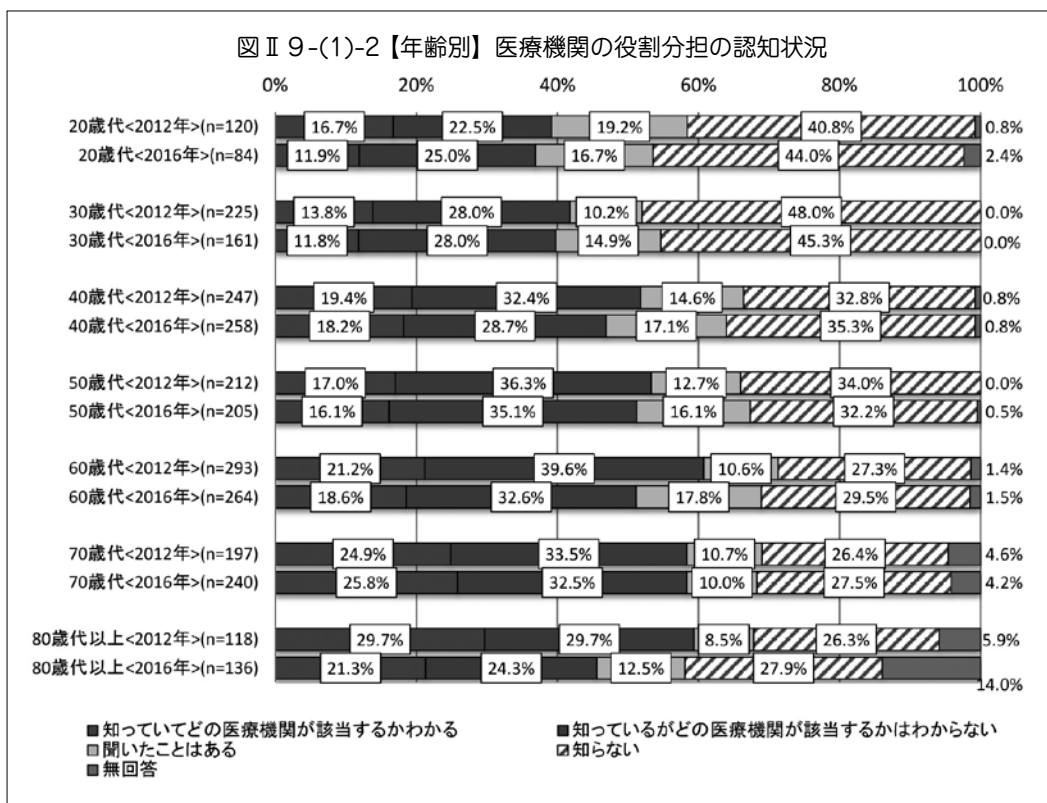
<職業別>

- また職業別に比較してみると、「自営業」「主婦・主夫」は「知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない」が、「会社員・公務員」「パート・アルバイト」「学生」「無職」は「知らない」がそれぞれ最も高い割合となっている。

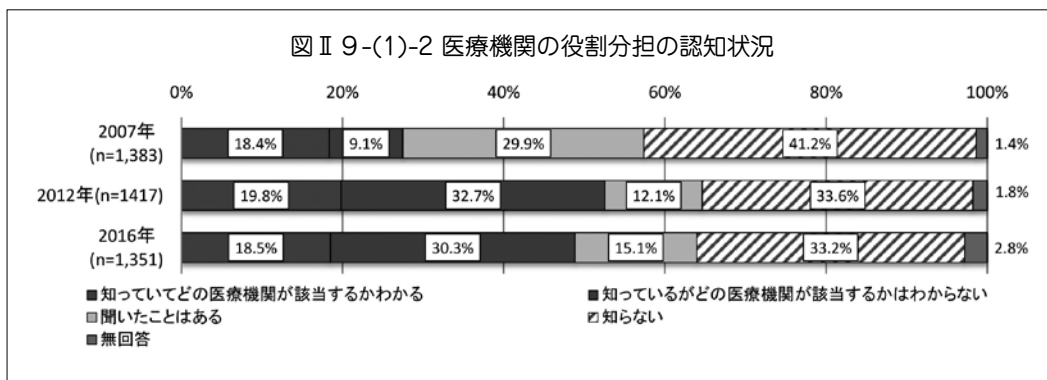
表Ⅱ 9-(1)【年齢・職業別】医療機関の役割分担の認知状況

		合計	問 41 役割に応じた医療機関を受診することが望ましいことの認知度				
			知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない	知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		1,351	18.5	30.3	15.1	33.2	2.8
年齢 問 1 (年代別)	20歳代	84	11.9	25.0	16.7	44.0	2.4
	30歳代	161	11.8	28.0	14.9	45.3	0.0
	40歳代	258	18.2	28.7	17.1	35.3	0.8
	50歳代	205	16.1	35.1	16.1	32.2	0.5
	60歳代	264	18.6	32.6	17.8	29.5	1.5
	70歳代	240	25.8	32.5	10.0	27.5	4.2
	80歳以上	136	21.3	24.3	12.5	27.9	14.0
職業 問 4	自営業	60	20.0	35.0	11.7	31.7	1.7
	会社員・公務員	408	12.5	32.1	16.7	38.2	0.5
	パート・アルバイト	196	17.3	25.5	18.4	38.8	0.0
	主婦・主夫	298	23.5	31.9	15.8	25.8	3.0
	学生	28	21.4	17.9	14.3	46.4	0.0
	無職	314	22.6	27.7	11.1	31.8	6.7
	その他	41	9.8	43.9	17.1	17.1	12.2

- 医療機関の役割分担（一次・二次・三次医療機関の役割分担）の認知状況を年齢別に2012年調査と比較をしてみると、全体的に「知っているどの医療機関が該当するかわかる」と「知っているがどの医療機関が該当するかわからない」の割合が下がる傾向がみられた。



- 医療機関の役割分担（一次・二次・三次医療機関の役割分担）の認知状況を2007年調査と2012年調査と比較をしてみると、「知っているどの医療機関が該当するかわかる」の割合は、2007年・2012年調査と比べて多少の上下はあるがあまり差がなかった。
- 「知っているが、どの医療機関が該当するかわからない」の割合は、2007年調査に比べると21.2ポイント増えたが、2012年調査に比べると2.4ポイント下がった。
- 「聞いたことがある」の割合は、2007年調査に比べると14.8ポイント減少しており、2012年調査と比べると3.0ポイント上がった。
- 「知らない」の割合は、2007年調査に比べると8.0ポイント下がっており、2012年調査とは、ほぼ同じである。

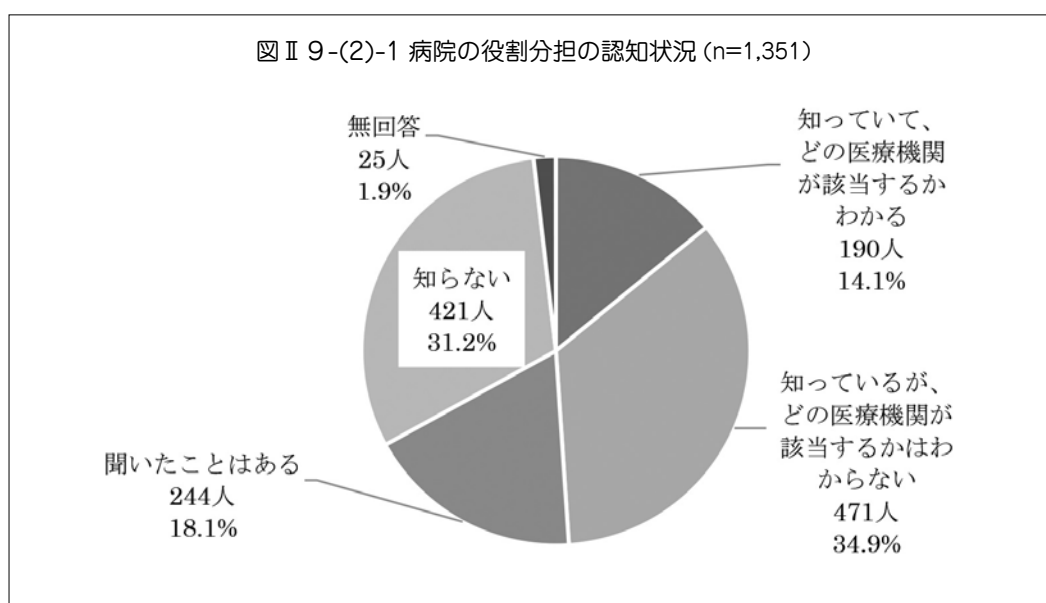


(2) 病院の役割分担の認知状況

『知っている』（「知っていて、どの医療機関が該当するかわかる」及び「知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない」）の割合が約5割

問42 病院には、急性期病院、回復期リハビリテーション病院、療養を担う病院などがあり、それぞれの病院ごとに役割が違うことを知っていますか。

- 急性期病院・回復期リハビリテーション病院・療養病院の役割（病院の役割分担）の認知状況を聞いたところ、「知っていて、どの医療機関が該当するかわかる」が14.1%、「知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない」が34.9%と、『知っている』という回答が49.0%となり、約5割の方が認知している。「聞いたことはある」が18.1%、「知らない」が31.2%となっている。



<年齢別>

- 病院の役割分担の認知状況（病床（急性・回リハ・療養）認知度）を年齢別に比較してみると、20～40歳代の若い年代と80歳以上では「知らない」の割合が最も高く、50～70歳代では「知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない」の割合が最も高くなっている。

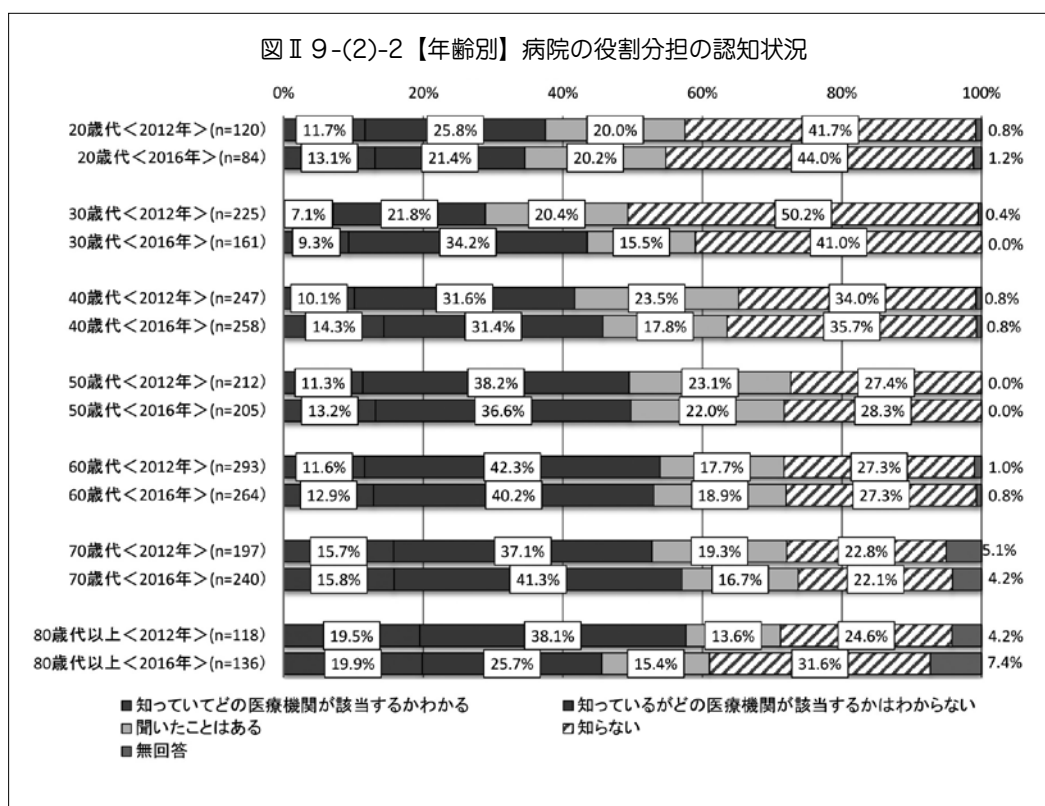
<職業別>

- また職業別に比較してみると、「自営業」「パート・アルバイト」「主婦・主夫」「無職」は「知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない」が、「会社員・公務員」「学生」は「知らない」がそれぞれ最も高い割合となっている。

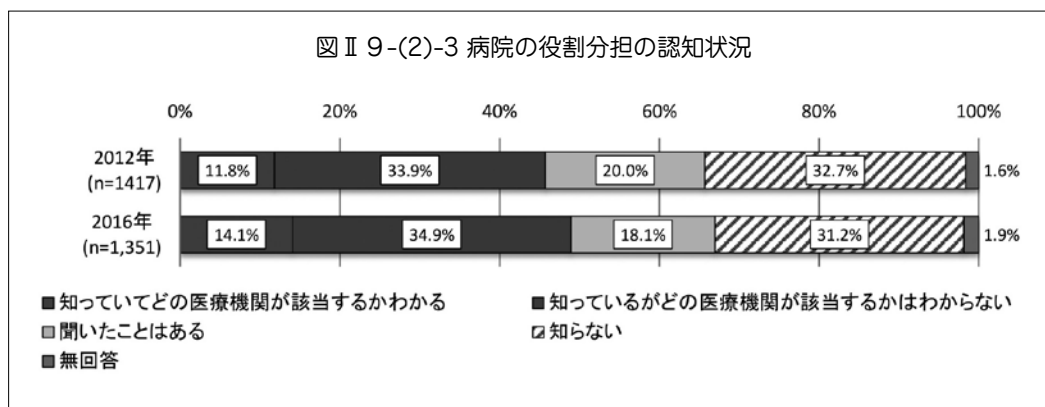
表 II 9-(2) 【年齢・職業別】 病院の役割分担の認知状況

		合計	問 42 病院ごとに役割が違うことの認知度				
			知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない	知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない	聞いたことはある	知らない	無回答
全体		1,351	14.1	34.9	18.1	31.2	1.9
年齢 問 1 (年代別)	20歳代	84	13.1	21.4	20.2	44.0	1.2
	30歳代	161	9.3	34.2	15.5	41.0	0.0
	40歳代	258	14.3	31.4	17.8	35.7	0.8
	50歳代	205	13.2	36.6	22.0	28.3	0.0
	60歳代	264	12.9	40.2	18.9	27.3	0.8
	70歳代	240	15.8	41.3	16.7	22.1	4.2
	80歳以上	136	19.9	25.7	15.4	31.6	7.4
職業 問 4	自営業	60	8.3	40.0	16.7	33.3	1.7
	会社員・公務員	408	10.8	34.8	16.7	37.3	0.5
	パート・アルバイト	196	11.7	35.2	21.4	31.6	0.0
	主婦・主夫	298	17.1	34.2	19.5	27.5	1.7
	学生	28	17.9	25.0	17.9	39.3	0.0
	無職	314	16.9	35.0	17.2	26.4	4.5
	その他	41	17.1	34.1	17.1	24.4	7.3

- 病院の役割分担の認知状況（病床（急性・回リハ・療養）認知度）を年齢別に2012年調査と比較をしてみると、30歳代、40歳代、70歳代では「知っているがどの医療機関が該当するか分からない」と「知っているがどの医療機関が該当するかわからない」の割合が上がる傾向がみられた。



- 病院の役割分担の認知状況（病床（急性・回リハ・療養）認知度）を2012年調査と比較をしてみると、「知っているがどの医療機関が該当するかわからない」の割合は、2012年調査と比べて2.3ポイント、「知っているが、どの医療機関が該当するかわからない」の割合は、2012年調査と比べて1.0ポイント上がった。
- 「聞いたことがある」の割合は、2012年調査と比べると1.9ポイント下がり、「知らない」の割合は、2012年調査と比べて、1.5ポイント下がった。



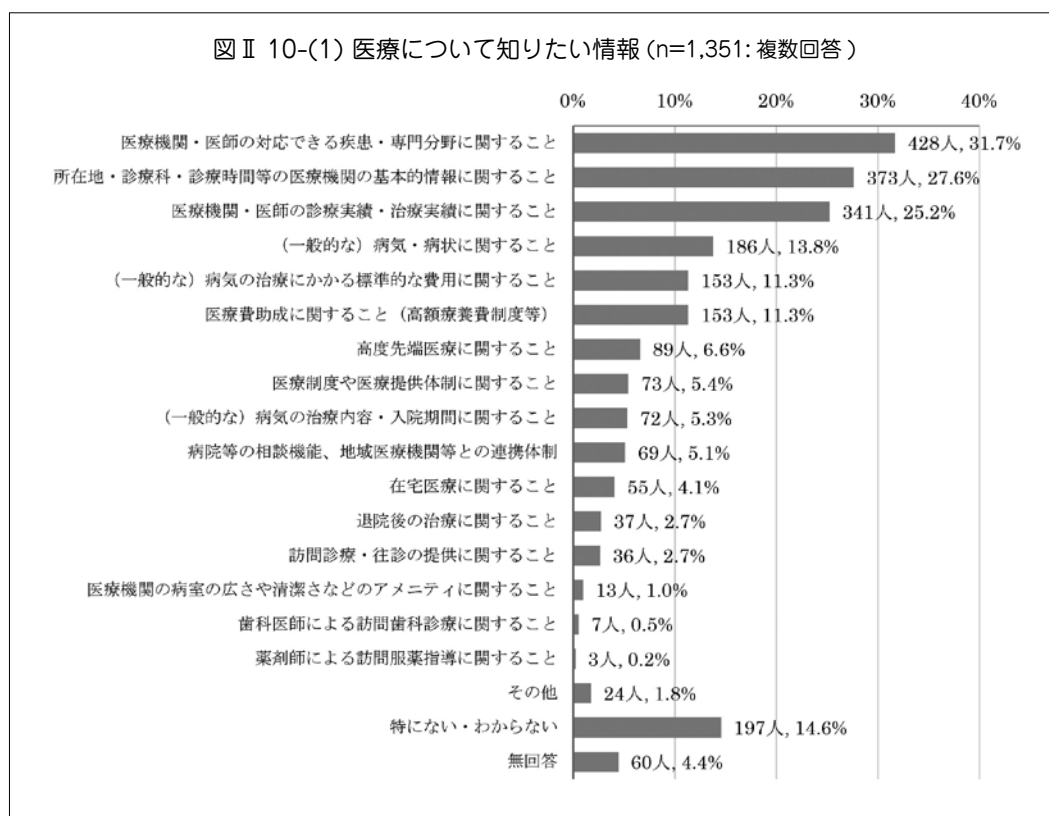
10. 医療への満足度と医療情報の提供について

(1) 医療について知りたい情報

「医療機関・医師の対応できる疾患・専門分野に関すること」の割合が3割強

問43 あなたが現在、医療について知りたい情報は何か。(複数回答(2つまで)可)

- 医療について知りたい情報を聞いたところ、「医療機関・医師の対応できる疾患・専門分野に関すること」が31.7%で最も高く、次いで「所在地・診療科・診療時間等の医療機関の基本的情報に関すること」(27.6%)、「医療機関・医師の診療実績・治療実績に関すること」(25.2%)、「(一般的な)病気・病状に関すること」と「(一般的な)病気の治療にかかる標準的な費用に関すること」が共に13.8%の順となっている。

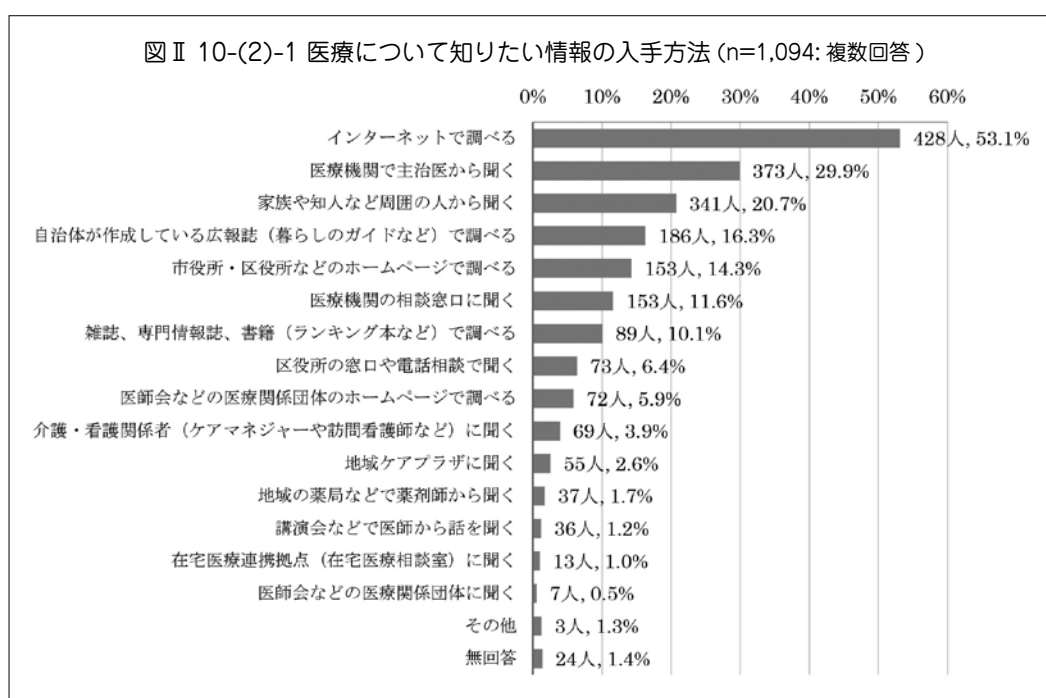


(2) 医療について知りたい情報の入手方法

「インターネットで調べる」の割合が5割台半ば近く

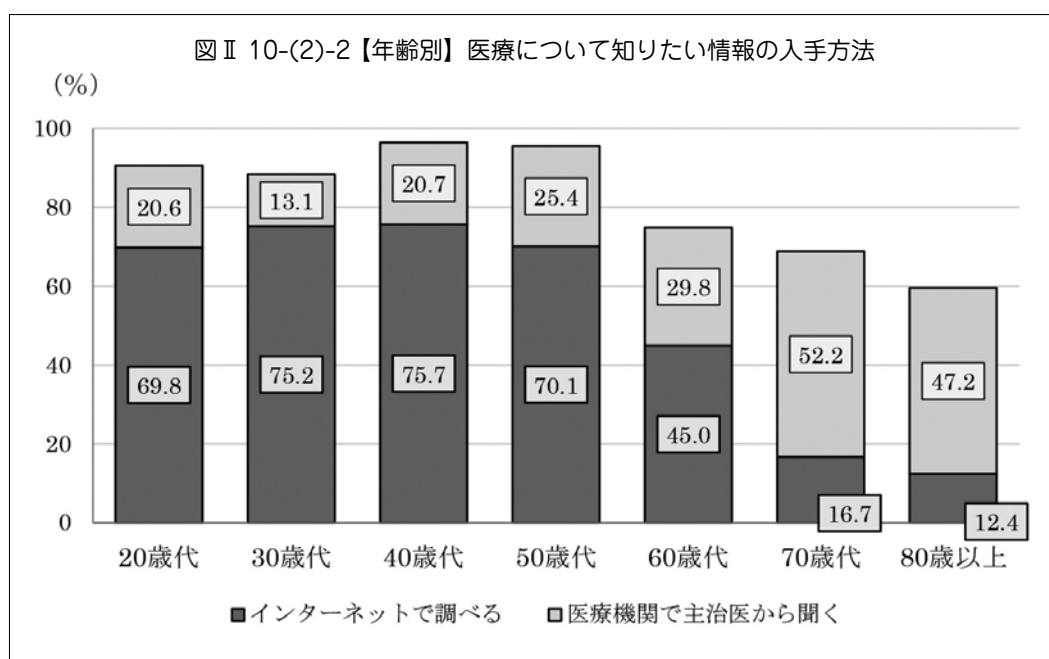
問44 問43で○をつけた情報について、あなたは、どのような方法・手段で情報を知りたいと考えますか。

- 問43で答えた医療について知りたい情報の入手方法を聞いたところ、「インターネットで調べる」が53.1%と最も高く、次いで「医療機関で主治医から聞く」(29.9%)、「家族や知人など周囲の人から聞く」(20.7%)、「自治体が作成している広報誌(暮らしのガイドなど)で調べる」(16.3%)、「市役所・区役所などのホームページで調べる」(14.3%)、「医療機関の相談窓口に行く」(11.6%)、「雑誌、専門情報誌、書籍(ランキング本など)で調べる」(10.1%)の順となっている。



<年齢別>

- 医療について知りたい情報の入手方法を年代別に比較してみると、20～60歳代の若い年代では「インターネットで調べる」を、70歳代以上では「医療機関で主治医から聞く」がそれぞれ最も高い割合となっている。



(3) 横浜市の医療等の満足度

「横浜市の医療について(総合的に)」の『満足』の方が『不満足』より1割近く高い

問45 横浜市の医療などに満足していますか。

「わからない」「無回答」を除いて、「満足・やや満足」と「やや不満・不満」に注目すると、

- 各診療内容とも、「満足・やや満足」と「やや不満・不満」の回答は概ね拮抗している。
- 「あなたが受診した医療」について聞くと、大半は「満足・やや満足」と回答している。
- 横浜市の医療などについて満足しているかを聞いたところ、「横浜の医療について(総合的に)」では「満足」(4.5%)と「やや満足」(29.2%)を合わせた『満足』が33.7%、「やや不満」(18.2%)と「不満」(6.7%)を合わせた『不満足』が24.9%と『満足』の方が『不満足』より8.8ポイント高くなっている。



<性別>

- 「横浜の医療について(総合的に)」を男女別に比べてみると、男性は「やや満足」が、女性は「わからない」の割合が最も高くなっている。

<年齢別>

- 年代別に比べてみると、20～60歳代は「わからない」が、70歳代以上は「やや満足」の割合が最も高くなっている。

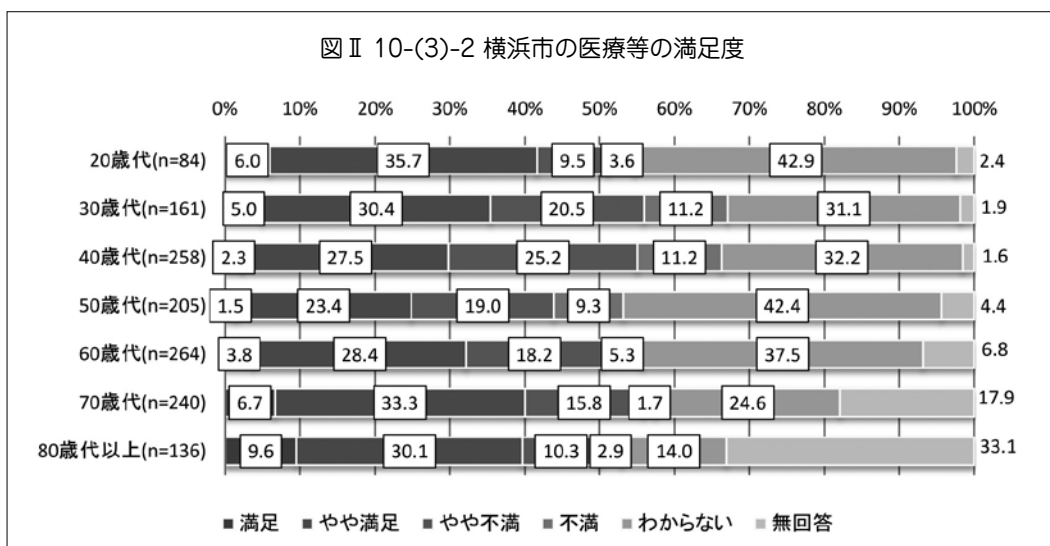
<職業別>

- 職業別に比べてみると、「自営業」「会社員・公務員」「パート・アルバイト」「学生」は「わからない」の割合が最も多く、「主婦・主夫」「学生」は「やや満足」が最も割合が高くなっている。

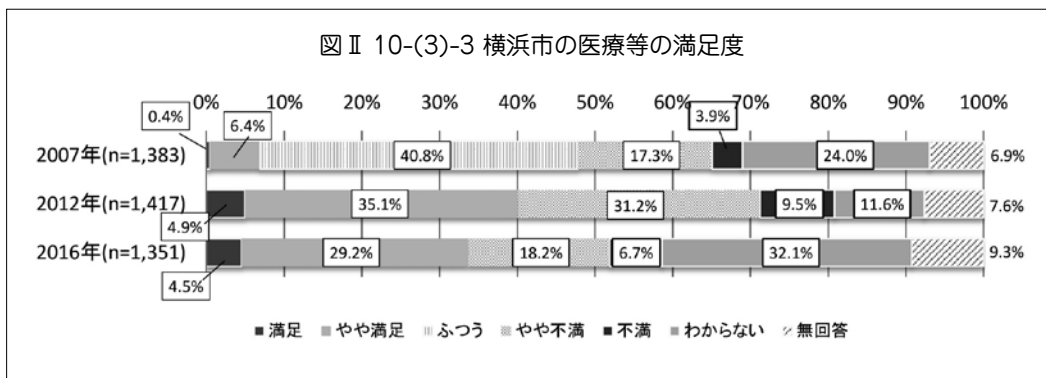
表Ⅱ 10-(3)-1 【性・年齢・職業別】横浜市の医療等の満足度

		合計	問 45-19 横浜の医療について (総合的に)					無回答
			満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	
全体		1,351	4.5	29.2	18.2	6.7	32.1	9.3
性別 2	男性	600	5.7	32.3	15.0	8.2	30.0	8.8
	女性	745	3.6	26.8	20.7	5.6	34.0	9.3
年齢 1 (年代別)	20歳代(n=84)	84	6.0	35.7	9.5	3.6	42.9	2.4
	30歳代(n=161)	161	5.0	30.4	20.5	11.2	31.1	1.9
	40歳代(n=258)	258	2.3	27.5	25.2	11.2	32.2	1.6
	50歳代(n=205)	205	1.5	23.4	19.0	9.3	42.4	4.4
	60歳代(n=264)	264	3.8	28.4	18.2	5.3	37.5	6.8
	70歳代(n=240)	240	6.7	33.3	15.8	1.7	24.6	17.9
	80歳以上(n=136)	136	9.6	30.1	10.3	2.9	14.0	33.1
職業 4	自営業	60	0.0	26.7	23.3	6.7	38.3	5.0
	会社員・公務員	408	2.5	29.4	19.9	10.0	35.5	2.7
	パート・アルバイト	196	3.6	23.0	21.4	8.7	39.8	3.6
	主婦・主夫	298	4.4	30.5	19.8	5.7	28.9	10.7
	学生	28	10.7	39.3	3.6	0.0	42.9	3.6
	無職	314	8.6	30.9	13.4	2.9	24.5	19.7
	その他	41	2.4	34.1	14.6	7.3	29.3	12.2

図Ⅱ 10-(3)-2 横浜市の医療等の満足度



- 「横浜の医療について(総合的に)」を2012年調査と比較をしてみると、「満足」と「やや満足」を足した『満足』の割合と「やや不満足」と「不満」を足した『不満足』の割合は、2012年調査では、ほぼ拮抗していたが、2016年調査では、『満足』が『不満足』を8.8ポイント上回った。一方、「わからない」の割合は前回調査に比べて20.5ポイント上がっている。

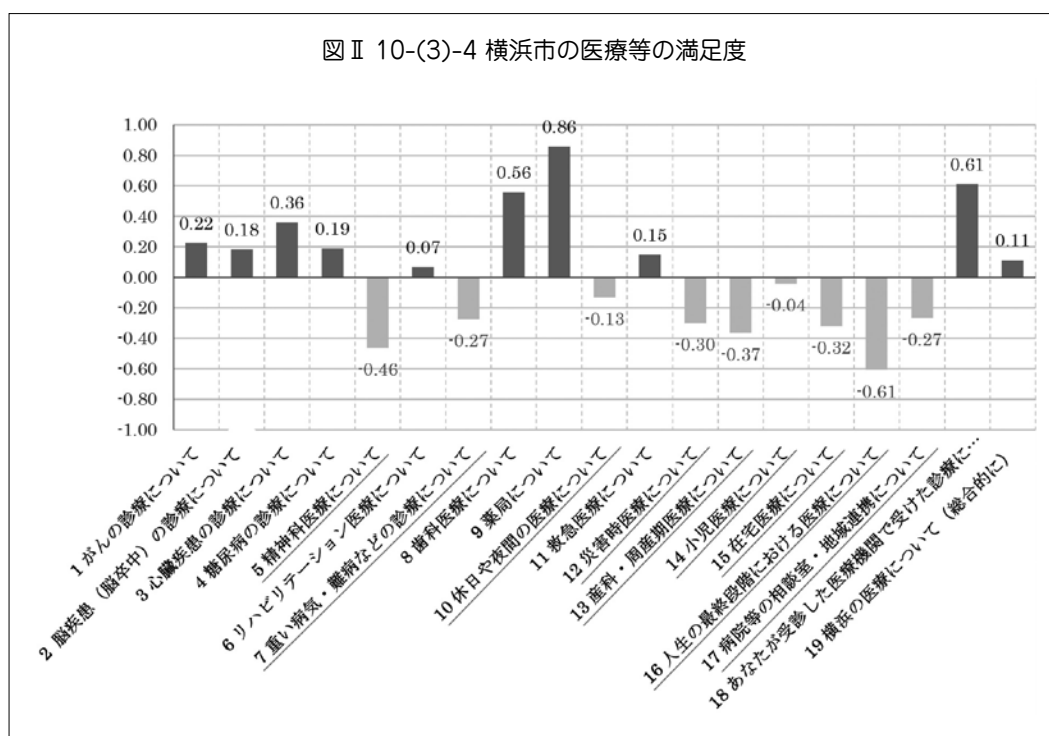


- それぞれの項目を比率でみるのとは別に、加重平均による満足度の算出を試みた。下式にあるように項目に点数を与え、満足度を算出した。

<評価点の算出式>

$$\text{満足度} = \frac{\begin{aligned} &+「満 足」の回答数 \times +2 \text{ 点} \\ &+「やや満足」の回答数 \times +1 \text{ 点} \\ &+「やや不満」の回答数 \times -1 \text{ 点} \\ &+「不 満」の回答数 \times -2 \text{ 点} \end{aligned}}{\text{母数 } 1,351 - (\text{「関わったことがないのでわからない」} + \text{「無回答」})}$$

この算出方法による満足度は、+2.00点から-2.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+2.00点に近いほど満足度が高く、-2.00に近いほど満足度が低い(不満度が高い)ことになる。



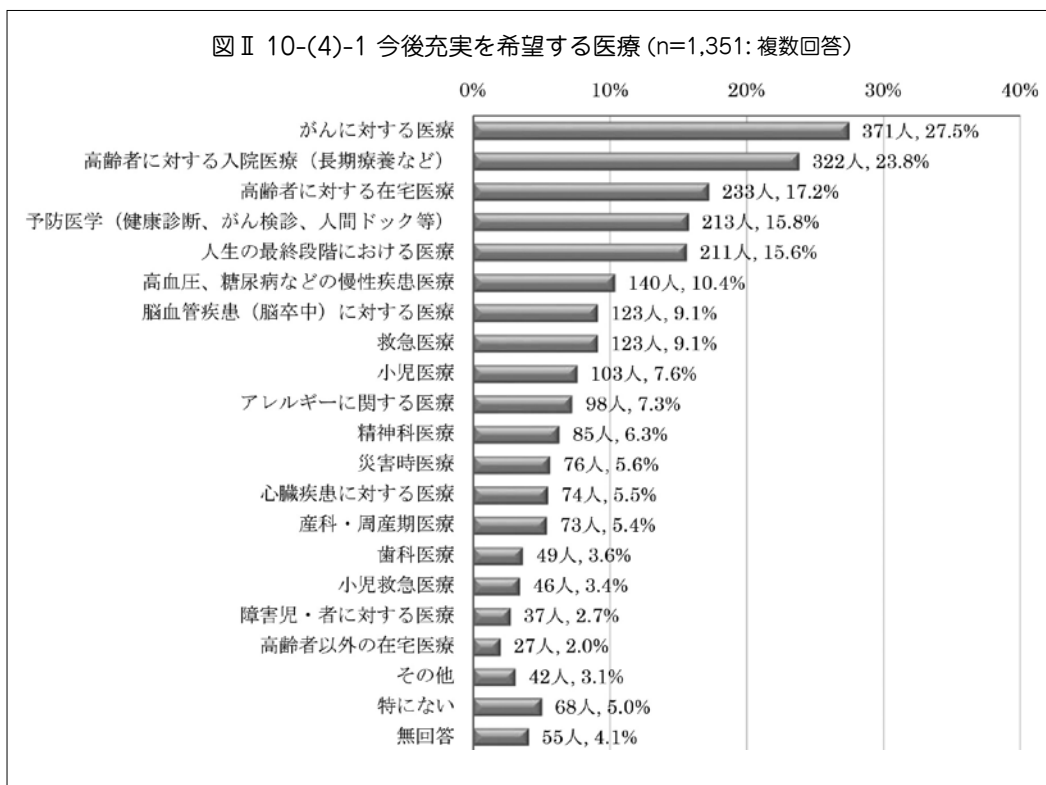
- 各項目の評価点でみると、「薬局について」の評価点が0.86で最も高く、次いで「あなたが受診した医療機関で受けた診療について」(0.61)、「歯科医療について」(0.56)となっている。
- 一方、「人生の最終段階における医療について」の評価点が-0.61で最も低く、次いで「精神科医療について」(-0.46)、「産科・周産期医療について」(-0.37)となっている。

(4) 今後充実を希望する医療

「がんに対する医療」の割合が2割台半ば超、次いで「高齢者に対する入院医療（長期療養など）」が2割台半ば近く

問46 あなたが、今後、充実を希望する医療は何ですか。（複数回答（2つまで）可）

- 今後充実を希望する医療を聞いたところ、「がんに対する医療」が27.5%と最も高く、次いで「高齢者に対する入院医療（長期療養など）」（23.8%）、「高齢者に対する在宅医療（在宅歯科医療、服薬指導、訪問看護等を含む）」（17.2%）の順となっている。



用語解説

○ 人生の最終段階における医療

末期がんなどの患者に対して主に延命治療ではなく、身体的苦痛・精神的苦痛を軽減することによって残りの人生の質を向上することを目的とした療養法のこと。従来「終末期医療」と言われていましたが、最期まで尊厳を尊重したじ人間の生き方に着目した医療を目指すことが重要であるとの考え方に基づき、改められました。

<性別>

- 今後充実を希望する医療を男女別に比べてみると、男性は「がんに対する医療」を、女性は「高齢者に対する入院医療」の割合が最も高くなっている。

<年齢別>

- 年代別に比べてみると、20歳代は「がんに対する医療」「アレルギーに関する医療」「予防医学」が同率で、30歳代は「小児医療」が、40～50歳代は「がんに対する医療」が、60歳以上は「高齢者に対する入院医療」がそれぞれ最も高い割合になっている。

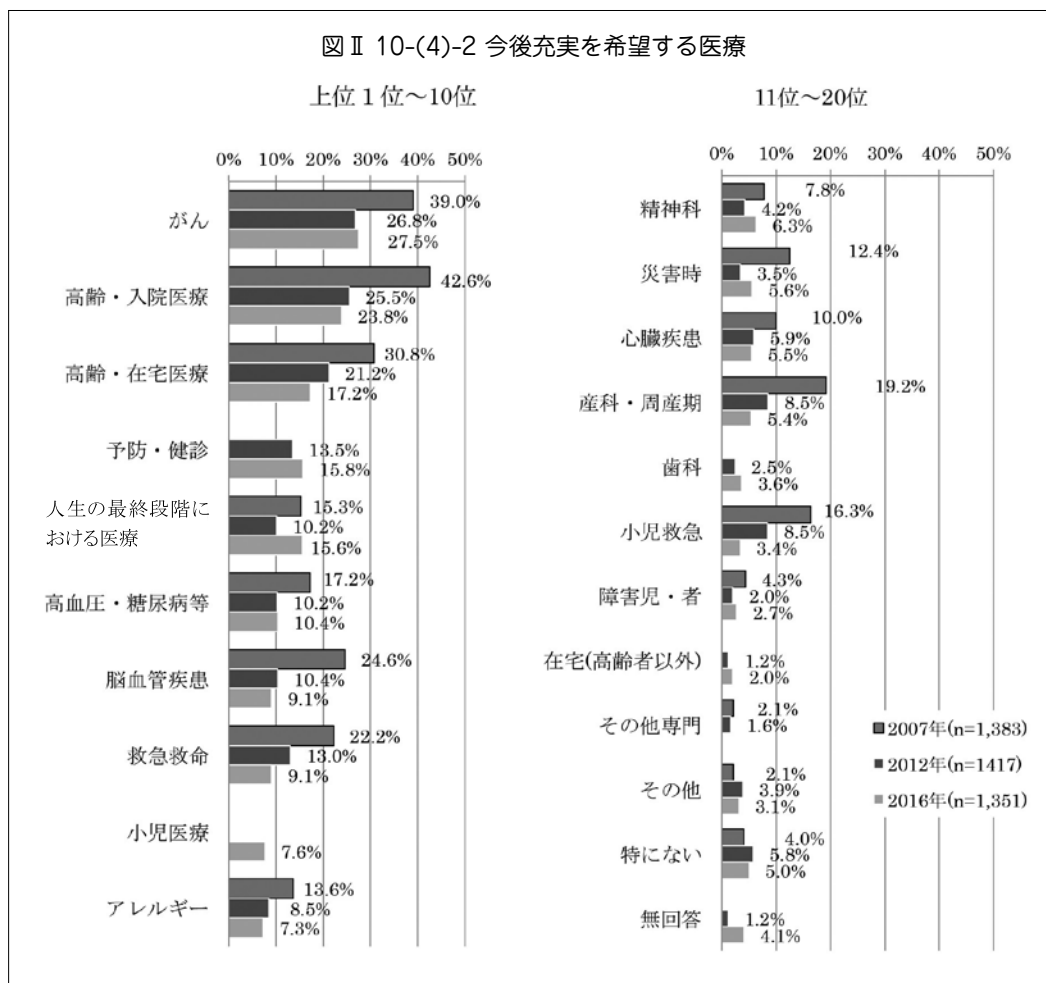
<職業別>

- 職業別に比べてみると、「自営業」「会社員・公務員」「パート・アルバイト」で「がんに対する医療」が、「主婦・主夫」「無職」は「高齢者に対する入院医療」が、「学生」は「がんに対する医療」「アレルギーに関する医療」「災害時医療」「特にない」が同率でそれぞれ最も高い割合になっている。

表Ⅱ 10-(4) 【性・年齢・職業別】 今後充実を希望する医療

		合計	問 46 今後、充実を希望する医																				
			がんに対する医療	脳血管疾患（脳卒中）に対する医療	心臓疾患に対する医療	高血圧、糖尿病などの慢性疾患医療	アレルギーに関する医療	精神科医療	障害児・者に対する医療	歯科医療	救急医療	災害時医療	産科・周産期医療	小児医療	小児救急医療	高齢者に対する在宅医療	高齢者に対する入院医療	人生の最終段階における医療	予防医学	高齢者以外の在宅医療	その他	特にない	無回答
	全体	1,351	27.5	9.1	5.5	10.4	7.3	6.3	2.7	3.6	9.1	5.6	5.4	7.6	3.4	17.2	23.8	15.6	15.8	2.0	3.1	5.0	4.1
性別 問 2	男性	600	30.5	11.0	6.7	11.5	5.8	7.0	2.5	4.0	10.3	4.7	4.3	7.2	3.2	17.2	20.5	14.8	16.5	1.3	2.8	5.2	4.2
	女性	745	25.1	7.7	4.3	9.3	8.5	5.6	3.0	3.4	8.2	6.4	6.2	7.9	3.6	17.3	26.6	16.4	15.3	2.6	3.4	5.0	3.9
年齢 (年代別) 問 1	20歳代	84	16.7	3.6	1.2	7.1	16.7	9.5	6.0	3.6	11.9	14.3	14.3	8.3	3.6	6.0	2.4	3.6	16.7	1.2	6.0	14.3	6.0
	30歳代	161	19.3	2.5	0.6	3.7	11.8	6.8	3.1	3.7	8.1	5.6	19.3	31.1	15.5	5.0	6.2	5.6	23.6	0.6	5.0	5.6	1.2
	40歳代	258	31.4	6.6	3.9	7.8	8.5	10.1	3.5	4.3	8.9	6.6	3.5	11.2	4.3	11.2	12.0	10.1	22.9	3.9	4.3	7.0	2.3
	50歳代	205	31.2	8.3	3.9	7.3	6.3	6.8	4.4	4.9	14.6	6.8	4.4	2.9	1.0	20.5	29.8	16.1	18.5	1.5	3.4	3.9	2.4
	60歳代	264	28.8	12.1	5.7	9.5	5.7	4.5	1.5	0.8	9.1	2.7	3.0	3.0	1.1	22.0	31.4	18.2	14.4	1.5	2.3	4.2	5.3
	70歳代	240	29.6	13.8	10.8	16.7	4.2	5.0	0.8	5.0	5.0	2.9	1.3	0.8	0.4	22.5	35.4	27.1	7.1	1.7	0.8	2.9	4.6
	80歳以上	136	24.3	11.8	8.8	19.9	3.7	1.5	2.2	3.7	8.1	7.4	0.0	0.0	0.7	27.2	36.8	19.9	6.6	2.9	2.2	2.2	8.8
	年齢 (高齢者区分) 問 1	65～74歳	260	28.8	13.1	7.3	11.5	5.4	4.6	1.5	3.1	7.3	2.7	1.5	1.9	1.2	21.5	32.7	22.3	10.8	1.9	1.9	3.8
75歳以上		274	26.3	13.9	10.6	19.3	4.0	3.3	1.1	4.0	7.7	5.1	0.7	0.7	0.4	26.6	36.5	23.4	6.2	2.2	1.5	2.2	6.9
職業 問 4	自営業	60	38.3	11.7	8.3	8.3	6.7	10.0	1.7	6.7	10.0	6.7	5.0	5.0	3.3	16.7	21.7	26.7	8.3	0.0	3.3	3.3	5.0
	会社員・公務員	408	30.6	6.9	3.4	7.6	8.1	7.1	2.7	3.2	10.0	4.4	8.8	12.7	6.1	13.2	16.9	11.8	22.5	2.5	3.9	5.9	1.5
	パート・アルバイト	196	27.6	9.7	3.6	5.6	10.2	7.7	3.1	3.1	7.1	7.7	4.1	4.1	2.0	16.3	26.0	12.2	19.9	1.0	4.1	3.6	3.1
	主婦・主夫	298	24.2	8.4	5.0	9.4	7.4	4.4	3.4	3.0	10.1	5.7	5.4	8.7	3.4	17.1	24.5	17.1	12.1	2.3	2.3	6.0	4.4
	学生	28	17.9	3.6	0.0	10.7	17.9	3.6	7.1	7.1	14.3	17.9	10.7	7.1	0.0	7.1	3.6	7.1	10.7	0.0	3.6	17.9	3.6
	無職	314	26.1	12.1	9.2	16.9	3.5	6.4	2.2	4.1	7.6	5.1	1.0	1.9	1.3	25.5	35.0	20.7	8.6	2.2	1.9	3.2	7.0
	その他	41	22.0	9.8	4.9	19.5	7.3	2.4	0.0	2.4	9.8	2.4	7.3	12.2	2.4	9.8	9.8	9.8	26.8	2.4	4.9	4.9	7.3

- 「横浜の医療について(総合的に)」を2012年調査と比較をしてみると、人生の最終段階における医療への関心が5.4ポイント上がっており、その他は概ね前回同様となっている。



調查票

調査票

【基礎項目】

問1 あなたの年齢について、**あてはまるものを1つ**選び、番号に○をつけてください。

- | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 1. 20歳代 | 2. 30歳代 | 3. 40歳代 | 4. 50歳代 | 5. 60～64歳 |
| 6. 65～69歳 | 7. 70～74歳 | 8. 75～79歳 | 9. 80歳以上 | |

問2 あなたの性別について、**あてはまるものを1つ**選び、番号に○をつけてください。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問3 あなたがお住まいの区について、**あてはまるものを1つ**選び、番号に○をつけてください。

- | | | | | |
|-----------|---------|---------|--------|---------|
| 1. 青葉区 | 2. 旭区 | 3. 泉区 | 4. 磯子区 | 5. 神奈川区 |
| 6. 金沢区 | 7. 港南区 | 8. 港北区 | 9. 栄区 | 10. 瀬谷区 |
| 11. 都筑区 | 12. 鶴見区 | 13. 戸塚区 | 14. 中区 | 15. 西区 |
| 16. 保土ヶ谷区 | 17. 緑区 | 18. 南区 | | (五十音順) |

問4 あなたの職業等について、**あてはまるものを1つ**選び、番号に○をつけてください。

- | | | | |
|--------|------------|--------------|----------|
| 1. 自営業 | 2. 会社員・公務員 | 3. パート・アルバイト | 4. 主婦・主夫 |
| 5. 学生 | 6. 無職 | 7. その他 | |

問5 あなたは、現在、高血圧や糖尿病などの慢性的な病気の治療や薬の処方を受けるため、病院又は診療所（クリニック等）（ただし歯科診療所は除く）を定期的（概ね1か月に1回以上）に受診していますか。

最も日常的に受診するものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | |
|--------------------------|
| 1. 市内の病院を受診している |
| 2. 市外の病院を受診している |
| 3. 市内の診療所（クリニック等）を受診している |
| 4. 市外の診療所（クリニック等）を受診している |
| 5. 受診していない |

用語解説

○ 診療所（クリニック等）

入院用のベッドを持たない又は20床未満のベッドを有し、主に日常の健康管理や比較的軽症の医療、必要時の専門医療機関への紹介等を行うための医療機関のこと

○ 病院

20床以上の入院用のベッドを有し、主に入院治療や手術を行うための医療機関のこと

【発熱（38度前後）やのどの痛みなどの比較的軽い症状のときの、あなたの行動や考え方についてお伺いします】

問6 あなたが、発熱（38度前後）やのどの痛みなどで心身の具合が悪いとき、最初に、あなたはどのような行動をとることが多いですか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 診療所（クリニック等）を受診する
2. 病院を受診する
3. 市販薬を飲む
4. 家で安静にする・休息する
5. その他（具体的に _____）
6. わからない

問7 あなたには、あなたの心身の状態をわかっていて、治療だけでなく日常の健康管理や相談ができる医師（かかりつけ医）がいますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. いる 【問8へ】
2. いない 【問9へ】

問8 問7で「1. いる」に○をつけた方に伺います。

あなたのかかりつけ医は次のどれですか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 自宅・職場等から近い身近な地域の診療所（クリニック等）の医師
2. 自宅・職場等から近い身近な地域の病院の医師（ベッド数が概ね200床未満）
3. ある程度大きな病院（ベッド数が概ね200床以上）の医師
4. 大学病院の医師
5. その他（具体的に _____）
6. わからない

問8を回答の方は、次ページの【問10】へお進みください

問9 問7で「2. いない」に○をつけた方に伺います。

かかりつけ医がいない理由は何ですか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 現在、健康でかかりつけ医を持つ必要がないから
2. 近くに適当な医療機関・医師がいないから
3. どのような医療機関・医師を選んでよいかわからないから
4. 医療費に対する経済的な負担が大きいと思うから
5. かかりつけ医は必要と思うが、どこに問い合わせれば良いかわからないから
6. 理由は特にない・わからない
7. その他（具体的に _____）

問10 あなたは、医療機関をどのような方法・手段で探していますか。

あてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 自宅や勤務先から近い医療機関を探す
2. 家族・知人・友人に聞く
3. 介護・看護関係者（ケアマネジャーや訪問看護師など）に聞く
4. 地域ケアプラザ（地域包括支援センター）に聞く
5. 薬局に聞く
6. 電話相談窓口（#7119、横浜市救急相談センター、横浜市医師会地域医療連携センターなど）で探す
7. 電話帳で探す
8. 雑誌、専門情報誌、書籍（ランキング本など）で探す
9. フリーペーパー（無料の情報誌）で探す
10. 自治体が作成している広報誌（暮らしのガイドなど）で探す
11. 市役所・区役所などの自治体のホームページで探す
12. 医師会などの医療関係団体のホームページで探す
13. インターネットで探す(11.と12.のホームページを除く)
14. かかりつけ医を受診するので特に探さない
15. その他（具体的に)

問11 あなたは、受診する医療機関を選択するとき、診療科の他にどのような点を重視しますか。

あてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 自宅・職場等からの距離や交通の便の良さ
2. 診療日・診療時間など
3. 家族や知人など周囲の人からの評判の良さ
4. 設備（医療機器など）の充実
5. 医療機関・医師の診療実績・専門分野
6. 医師の性別
7. 在宅対応（往診又は訪問診療）ができるか
8. 待ち時間の長さ
9. 病院等の相談室、医療専門職による相談の充実
10. アメニティ（駐車場、子供のプレイルームなど）の充実
11. その他（具体的に)

【あなたやご家族が、大きな手術や長期の療養が必要な病気にかかったときの行動や考え方についてお伺いします】

問12 あなたやご家族が大きな手術や入院治療などを受ける医療機関を選ぶために、どのようなことを知りたいと考えますか。

あてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 自宅・職場等からの距離や交通の便
2. 家族や知人など周囲の人からの評判
3. 医療機関の規模（病床数、医師や看護師などのスタッフ数など）
4. 医療機関の設備（医療機器など）
5. 医療機関・医師の治療実績（治ゆ率、手術件数など）
6. 医療機関の対応可能な疾患・治療法
（【例】がんなどの場合に放射線治療ができる医療機関、抗がん剤治療ができる医療機関など）
7. 差額ベッド料金や標準的な治療費などの費用
8. 病室の広さや清潔性、駐車場の有無などのアメニティ
9. 医師の経歴
10. 病院等の相談機能、地域医療機関等との連携体制
11. 在宅医療などの退院後のフォロー体制
12. その他（具体的に _____)
13. 知りたいことはない・わからない

問13 問12で○をつけた情報について、あなたはどのような方法・手段で情報を集めますか。

あてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 家族・友人・知人に聞く
2. かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く
3. 医療機関の相談窓口に行く
4. 介護・看護関係者（ケアマネジャーや訪問看護師など）に聞く
5. 地域ケアプラザ（地域包括支援センター）に行く
6. 区役所等の自治体の窓口に行く
7. 雑誌、専門情報誌、書籍（ランキング本など）で調べる
8. インターネットで調べる
9. 医療機関の病気や治療に関する講演会等で話を聞く
10. その他（具体的に _____)
11. わからない

問14 あなたは、ご自分の病気や治療について知り、受ける医療をご自身で選択・決定するためには、何が必要と考えますか。

あてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 主治医による病状や治療方針の十分な説明
2. 病院等の相談室、医療専門職による相談の充実
3. セカンドオピニオンを受けられる環境整備
4. 医療に関する書籍や情報を集めた場所の提供（図書館や病院の医療情報コーナーなど）
5. 患者会・セルフサポートグループの活動の情報の提供
6. 医療に関する市民向けの講演会やイベント等の情報の提供
7. リビングウィルに関する知識の提供
8. その他（具体的に _____)
9. わからない

用語解説

セカンドオピニオン

治療や手術について、主治医以外の他の医療機関の医師の意見を求めること

患者会・セルフサポートグループ

特定の病気の患者や家族が集まって、情報交換などの活動をしている団体のこと

リビングウィル

自身が治療の選択について自分で判断できなくなった場合に備えて、どのような治療を受けたいかあるいは受けたくないか、自分で判断できなくなった場合に備えて代わりに誰に判断してもらいたいかをあらかじめ記載する書面のこと

問15 あなたが入院治療の後、引き続き自宅で療養生活を送ることになった場合、関心のあることはどのようなことですか。

あてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 療養環境（室内の段差をなくすなど）整備に関する事
2. 家族の肉体的・精神的な負担に関する事
3. 経済的な負担に関する事
4. 緊急時に入院できる施設（病院等）に関する事
5. 往診医や訪問看護師、ケアマネジャーなど在宅療養を担う医療サービス・介護サービスに関する事
6. 在宅で受けられる医療（入院時との違いなど）に関する事
7. 看取りに関する事
8. その他（具体的に _____)
9. 知りたいことはない・わからない

問16 問15で○をつけた情報について、あなたはどのような方法・手段で情報を集めますか。
あてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 家族・友人・知人に聞く
2. かかりつけ医・最初に受診した医療機関に聞く
3. 医療機関の相談窓口聞く
4. 介護・看護関係者（ケアマネジャーや訪問看護師など）に聞く
5. 地域ケアプラザ（地域包括支援センター）に聞く
6. 在宅医療連携拠点（在宅医療相談室）に聞く
7. 区役所等の自治体の窓口聞く
8. 雑誌、専門情報誌、書籍（ランキング本など）で調べる
9. インターネットで調べる
10. 医療機関の病気や治療に関する講演会等で話を聞く
11. その他（具体的に)
12. わからない

用語解説

○ 在宅医療連携拠点（在宅医療相談室）

疾病を抱えても市民の方が住み慣れた家等で療養生活し、継続的な在宅医療・介護を受けられるよう、横浜市医師会と協働し、18区に整備しています。在宅医療に関するご相談をケアマネジャーや市民の方から受けたり、在宅医療を担う医師への支援を行っています。

【急病時の対応についてお伺いします】

問17 横浜市では、急な病気やけがのときに電話相談ができる、救急相談センター（#7119）を設置していますが、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 知っていて、利用したことがある 【→問18へ】
2. 知っているが、利用したことはない 【→問21へ】
3. 知らなかったが、今後利用してみたい 【→問21へ】
4. 知らないし、利用しないと思う 【→問21へ】

問18 問17で「1. 知っていて、利用したことがある」に○をつけた方に伺います。

利用された際の印象はいかがでしたか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 役立った
2. どちらかと言えば、役立った
3. どちらかと言えば、役立たなかった
4. 役立たなかった

問19 問17で「1. 知っていて、利用したことがある」に○をつけた方に伺います。

利用された際のご自身の想定と助言の内容について、あてはまるものを全て選び、番号に○をつけてください。

1. 救急車を呼ぶつもりだったが、その必要はないと助言をうけた
2. (救急車を使わず)すぐに受診するつもりだったが、翌日以降まで経過をみてよいと助言をうけた
3. 自身で思っていた通りの助言だった
4. 救急車を呼ぶつもりはなかったが、念のため相談したところ、救急車を呼ぶように助言をうけた (又は119へ電話を転送した)
5. 経過をみるつもりでいたが、念のため相談したところ、(救急車を使う必要はないが)すぐに受診するように助言をうけた

問20 問17で「1. 知っていて、利用したことがある」に○をつけた方に伺います。

利用された際の助言をうけてどう行動されましたか。

あてはまるものを全て選び、番号に○をつけてください。

1. 助言通りに受診又は救急車を呼んだ、又は助言通りに様子を見た
2. 受診又は救急車が必要と助言されたが、様子を見た
3. 救急車以外で受診するよう助言されたが、救急車に依頼した
4. 経過をみるつもりでいた又は翌日以降の受診を助言されたが、すぐに受診した

問21 横浜市では、急な病気やけがのときに、パソコンやスマートフォンで緊急性や受診の必要性を確認できる「救急受診ガイド」を運用していますが、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 知っていて、利用したことがある
2. 知っていて、利用したことはない
3. 知らなかったが、今後利用したい
4. 知らないし、利用しないと思う

【がん対策についてお伺いします】

問22 がんの専門的な医療を提供する医療機関として、国や神奈川県が一定の基準により指定する「都道府県がん診療連携拠点病院」、「地域がん診療連携拠点病院」、「神奈川県がん診療連携指定病院」がありますが、そこではその病院にかかっていない人も相談をすることができる「がん相談支援センター」が設置されていることを知っていますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 知っていて、どの医療機関に設置されているかわかる
2. 知っているが、どの医療機関に設置されているかはわからない
3. 聞いたことはある
4. 知らない

問23 あなたやあなたの身近な方ががんにかかった場合、仕事や家事などの日常生活とがんの治療の両立はできると思いますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 両立できる
2. 条件が整えば両立できる
3. 両立できない
4. 治療に専念したいので、両立したいと思わない
5. その他 ()

問24 問23で「2. 条件が整えば両立できる」に○をつけた方に伺います。

それはどのような条件ですか。

あてはまるものを全て選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 症状や体力的な問題 | 2. 意欲など精神的な問題 |
| 3. 職場の理解、制度 | 4. 家族の理解、協力 |
| 5. 治療の方法やスケジュール | 6. その他 () |

問25 あなたやあなたの身近な方が、がんの痛みがある場合に緩和ケアを受ける場所として、希望する場所はどこですか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------|---------------------|
| 1. 自宅 | 2. がん診療を専門的に扱っている病院 |
| 3. 一般的な病院 | 4. その他 () |

用語解説

○ 緩和ケア

緩和ケアとは、がんの患者さんの体や心のつらさを和らげ、生活やその人らしさを大切にする考え方です。緩和ケアは、がんが進行してからだけではなく、がんが診断された時から必要に応じて行われるものです。また、がんの治療中かどうかや入院外来、在宅医療などの場を問わず、いずれの状況でも受けることができます。

【健康や感染症の予防についてお伺いします】

問26 健康でいられるように日頃の生活で気をつけていることがありますか。

あてはまるものを全て選び、番号に○をつけてください。

1. 食生活
2. 運動をする
3. 規則正しい生活
4. 十分な睡眠
5. 手を洗う
6. うがい
7. 人ごみに出かけるときは、マスクをする
8. 健康診断やがん検診を定期的に受ける
9. その他 ()
10. 特になし

問27 感染症の予防のために日頃の生活で気をつけていることがありますか。

あてはまるものを全て選び、番号に○をつけてください。

1. 石けんで手を洗う(帰宅時、食事前、トイレの後、動物に触った後等)
2. 咳やくしゃみが出るときはマスクをする(咳エチケット)
3. 予防接種を受ける(家族に受けさせる)
4. 肉類は十分加熱して食べる
5. 屋外活動時は虫よけ剤を使う
6. ペット動物との過度な接触(キス、スプーンや箸の共用など)を避ける
7. 海外に行くときは渡航先の感染症情報をチェックする
8. その他 ()

問28 感染症の名前について、知っているものを全て選び、番号に○をつけてください。

1. インフルエンザ
2. 感染性胃腸炎(ノロウイルスやロタウイルスなど)
3. 腸管出血性大腸菌感染症(O157など)
4. デング熱
5. 麻しん(はしか)
6. 結核
7. エイズ

【こころの病気についてお伺いします】

問29 あなたやご家族が、こころの病気にかかったとき、どの医療機関を受診しますか。
あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 内科などの病院・診療所（クリニック等）
2. 心療内科診療所（クリニック等）
3. 精神科（神経内科）診療所（クリニック等）
4. 精神科（神経内科）病院
5. 総合病院

問30 あなたは、こころの病気の相談窓口について知っていますか。
あてはまるものを全て選び、番号に○をつけてください。

1. 最寄りの区役所（福祉保健センターなど）
2. こころの電話相談（こころの健康相談センター）
3. 精神科救急医療情報窓口
4. 横浜市総合保健医療センター
5. 横浜市精神障害者家族連合会
6. その他（）
7. 1～6のどれも知らない

【歯と歯科診療についてお伺いします】

問31 あなたは、歯や口の状態について何か気になるところがありますか。
あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. はい 【問32へ】
2. いいえ 【問33へ】

問32 問31で「1. はい」に○をつけた方に伺います。
それはどのような症状ですか。
あてはまるものを全て選び、番号に○をつけてください。

1. 歯が痛んだりしみたりする
2. 歯ぐきが腫れたり出血する
3. 歯がぐらぐらする
4. 硬いものがかみにくい
5. 食べ物が歯と歯の間にはさまる
6. かむ・味わう・飲み込む事に不自由がある
7. 口臭が気になる
8. 入れ歯が合わない
9. その他（）

【薬と薬局についてお伺いします】

問38 あなたは、後発医薬品（ジェネリック医薬品）を積極的に選びますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 積極的に選ぶ
2. 選びたくない
3. こだわらない
4. 知らない・聞いたことがない
5. その他（具体的に

)

問39 あなたは、かかりつけ薬局を決めておくすり手帳を活用していますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 薬局を決めていて、手帳を活用している 【問41へ】
2. 薬局を決めていて、手帳は活用していない 【問41へ】
3. 薬局を決めていて、手帳は知らない 【問41へ】
4. 薬局を決めていないが、手帳を活用している 【問40へ】
5. 薬局を決めておらず、手帳を活用していない 【問40へ】
6. 薬局を決めておらず、手帳は知らない 【問40へ】

問40 問39で「4. 薬局を決めていないが～」「5. 薬局を決めておらず、～」「6. 薬局を決めておらず、～」に○をつけた方に伺います。

かかりつけ薬局を決めていない理由は何ですか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 健康なので薬局に行くことはない
2. かかった病院や診療所の近くの薬局に行った方が便利だから
3. 営業時間など、その時の都合にあった薬局へ行くから
4. かかりつけ薬局を決める必要性がわからないから
5. 理由は特にない
6. その他（具体的に

)

【医療制度等についてお伺いします】

問41 医療機関には、

- 軽いけがや風邪等の入院や手術を伴わない軽症に対応する医療機関（一次）
 - 胃潰瘍など入院や手術を伴う重症に対応する医療機関（二次）
 - 交通事故による多発外傷など生命の危機に係わる症状に対応する医療機関（三次）
- とそれぞれ役割があり、役割に応じた医療機関を受診することが望ましいことを知っていますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 知っていて、どの医療機関が該当するかわかる
2. 知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない
3. 聞いたことはある
4. 知らない

問42 病院には、急性期病院、回復期リハビリテーション病院、療養を担う病院などがあり、それぞれの病院ごとに役割が違うことを知っていますか。

あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

1. 知っていて、どの医療機関が該当するかわかる
2. 知っているが、どの医療機関が該当するかはわからない
3. 聞いたことはある
4. 知らない

用語解説

○ 急性期病院

けがや病気の発症直後や手術の前後など、患者の症状が不安定な状態の時期（急性期）の医療に対応する病院。

○ 回復期リハビリテーション病院

脳卒中や大腿骨骨折などにより急性期の治療を行った後に、日常生活能力の向上による寝たきりの防止と在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に行う病院。

○ 療養を担う病院

急性期の治療などにより症状は安定しているものの、引き続き、医療的な対応が長期間必要な患者の入院に対応する病院。

【医療に関する情報と医療への満足度についてお伺いします】

問43 あなたが現在、医療について知りたい情報は何か。

あてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 所在地・診療科・診療時間等の医療機関の基本的情報に関すること
2. 医療機関・医師の診療実績・治療実績に関すること
3. 医療機関・医師の対応できる疾患・専門分野に関すること
4. 医療機関の病室の広さや清潔さなどのアメニティに関すること
5. (一般的な) 病気・病状に関すること
6. (一般的な) 病気の治療内容・入院期間に関すること
7. (一般的な) 病気の治療にかかる標準的な費用に関すること
8. 医療制度や医療提供体制に関すること
9. 医療費助成に関すること(高額療養費制度等)
10. 高度先端医療に関すること
11. 退院後の治療に関すること
12. 病院等の相談機能、地域医療機関等との連携体制
13. 在宅医療に関すること
14. 訪問診療・往診の提供に関すること
15. 歯科医師による訪問歯科診療に関すること
16. 薬剤師による訪問服薬指導に関すること
17. その他(具体的に)
18. 特にない・わからない

問44 問43で○をつけた情報について、あなたは、どのような方法・手段で情報を知りたいと考えますか。

あてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. 雑誌、専門情報誌、書籍(ランキング本など)で調べる
2. 自治体が作成している広報誌(暮らしのガイドなど)で調べる
3. 市役所・区役所などのホームページで調べる
4. 医師会などの医療関係団体のホームページで調べる
5. インターネットで調べる(3.と4.のホームページを除く)
6. 講演会などで医師から話を聞く
7. 医療機関で主治医から聞く
8. 医療機関の相談窓口に行く
9. 地域の薬局などで薬剤師から聞く
10. 介護・看護関係者(ケアマネジャーや訪問看護師など)に聞く
11. 区役所の窓口や電話相談で聞く
12. 地域ケアプラザに行く
13. 家族や知人など周囲の人から聞く
14. 医師会などの医療関係団体に聞く
15. 在宅医療連携拠点(在宅医療相談室)に行く
16. その他(具体的に)

問45 横浜市の医療などに満足していますか。

次のそれぞれの項目ごとに、あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけてください。

(※ご自身が直接かかったことのない場合でも、身近な方がかかったなど関わりがある場合は、その状況を踏まえてお答えください。)

	1 満足	2 やや満足	3 やや不満	4 不満	5 わからない
【記入例】〇〇〇について	1	②	3	4	5
1. がんの診療について	1	2	3	4	5
2. 脳血管疾患(脳卒中)の診療について	1	2	3	4	5
3. 心臓疾患の診療について	1	2	3	4	5
4. 糖尿病の診療について	1	2	3	4	5
5. 精神科医療について	1	2	3	4	5
6. リハビリテーション医療について	1	2	3	4	5
7. 重い病気・難病などの診療について	1	2	3	4	5
8. 歯科医療について	1	2	3	4	5
9. 薬局について	1	2	3	4	5
10. 休日や夜間の医療について	1	2	3	4	5
11. 救急医療について	1	2	3	4	5
12. 災害時医療について	1	2	3	4	5
13. 産科・周産期医療について	1	2	3	4	5
14. 小児医療について	1	2	3	4	5
15. 在宅医療について	1	2	3	4	5
16. 人生の最終段階における医療について	1	2	3	4	5
17. 病院等の相談室・地域連携について	1	2	3	4	5
18. あなたが受診した医療機関で受けた診療について	1	2	3	4	5
19. 横浜の医療について(総合的に)	1	2	3	4	5

問46 あなたが、今後、充実を希望する医療は何ですか。
あてはまるものを2つまで選び、番号に○をつけてください。

1. がんに対する医療
2. 脳血管疾患(脳卒中)に対する医療
3. 心臓疾患に対する医療
4. 高血圧、糖尿病などの慢性疾患医療
5. アレルギーに関する医療
6. 精神科医療
7. 障害児・者に対する医療
8. 歯科医療
9. 救急医療
10. 災害時医療
11. 産科・周産期医療
12. 小児医療
13. 小児救急医療
14. 高齢者に対する在宅医療(在宅歯科医療、服薬指導、訪問看護等を含む)
15. 高齢者に対する入院医療(長期療養など)
16. 人生の最終段階における医療
17. 予防医学(健康診断、がん検診、人間ドック等)
18. 高齢者以外の在宅医療(在宅歯科医療、服薬指導、訪問看護等を含む)
19. その他(具体的に)
20. 特にない

用語解説

○ 人生の最終段階における医療

末期がんなどの患者に対して主に延命治療ではなく、身体的苦痛・精神的苦痛を軽減することによって残りの人生の質を向上することを目的とした療養法のこと。従来「終末期医療」と言われていましたが、最期まで尊厳を尊重した人間の生き方に着目した医療を目指すことが重要であるとの考え方に基づき、改められました。

ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒で、**12月26日(月)まで**にご投函ください。
(切手はいりません)

横浜市医療局医療政策課

〒231-0017 神奈川県横浜市中区港町1-1

TEL 045-671-2993 / FAX 045-664-3851

URL <http://www.city.yokohama.lg.jp/iryo/>